

北タイと東北タイの土器生産様式の 違いを生み出した背景

Factors which Produced Differences in Pottery-Production Mode between
Northern Thai and Northeastern Thai

小 林 正 史
徳 澤 啓 一
長 友 朋 子
北 野 博 司

1. 目的と方法

北タイと東北タイは、モチ米を主食とする、土器の種類は水甕と小型土鍋が主体である（土器の器種名もほぼ共通する）などの共通点がある一方、素地作り（特に混和材）、一次原形の成形、野焼きといった土器作り技術の違いが顕著である。両地域の間には自然環境、農業、土器作り村の立地などにおいても顕著な違いがあることから、これらの要素が土器作り技術の違いに影響している可能性が高い。そこで本稿では、北タイと東北タイの伝統的（＝窯とロクロを用いない）土器作りの生産様式の比較を通して、土器作り技術の違いを生み出した要因を明らかにする。

本稿での土器生産様式とは、「土器作りに費やす労働の総量とその時間的配分」、「世帯内での男女の分業（労働力の配分）」、「生産性と生産規模（需要規模を反映）」などの要素から構成される。フルタイム、パートタイムといった専門度を示す用語は個人を単位として使われることが多いが、本稿では土器作りの専門度を世帯（経済的単位であり、調理・飲食を共に行う）単位で検討する。というのは、東北タイや南アジアのように主婦と夫が役割を分担しながら家族ぐるみで土器作りを行っている例も多いからである。このように定義した土器作り専門度は「世帯収入に占める土器作り収入の比率」に最も良く反映されるが、農業も行っている土器作り世帯では収穫物は自給用でもあるため世帯収入を算定することが難しい場合が多い。さらに、聞き取り調査において各世帯の賃金収入や土器作り収入を把握することは容易ではない。そこで本稿では、「各世帯の全労働力（人数×日数）の何割を土器作りに費やしているか」および「一人1日当たりの生産個数（各製作者の生産性）」の2要素によって各世帯の土器生産規模（＝土器需要）が決定されるとみなし、土器作り専門度の規定要因を「性別による分業（世帯内の労働力をどの程度、どのように土器作りに配分しているか）」、「土器作りに費やす時間（農作業などとの兼ね合いに基づく季節性など）」、「生産効率（1日当り生産個数）」に絞り込んで検討する。これらの要素は以下のように土器作り技術と関連する。

まず、男女間の分業のあり方は土器作り技術と強い関連を示す。男性が土器を成形する場合は女性も含めた世帯全体で土器作りを行うことが多いのに対し、女性が土器成形を行う場合は、男性が従事する生業が世帯収入の主体をなすことが多い。文化人類学者マードックが世界の106の民族誌を通文化比較した性別分業のデータによれば、土器作りを女性優位労働とするのは約8割におよぶが、これらはロクロを使わない非専門的な土器作りである (Arnold1985)。日本の古代においても、その伝統をひく土師器を平城京では女性が作っていたことを示す史料が残されている(「浄清所解」大日本古文書3-412・11-350、長屋王家木簡「土師女」「瓮造女」)のに対し、専門的でロクロや窯を使用する須恵器では、『日本書紀』の開窯伝承や作者名を記した若干のへう書き文字(陶邑KM234号窯陶棺など)から、主に男性が生産に従事したことがうかがわれる。このように、土器作りの専門度と男女の分業が関連する理由として、主生業である農業との兼ね合いがあげられる。

次に、土器作りの季節性は、燃料獲得コスト、土器乾燥度、成形・野焼きにおける雨季対策などに影響する点で、土器の成形・焼成技術と関連する。最後に、1日当たり生産個数は成形手法の選択に最も強く影響している。なお、土器作り村の生態環境は、粘土、混和材、燃料の薪・竹・稲藁といった原材料の入手コストや土器需要規模(=生産規模)に強く影響するので、土器作り技術に与える影響も大きい

土器生産様式の調査方法

本稿では北タイ・チェンマイ県のハンケオと東北タイ・マハサラカム県のモー村の土器生産様式の比較を行う。東北タイでは土器作り村が比較的多く存在するが(植崎ほか2000)、マハサラカム県モー村は中でも最も伝統的土器作りが活発であることから調査対象に選択した。一方、北タイでは伝統的土器作りを行う村が数箇所に限られているが、これまでたびたび調査が行われたため、過去の報告から歴史的变化をある程度検討できるハンケオを調査対象とした。

ハンケオ(クアン・ライ村)の調査は、2004年9月の予備調査(3日間)の後、2004年12月後半の約2週間、2005年8月中旬から9月上旬の約3週間、および9月下旬の3日間の計3回行われ、モー村の調査は2006年12月下旬から2007年1月上旬の約3週間行われた。両村での土器生産様式の調査では、共通した記録フォームを用いて現役土器作り世帯(各々約40人)に対して聞き取りを行った。聞き取り項目は、①土器作りのライフヒストリー、②世帯構成、③期間中の各日に成形・焼成された土器の種類と個数、④原材料と燃料の獲得方法とコスト、⑤土器販売方法、⑥土器使用状況、などである。以下にその概要を述べる。

ライフヒストリー:「土器作りをどのように習得したか」、「結婚や経済環境の変化に応じて土器作りがどう変化したか」、「母親の引退年令」、「土器作りを行っている(いた)姉妹の比率」、「土器作りを継承する娘の有無」などを記録した。また、両村の土器作りの大まかな変遷を記録した。

世帯構成:農地所有、日雇い労働、「夫の職業と土器作りへの関与状況」、農業と土器作りの経済的重要性、などを記録した。

土器作りスケジュール:ハンケオでは2004年12月後半～2005年1月上旬(乾季)と2005年8～9月(雨季)の2期間、モー村では2006年11月の稲刈り後から2007年1月上旬の期間において、原材料の入手、土練り、成形(午前と午後に分け、どの器種を何個、成形したか。成形は紐積

み一次成形と手持ち叩き二次成形に分けて記録)、野焼き(どの程度の量の燃料を用いて、どの器種を何個焼成したか)、販売(直接販売や仲買への引渡し)などの土器作り行動を日にちごとに記録した。調査期間以前の野焼きについては、前回、前々回と記憶している範囲で記録した。このような日々の土器作り行動を記録するため、調査期間中に数回にわたって各世帯を訪問し、毎日の生産(成形と野焼き)個数を把握するように努めた。この聞き取りデータを基にして、乾季と雨季の各々について、土器の成形・焼成・仲買への販売のサイクル、製作器種、他の生業への従事状況、などを検討した。

土器使用：土器作り世帯が保有している土器の個数と器種、用途、使用期間などを記録した。

2. 自然・社会環境

北タイ・ハンケオの立地と環境

ハンケオ地区の土器作りについては、高田 1975、瀬川 1983、植田・小川 1985、芦屋市淡神文化財協会 1991、などの報告がある。このように日本でも弥生土器との関連でたびたび紹介されてきた土器作り村ハンケオは、チェンマイ市街地から南へ車で 30 分ほどの距離にある。ハンドン郡ハンケオ地区(Thambon)には 9 つの村があり、現在近接した南部 3 村(ライ、クアン、ウアオライ)で土器が作られている。ウアオライ村の製作者は 5 名のみなものに対し、クアン・ライ村には計約 40 名おり、製作の中心をなしている。クアン・ライ両村は明瞭な道路や区画で区切られておらず、同じ土器作りグループに属する隣接した世帯がライ村とクアン村に区別されており、また、ライ村は主要道路(この右側と左側で土器作りグループのまとまりが異なる)をまたいで分布している。よって、本稿では両村を一つのまとまりとみなし「クアン・ライ村」と呼称する。

クアン・ライ村は、北タイ最大の都市チェンマイの近郊にある農村集落である。村のまわりには灌漑設備の整った水田や果樹園が広がる。北タイは東北タイと共に年間降水量が約 1200mm(ちなみに東京は 1500 mm)であり、水田稲作地帯としては少なめである。乾季はほとんど雨が降らないが、チェンマイ盆地ではムアンファイと呼ばれる小規模灌漑が伝統的に発達しており、2 期作も広く行われている。一期作目(販売用が多い)は 1 月末～2 月初に田植えを行い 7 月に収穫、二期作目(自給用が多い)は 8 月に田植えを行い 11 月～12 月上旬に収穫する。また、チェンマイはラムヤイ(日本語で竜眼)という果物が特産品であり、8 月にいっせいに収穫される。よって、土器作りはこれらの農繁期には規模が縮小される。

大都市近郊に位置するため、市街地や近郊の工業団地に定職を持つ人も多く、また、日雇い労働の機会も多い。電気、水道(集落共同井戸から)、LP ガスが普及し、車を持つ世帯も少なくない。畑は村はずれで野菜類や雑穀類をみかけたが小規模なもので、屋敷内にもあまり作らない。家のまわりたいていパパイヤやバナナの木が植えてあり、ブンタンやココヤシなどもあった。家や米倉は高床建築で、台所・トイレは別棟になっている。

婚姻後は母方居住で、姉妹の核家族世帯がそれぞれ住居を構え、ブロック塀や竹柵で囲まれたひとつの敷地内に両親と暮らしている。タイ北部などで女性による土器作りが現代まで伝えられてきたのはこのような結婚後の居住形態が一つの要因になったとみられる。この血縁的な拡大世帯が一所で作業をすることもあるが、生産手段の保有や受注など、土器作りの基本単位は世帯である。

東北タイ・モー村の立地と環境

マハサラカム市街地から北に約10km離れた近郊にあり、北に向かう国道沿いに立地する。村の生業は雨季の水田稲作が中心である。乾季ではトウモロコシ・サトウキビなどが一部の世帯により作られるのみであり、出稼ぎと土器作りが重要な生業である。村名のモーは土鍋を意味する。マハサラカム市はチェンマイ市に比べてはるかに人口・経済規模が小さいため、市街地に定職をもつモー村民の比率はハンケオよりもかなり低く、また、農地を持っていない人がバンコクなどの大都市に出稼ぎにでることが多い。また、耕地を持っている人でも農閑期の乾季にはバンコクに長期出稼ぎにでる人がかなり多くいる。

今回の調査時では、実際に活動している(過去1年間に土器を製作した)製作者は約40人であり、この他に成形の最終工程(仕上げタタキ)のみを手伝う、半分引退した(自世帯で原材料の入手、素地作り、焼成、販売を行わない)製作者(ヘルパーと呼称)が10数名程度存在した。ちなみに2002年に刊行されたレポートでは、村の180世帯の8割近くが土器作り世帯であると記されているが、この数字は完全に引退した製作者や、少女時代に土器作りを習得したが成人後は他の仕事についている人を含めていると思われる。このように、1世代前には村の大半の世帯が土器作りに従事していた点で、ハンケオよりも生業に占める土器作りの比率が高い。

東北タイ(イサーン)では、①北タイと同様に年間降水量が1200mmと少なめである、②標高100m台の台地で構成され、山や大河が乏しいため、灌漑用水を得にくい、③土壌が塩分を含んでいる、などの制約から、農業は雨季の天水田稲作が中心であり、その生産性も低い。このため東北タイは国内でも最も貧しい地域とされ、バンコクなどの大都市への出稼ぎが盛んな地域として知られてきた。

天水田による稲作は、4月中旬の水かけ祭りの後に準備を始め、雨が降り始める5月から6月にかけて代掻きや苗代作り、7月に田植えをし、11月に収穫する。灌漑が発達したチェンマイ盆地と異なり、東北タイでは12月～5月が農閑期となる。このため、「雨季の水田稲作と乾季の土器作り」という組み合わせが一般的であり、乾季の農閑期には夫も加わって世帯単位で土器作りを行う。

なお、モー村には湖があり、20年ほど前に灌漑用の小規模ダムが作られたが、灌漑は雨季の天水を補うものであり、乾季には稲作は行われぬ。

また、塩分を多く含んだ地下水(井戸水)は飲み水や農業用水に使えないので、雨季に雨水をコンクリート製の大型(容量約1.2キロリットル)数個に貯蔵し、雨がほとんど降らない乾季の飲用水や生活用水として利用している。

土器作り村の立地

北タイでは、チェンマイ、ランパーン、チェンライ(現在は衰退)といった都市の近郊に比較的規模の大きな土器作り村が少数のみ存在するのに対し、東北タイでは都市からより離れた農村地域に20ヵ所以上の土器作り村がある(檜崎ほか2000)。この違いを生み出した理由として、北タイの土器作り村は土器需要の多い大都市近郊に位置するため、少ない生産地で集中的に生産を行うのに対し、東北タイでは広域の農村部での土器需要が中心になるため、生産地がより分散することがあげられる。

土器を作る期間 (年間製作月数)

北タイ・ハンケオ：年間製作月数は「農繁期・雨季である6～9月」と「乾季だがイネの収穫期の12月」の土器製作に規定される。そこで、8・9月と12月の調査において記録した実際の土器製作状況と、聞き取りによる6～7月の土器製作(野焼き)状況を組み合わせることにより、各製作者の年間製作月数を集計した(付表3)。例えば、H100は、雨季の農繁期後8月下旬に土器作りを再開し、その「前回の焼成」が7月中旬だったことが8・9月の調査で記録されている。そして、11・12月は製作を行っていないことから「7月後半～8月と11～12月は製作せず」と記載された。この値を「1年の何ヶ月間土器を作っているか」の聞き取りデータと付き合わせるにより検証した結果、後述の7人の製作者を除き矛盾がなかった。

これらの記録から年間製作月数を「通年」(12人)、「10ヶ月」(15人)、「9ヶ月未満」(13人)の3つに類型化した。「通年」類型は農繁期の7～8月に1～2週間製作を休止する例(H49・50・97・117)および、例年は通年製作だが2005年のみ病気で休止した製作者(H92・r53)を含んでいる。「10ヶ月」類型は「7・8月は製作しない」が大多数を占めるが、「8・9月は製作しない」も1例ある。「9ヶ月未満」類型は「6～8月休止」、「7～9月休止」、「7～8月と11～12月に休止」などがある。また、土器製作記録だけでは不明な点が多かったため、「年間何ヶ月製作するか」という直接的な聞き取りの結果を参考にして「9ヶ月」類型に含めた製作者が7人いた(51・63・65・66・105・rw35)。

集計の結果、「通年」類型が3割を占めることから(図1、表1a)、雨季の7・8月は乾燥時間をより多く必要とするものの、土器の成形・焼成は十分可能といえる。即ち、土器作りの長期休止の要因は(雨ではなく)農作業であり、農作業の重要性に応じて「7・8月の農繁期も1～2週間を除き土器作りを継続する」(通年類型)、「7・8月のみ土器作りを休止する」(10ヶ月類型)、「7・8月と11・12月の両農繁期に土器作りを休止する」(9ヶ月未満類型)、「6月から9月の間に長期にわたり土器作りを休止する」(9ヶ月未満類型)というバリエーションが存在する。

東北タイ・モー村：各世帯の毎月の生業を聞き取り調査した結果、以下のような季節的変化が観察された。土器作りをはじめるのは稲刈りが終了後(11月中旬が多いが、正月休み明けまで遅れる世帯も少数ある)である。年末・年始は働き手がバンコクなどの出稼ぎ先から里帰りするため、1週間程度土器作りを休止する世帯が大半を占める。土器作りは農作業がほとんどない12～5月に活発に行われる(ただし、4月中旬の水祭りには出稼ぎ先からの里帰りがあるため、1週間程度休止する)が、雨季が始まる5月から水田稲作の準備が始まり、6～7月は土器を作る場合でも生産個数は少なくなる。8～11月は年間製作の数世帯を除き土器を作らず、作る場合でも製作個数が少ない。特に、雨が最も多い8・9月は粘土採取やシャモット(チュア)を作る場所が水没することも多いので、土器作りが最も不活発になる。収穫直前の10月は農作業の量がやや減るので、数世帯が新たに土器作りを再開するが、11月の稲刈り期では通年製作の8世帯を除いて土器作りは行われない。

以上の年間スケジュールから、土器作り期間を「通年」8世帯、「乾季+10月(7～8ヶ月間)」3世帯、「乾季のみ(7ヶ月未満)」22世帯の3類に区分した。このほか、「今季から数年ぶりに製作を開始したため、年間製作月数が不明」が3例あった。ハンケオでは大多数が「7ヶ月以上」なのに対して、モー村では「7ヶ月以上」は4割未満にすぎず、乾季中心の土器作りである(図1)。

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

表1 ハンケオ(左)とモー村(右)の製作者年齢と土器製作属性との関連

ハンケオ					モー村						
	40代	50代	60代以上	不明	総計		30代	40代	50代	60代	総計
a. 年間土器制作月数						年間土器制作月数					
9ヶ月以下	2	3	8		13	乾季のみ	4	9	8	1	22
10ヶ月	3	6	3	3	15	乾季+10月	1	1		1	3
通年	5	2	5		12	通年		2	4	2	8
休止	1	1			2	just started			2	1	3
b. 製作開始年齢の平均						製作開始年齢の平均					
12.7 11.7 14.4 13.1						14 15.1 13.9 13.2 14.2					
c. 土器作り再開						土器作り再開					
断絶なし						断絶なし	1	3	7	1	12
BKKから帰り、土器作り再開						BKKから帰り、土器作り再開	4	6	2	4	16
他村から嫁入り						他村から嫁入り		2	2		4
不明						不明		1	3		4
d. 母の引退年代						母の引退年代					
40代						40代	1				1
50代	1	3	4		8	50代			5		5
60代	4	2	3		9	60代	3	9	6	2	20
70以上	3	5	6		14	70以上					
現役	1				1	現役	1	1			2
早世・病氣	2	2			4	早世・病氣		1	2	2	5
母が制作せず			1		1	母が制作せず		1			1
不明			2	3	4	不明			1	1	2
平均引退年齢 67.3 65.8 62.8 64.9											
e. 姉妹の土器制作者						姉妹の土器制作者					
姉妹の全て	4	4	6		14	姉妹の全て		3	3	1	7
過半数	5	3	3		11	過半数	1	2	7		10
半数	1	3	6		10	半数	1	2	1	1	5
半数未満	1	2	1		4	半数未満	2	2	1	1	6
姉妹なし/不明				3	3	姉妹なし/不明	1	2	2	2	7
f. 耕地面積						耕地面積					
10ライ以上		1	1		2	10ライ以上	2	1	1		4
10ライ未満	2	5	8		15	10ライ未満		4	2		6
耕地なし	9	6	7		22	rent	2	3	2	2	9
不明				3	3	耕地なし	1	4	9	3	17
g. 夫の仕事						夫の仕事					
土器仲買	1				1	粘土採取、chua制作、販売		1	5		6
農場	1	2	3		6	粘土採取、chua制作	2	6	3		11
農業+日雇い	1	1			2	粘土採取		1		1	2
日雇い	1	4			5	土器販売	1	1		1	3
定職	4		1		5	定職	2	2	1		5
仕事なし(退職)			6		6	仕事なし(退職)					
不明				3	3	不明			1	2	3
夫なし	3	5	6		14	夫なし		1	4	1	6
総計 11 12 16 3 42						総計 5 12 14 5 36					
h. 制作器種						制作器種					
大型主体	4	2	9		15	水甕主体	4	3	2		9
小型主体	2	4	2		8	小型鍋主体		3	2	2	7
乾季小型、雨季大型	1	3	2		6	多様	1	6	11	3	20
雨季小型、乾季大型	1	1			2						
多様		1	1		2						
不明	3	1	2	3	9						
小計(重複あり)	11	12	16								
i. 1日成形個数						1日成形個数					
10未満		1	3		4	10未満	1	2	3	1	7
10~12個						10~12個	1	1	2	1	5
15未満	7	5	6	2	20	15未満	3	5	1	2	11
15~19	4	4	2	1	11	15~19		3	3		6
20~30個						20~30個		1	1		2
不明		2	5		7	不明			4	1	5
平均個数 13.5個 14.1個 11.3個 12.3個						平均個数 13.0個					
						稲刈り後、1月上旬までの生産個数					
						1月以降に生産開始					
						100個未満					
						250個未満					
						400個未満					
						400個以上					

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

表1のつづき (左はハンケオ、右はモー村)

j. 12月焼成回数						12月焼成回数					
なし	1	2	2	5	5	yet			2	2	4
1~2回		2	4	6	6	1~2回	3	7	3	1	14
3-4回	3	4	6	13	13	3-4回	1	3	5		9
4回以上	4	2	1	7	7	5				1	1
休止中		1	1	2	2	焼成しない	1	2	3	1	7
不明	3	1	2	3	9	不明			1		1
k. 8月焼成回数											
なし	7	2	6	1	16						
1~2回	1	7	7	2	17						
3回	1	1			2						
週1回	2	1	2		5						
休止中		1	1		2						
l. 9月焼成回数											
なし	3	1	1		5						
1~2回		2	3		5						
2回以上	2	1			3						
週1回	1	3	3		7						
休止中		1	1		2						
不明	5	4	8	3	20						
m. 販売						販売					
夫が仲買	1				1	直接販売	1	2	5	1	9
注文を受けて制作	9	7	8		24	注文を受けて制作	3	8	6	2	19
after+before		3	2		5						
制作後に仲買が買い付け	1	1	6		8						
未焼成土器を売る						未焼成土器を売る	1	2	2	2	7
不明		1		3	4	不明			1		1
総計	11	12	16	3	42	総計	5	12	14	5	36
n. 粘土						粘土					
夫が掘る						夫が掘る	2	7	6	1	16
購入+自主採掘						購入+自主採掘		1	1		2
buy amount unknown	1			3	4	購入	3	4	7	4	18
buy under 600B/yr	2	1	5		8						
buy under 1000B	6	6	10		22						
buy over 1000B	2	5	1		8						
o. 砂						シャモット (チュア)					
購入 (金額不明)	3	7	7	3	20	自主制作	2	4	8		14
pay under 800B /yr	2	1	6		9	自主制作+購入	1	2			3
pay 1000B /yr	4	3	2		9	購入	2	5	6	4	17
pay over 1000B /yr	2	1	1		4	焼成した chua を購入		1		1	2
p. 赤色顔料											
under100	2	3	5		10						
under250	6	5	3		14						
over250	1	1	3		5						
不明	2	3	5	3	13						
q. 薪燃料						薪燃料					
自給 (無料)						自給 (無料)	3	7	5	1	16
自給+購入						自給+購入	1	1	3		5
購入	4	1	2		7	購入		3	2	3	8
薪を使わず竹のみ	6	11	11		28						
不明	1		3	3	7	自分で焼成しない	1	1	3	1	6
						不明			1		
r. 竹燃料											
自給 (無料)	1	6	5		12						
buy under 1000B /yr	5	2	5		12						
buy over 1000B /yr	4	3	2		9						
不明	1	1	4	3	9						
s. 稲藁						稲藁					
自給 (無料)	2	4	6		12	自給 (無料)	2	6	1		9
自給+購入						自給+購入	1	2	2	3	8
購入 (金額不明)	1	1	1	3	6	購入 (金額不明)	1	3	8	1	13
pay under 350B /yr	3	3	3		9						
pay under 700B /yr	2	2	5		9						
pay over 800B /yr	3	2	1		6						
						自分で焼成しない	1	1	3	1	6
t. 土練り						土練り					
夫	2	2	3		7	夫	2	7	4	1	14
制作者	3	4	6		12	制作者		1		1	2
夫+雇い						夫+雇い	1	3	2		6
制作者+雇い						制作者+雇い			1		1
雇い	6	6	7		19	雇い	1	1	5	2	9
不明				3	3	不明	1		2	1	4
u. 成形ヘルパー						成形ヘルパー					
使用						使用		8	3	2	13
土器制作者のみ	11	12	16	3	42	土器制作者のみ	4		5	1	10
不明						不明	1	4	6	2	13
総計	11	12	16	3	42	総計	5	12	14	5	36

3. 土器作り世帯の社会・経済的特徴

製作者のライフヒストリー (付表1)

土器作りを習い始める年齢は、ハンケオ・東北タイ共に、小学校を卒業した12～14才が大半を占める。現在活動中の製作者が土器作りを習い始めた平均年齢はハンケオ13.1才、モー村14.2才である(表1b)。土器作りを習うのは母からが大多数を占め、この他は「叔母などの親族」が少数あるのみである。ただし、体系的に教えを受けるというよりは、母が製作する横で模倣することにより土器作り技術を習得する。最初は蓋などの比較的簡単に作れる器種から練習をはじめ、慣れるにつれて鍋や水甕へとレパートリーを広げる。習い始めてから数年後、遅くとも二十才までには一人前になり、販売できる品質と規格性を備えた土器を単独で製作できるようになる。

ハンケオでは、子どもの頃に土器作りを習得しても、学校卒業・成人後により高い収入を求めて土器作りから離れる傾向がある。また、17～18才から本格的に土器作りを始めた後、他の職業に従事して土器作りを一時的に休止する製作者も多い。長期間にわたって土器作りを中断した後、土器需要が高まった2000年以降に再開した製作者も目立つ。

東北タイのモー村では、学校を卒業後、17～18才になるとバンコクやコラートという大都市にいて数年間仕事をし、数年後に結婚などのために村に戻った後に土器作りを本格的に始めた例が半数近くを占める。一方、17～18才で本格的に土器作りを始めて以来、現在まで切れ目なく継続しているのは1/3程度である(表1c)。北タイ・東北タイともに母方居住が基本であるため、都市で仕事に就いたとしても、結婚すると村に戻り、実家かその近くに新居を構えることが多い。また、他の村(土器作り村を含む)から嫁入りした後、土器作りを本格的に始めた製作者も少数だが存在する。

製作者の年齢構成

ハンケオの現役製作者約40名の年齢構成(平均56.2才)は、60才以上が16名、50才代が12名、40才代が10名、30才代が1名のみ(39才)であり、若い世代ほど人数が減っている(図2)。一方、モー村はハンケオに比べて30才代の比率がやや高く、60才以上の比率が低い。ハンケオでは70才以上の現役製作者が4名いるのに対し、モー村では64才が最高齢である。また、現役製作者の母が土器作りから引退した年齢(40才代で早世・病気引退した例を除く)は、ハンケオでは50才代8人、60才代9人、70才代11人、80才代3人、平均64.9才なのに対し、モー村では60才程度でヘルパーに移行するか完全に引退する製作者が大半を占める(図3、表1d)。

東北タイの方が引退年齢が若い理由：モー村の方がハンケオよりも引退年齢が若いのは、出稼ぎに出ている子どもに代わって孫の世話をする必要があるためである。即ち、ハンケオはチェンマイという観光都市の近郊に立地し、かつ付近に工業団地があるため、働き手が実家から通える就職先や日雇いの仕事先が豊富にある。一方、モー村では地元のマハサラカム市での就職先が限られており、また、雨季のみの天水田農業のみでは十分な収入が得られないため、働き手がバンコクやコラートといった大都市に出稼ぎに行く世帯が多い。特に、農閑期の乾季に若い夫婦が子どもを祖父母に託して長期間出稼ぎする世帯が多い。このため、モー村の年配者は孫たちの世話

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

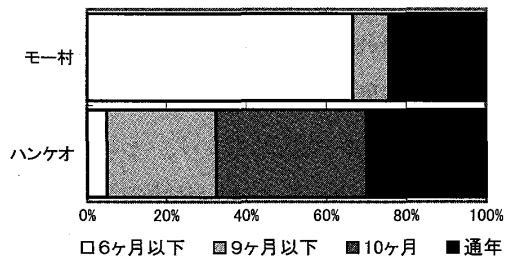


図1 年間土器作り月数

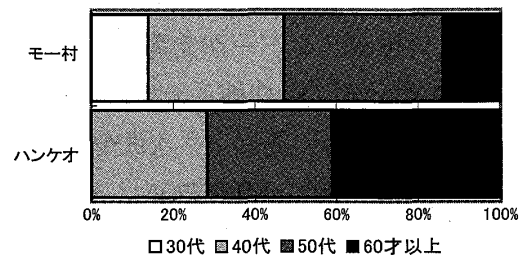


図2 制作者の年齢構成

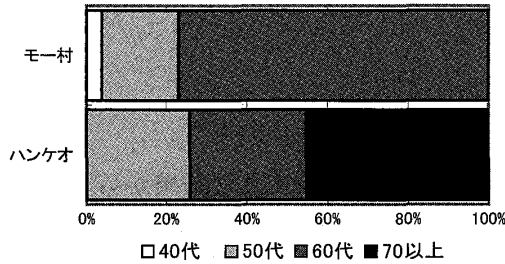


図3 母の引退年代

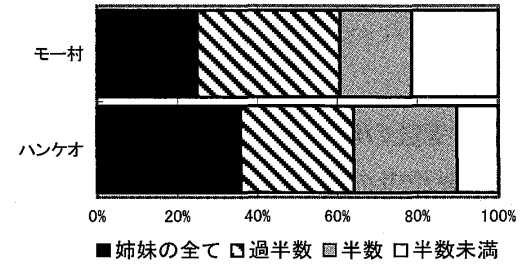


図4 姉妹が土器作りである比率

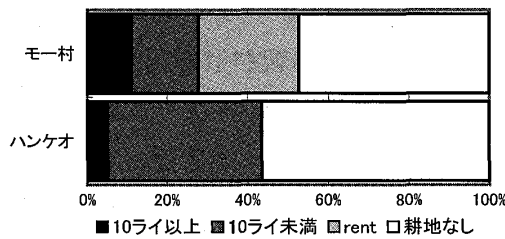


図5 耕地所有

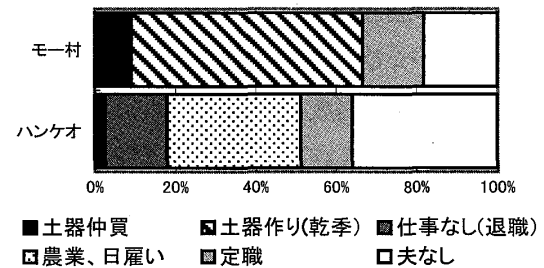


図6 夫の仕事

をする必要があり、土器作りから完全に引退するか、ヘルパーとして一時的に土器を作ることが多くなる。

ヘルパーは不定期な仕事なので今回の調査では全体を把握しきれなかったが、調査期間中にヘルパーを雇った事例が13があったことから、十名程度いると推定される。把握できたヘルパー8人は大半が50才以上であり、製作者(手伝い先)の姉妹や叔母といった近い親族の場合も多い。成形の最終工程である仕上げタタキのみを担当する例が多く、小型鍋は1個当たり1パーツ(約3円)、大型土器(水甕)は2パーツが支払われる。事前に数日間の約束で手伝えることが多いと思われるが、乾燥が進んでいる土器のタタキが間に合わなくなると、当日に急遽依頼される場合もある。これらのヘルパーの他に、より現役に近い形で同居する娘の土器作りを手伝える例が2世帯(H25・74)あった。土器製作者の母親は他の村から嫁入りしてきた1名を除いて土器製作者だったことから、ひと昔前までは同居する母と娘が協働して土器を作る世帯が多かった。しかし現在ではこのような世帯は激減した。

モー村の方が30代の比率が高い理由：モー村の方がハンケオよりも若い世代の製作者が多いのは、近隣に若い女性の就職先が少ないことが理由である。一方、ハンケオでは、大観光都市チェンマイの近郊に位置し、約30分の距離にランプーン工業団地もあるため、就職は容易である。チェンマイ県の公定最低賃金は1日150パーツであることから、夫や子どもが会社勤めの場合はそのサラリーの方が土器作り収入よりも多いと思われる。後述するように、ハンケオの土器作

り世帯では夫なし(14世帯)または「夫が仕事なしか日雇い」(11世帯)が過半数を占める、という事実は、「世帯メンバーが定職をもっている世帯の多くは土器作りを行わない」ことを示している。土器作りは、①技術さえあれば資本が必要ない、②仕事時間のある程度自分で調整できる(ただし、一次成形→乾燥→二次成形叩きという1日単位のサイクルは崩せない)、といった長所がある反面、収入面では会社勤めに比べて割の良い仕事とは言えない。さらに、流行のファッションに関心を持つ若い女性にとって、土と格闘する土器作りは「洗練されていない」というイメージがある。これらの理由から、40才未満の女性には土器作りを継承する者は皆無であり、主に賃金労働についている。

土器製作者数の変化

「現役製作者の姉妹や娘のうち何人が土器作りを行っているか」の聞き取り結果から土器製作者数の変化を検討した(図4、表1e)。「姉妹が土器作りをしている割合」については、ハンケオ・モー村共に「姉妹の過半数以上」(例えば3人中2名)が過半数を占める(各々、24/38例、17/29例)ことから、現役世代では土器作りを継承した女性が多かったと思われる。一方、製作者の娘が土器作りを行っているのはハンケオでは2世帯のみであり、うち1例は母親が引退間近か、他の1例では娘の生産個数はごくわずかである。モー村でも、上述の母親がヘルパーとして娘を手伝っている例が2世帯存在するのみである。モー村では子どもが土練りを手伝うことはあるが、土器作りを習っている10代の女性はほとんどいないようである。このように、ハンケオ、モー村ともに現役製作者の跡継ぎは殆どいない。

ハンケオでは2005年の調査時点で最も若い製作者が39才だったので、モー村と比べるために2006年時点に換算すると30代の製作者は皆無となってしまう。よって、現在40才代の製作者が70才代になる30年後には伝統的土器作りは消失しているだろう。また、モー村でも20代の製作者はいない。20才代後半に結婚を期にバンコクなどから村に戻って土器作りを再開する女性が全くいないとは言い切れないものの、現在30才代の製作者が標準引退年令(60才代前半)になる30年後にはハンケオ同様に伝統的土器作りがなくなっている可能性が高い。

耕地の所有

土器生産規模(年間製作個数)に強く影響する農業労働(所有の農地と日雇い労働)と農閑期の賃金労働(出稼ぎや日雇い労働)について検討する(図5、表1f)。ハンケオの土器製作世帯が所有する農地(水田とラムヤイ果樹園)面積を「10ライ以上(1ライは1600㎡)」「5～10ライ」「5ライ未満」「耕地なし」に区分して各別の比率をみると、「耕地なし」が過半数を占め、5ライ以上は2割未満しかいない。一方、モー村でも「耕地なし」が半数近くを占めるが、「10ライ以上」の比率がハンケオよりもやや多く、また、農地を借りて耕作している世帯が9世帯ある。2村とも土器製作者がいない世帯での聞き取りを行っていないため定量的な比較はできないが、土器作り世帯の方が農地の所有が少ないと推定される。このように、ハンケオ、モー村ともに土地を持たない世帯が土器作りに力を入れているが、モー村の方が土器製作者が農業を自営する(農地を借りる例を含む)程度がより高い。

男女の分業

ハンケオの製作者の多くは田植え、稲刈り、ラムヤイ収穫などの農繁期を除いて土器を作るのに対し、モー村の土器製作者(女性)は乾季のみ世帯単位で(夫と共に)集中的に土器作りを行い、雨季の間は自営(農地借用を含む)の水田稲作や日雇い労働に従事することが多い。この点は北タイと東北タイの地域差として一般化できる。このような地域差を生み出した理由の一つとして、夫の土器作りへの関与程度があげられる(図6、表1g)。

北タイ・ハンケオ：ハンケオでは、粘土・燃料の運搬、土練り(一部の世帯のみ)を除いた土器作り作業の大半を女性の製作者のみが行う。ハンケオの土器作り世帯では、夫が農業(通年)やビジネスの定職などに専従する世帯が12、「夫の仕事がない、または日雇い労働」が11世帯あり、土器作りに積極的に関与する夫は少ない。これは、上述のように大都市近郊に位置するハンケオでは定職や日雇い賃金労働の機会が豊富にあるためである。粘土、混和材(砂)、野焼き燃料の調達、東北タイでは夫の役割であるが、ハンケオでは専門業者から購入に頼っている。即ち、粘土と砂は全世帯が購入に頼り、野焼きの燃料(薪を用いる東北タイと異なり、竹が主体)も自給している比率(33世帯中12世帯)がモー村(29世帯中21世帯)よりも低い(図17・18、表1n～s)。

土練りは、専門業者の雇用(19世帯)と土器製作者自身(12世帯)が多く、夫が担当するのは7世帯のみである(図19、表1u)。なお、ハンケオの素地作りは、購入した粘土をいったん乾燥して粗割りした後、庭にある小さな水槽(1辺50cm、深さ50cm程度が多い)に数時間水浸けし、柔らかくなった粘土に砂を3割程度混ぜて足で練る。練り時間は乾季30分、雨季60分が目安である。土練りを専門業者(1回10パーツ)や夫が担当する場合でも、乾燥・粗割り・水浸けは女性の製作者が担当する。北タイの野焼きは、薪燃料節約型でこまめに週1回程度行うため、女性の製作者のみでも行うことができる。最後に、東北タイでは夫が他の村やポットショップへ直接販売する世帯もあるのに対し、ハンケオでは常に仲買が土器を受け取りに来て販売される(表1m)。

東北タイ・モー村：夫がビジネスの定職に専従するのは5世帯のみであり、大半の土器作り世帯では農閑期の乾季に夫が土器作りに積極的に関与する。夫の関与には、粘土・薪の獲得、シャモット(チュア)の成形と焼成、土練り、焼成、販売などの仕事がある。モー村の夫の関与程度を総合的にみると、「粘土採取とシャモット製作」が最も多く(11世帯)、「粘土採取・シャモット製作・土器の直接販売の3つ全て」(6世帯)、「粘土採取のみ」(3世帯)の順である(表1g)。

粘土は集落内の湖にもぐって採取されるが、約半数(18/36)の世帯では夫が採取する。北タイでは砂の代わりにシャモットを入れるが、その成形は夫が行う世帯(17)と専門職人からの購入に頼る世帯(19)がほぼ半々である。一方、シャモットの焼成(太薪を使って2～3日間野焼き)は土器焼成と同様に各世帯の夫婦協働で行うことが多い。土器焼成に用いる細薪は夫が集落内や道路沿いの街路樹から切り集める世帯が大半を占める(土器焼成を行う29世帯中21世帯)。土練りは、夫が担当する(部分的に専門職人に依頼する場合を含む)ことが最も多く(32世帯中16世帯)、常に専門職人(2～3人の男性)を雇う(9世帯)、土器製作者が担当する(3世帯)の順である。

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

東北タイの土器焼成は、1回に大量の薪(1回に平均165kg)と稲ワラ(1回に平均139kg)を消費するため、男性の関与が不可欠である。夫がいない世帯や出稼ぎ・仕事で野焼きに関与できない世帯では、未焼成土器を仲買や他の製作者に売るしかないが、売値は半分以下になる(表3)。このため、モー村では夫がなくなると土器作りを引退する(ヘルパーになる)ことが多く、夫がいない土器作り世帯の数(6世帯)がハンケオ(14世帯)よりも少ない。

まとめ：農村立地型の東北タイでは、①雨季には土器製作者も水田稲作(自営か日雇い)に専従する、②農作業がない乾季では夫が土器作りの原材料の調達、土練り、野焼き、販売を担当する(成形は女性のみ)、という生業の組み合わせなのに対し、都市近郊型の北タイでは女性が土器作り作業の大半を行うため年間を通しての土器作りが可能となる。そして、東北タイ、北タイともに、会社勤めなどの定職が得られるようになると伝統的土器作りから離れる傾向がある。

4. 器種構成

北タイ・ハンケオの伝統的器種

器種構成：ハンケオで50年以上前から作られてきた伝統的な器種として水甕モーナム、オカズ調理用鍋モーケン、大型オカズ用鍋モートム、炊飯用鍋モーカオの4種がある。また、米蒸し用湯沸し鍋モー・ヌンカオは、アルミ製湯沸し鍋に取って替わられて使用頻度が少ないが、かつてはより普及していた可能性がある。また、植木鉢もかつては作られていたが(植田・小川1985)、現在では窯焼き工場やモンカオケオ村(ランパーン県)などのより大規模な土器生産にとって替われ、ハンケオでの生産は観察できなかった。一方、近年作られ始めた非伝統的器種として、トムヤムセット(小型七輪とモーケンの組み合わせ)、小型モーナム(小物入れ)、モー・カ・ナム(葉草煎じ用のティーサーバー)、チキン・ロースター(内面に電熱線を貼り付ける)などがある。さらに、伝統的土器作りとは全く異なる電動ロクロと窯焼きの土器作りが、ハンケオの土器製作者のリーダーにより始められている。窯焼き土器は、実用品主体の伝統的器種とは異なり、小型カップ(白か黒の釉薬)、噴水、塑像などが作られている。以下、主要な伝統的器種について説明する。実測図は小林ほか2007(続編)の図3を参照。

水甕モーナム：肩の最大径部位に稜線があり、重心が高めで高台付きの無形壺である。東南アジアの水甕としては特異な形であるが、以下のように、水汲み機能、くみ出す機能、安定性(安置する機能)といった機能性と装飾性とのバランスを考慮した選択といえる。即ち、東南アジアの水甕は外反した頸部を持つ形が基本なのに対し、北タイ(ハンケオとモンカオケオ)の水甕が無頸壺である理由として、水飲み用として常に一定の場所に置かれ、水汲みに用いられないことがあげられる。一方、東南アジア島しょ部(フィリピン、インドネシア)の水甕は、水汲み(移動)と水飲み(安置)の両者に用いられるため、①水を注ぎ入れやすいように外反した頸部が付く、②頭上運搬に適する丸底(リング状の台に載せて運搬・安置する)、という形が選択される。また、水汲み機能の重要性がさらに高い南アジア(インド、バングラデシュ)では、①水の注ぎ入れと汲み出しに適するように頸部が長い、②傾けて水をくみ出しやすいように重心がやや高めであり、また、手で抱えやすいようにやや長胴気味である、という形が選択されている。北タイの

モンカオケオや東北タイでは伝統的には丸底水甕のみを用いていたが、近年になってから高台付きが現れた。後者は、水汲み機能が消失したことに加え、重心が高めの形を安定して支えるための工夫と思われる。

大きさは、通常サイズ(9.5%)が大半を占める、安定性を考慮してか薄手化されず、重量もかなり重い。なお、近年、水甕ではなく小物入れとして使われる小型(2%前後)や特小型(1%未満で、黒色化された上に彩色文様が付く場合もある)が少数だが作られはじめている。

モーカオ(モータム):「モー(土器)カオ(米飯)」とも呼ばれる。聞き取りによるとハンケオでもかつては炊飯に用いられており、モーカオによる炊飯のデモンストレーションも観察した。

チェンマイ県周辺の山岳少数民族は今も炊飯用に使うことがあるという。現在、チェンマイではモータムと呼ばれるが、オカズ用大型鍋モートムと混同しやすいことから本稿ではモーカオと呼ぶ。近年では炊飯に使うことは殆どなく、寺院への供物用容器(お金や小物を入れる)や骨壺として使われる。骨壺は火葬骨を入れて土の中に埋葬したり、川に流すが、土中に埋める場合は焼成しないモーカオを用いることも多い。これは、「焼かない土器は土にかえり、骨も大地にかえる」という信仰に基づいているという。ハンケオのポットショップではこのような未焼成のモーカオも多く売られていた。なお、隣接するランパーン県モンカオケオでは未焼成の骨壺はみられないが、これは骨を川に流したり、散布する方法が主流のためかもしれない。

ここで検討を要する点は、北タイは伝統的にはモチ米(蒸し調理をする)を主食とする地域であるにも関わらず、炊飯用鍋が多く作られていたことである。この点は、同じモチ米地域でありながら炊飯専用土鍋がみられない東北タイと対照的である。この違いは、以下のように、都市部でのウルチ米の普及に起因する可能性がある。即ち、近年、北タイ・東北タイともに、食事におけるオカズの重要性が増し、また、容易に炊飯ができる電気炊飯器が普及したため、ウルチ米を調理する頻度が徐々に高まっている。伝統的なモチ米はオカズが少ない食事にも適するのに対し、オカズの比重が高まるにつれて、オカズを米飯の上に載せて食べる比重が高まるため、オカズの煮汁を吸収しやすい(粘り気の少ない)ウルチ米が好まれるようになったと考えられる。農村部のハンケオにおいても、モチ米主体の世帯が主流を占めるが、夕食には炊飯器で炊いたウルチ米を食べる世帯も多い。チェンマイの都市部では、バンコク風のオカズが多めの食事がさらに普及していることから、ウルチ米(炊飯器で炊く)の比重がさらに高いことは疑いない。以上のような「オカズの種類・量と米の種類の結びつき」を考慮すると、大都市チェンマイの近郊では主食の蒸し米(モチ米)と並んでウルチ米を炊く調理が比較的古くから普及していたと推定される。そして、炊飯器の普及に伴って炊飯用鍋の需要が消失した後は、寺院の供物用や骨壺といった仏

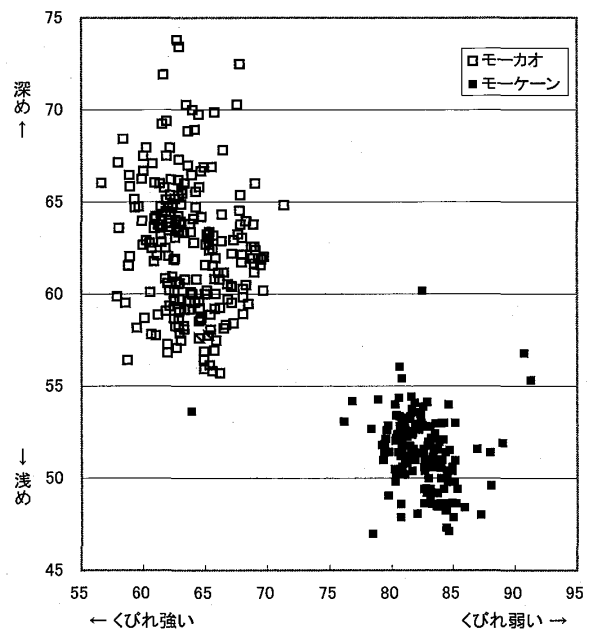


図7 相対的深さy軸と括れ度x軸によるハンケオの鍋の使い分け

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

教関連の用途に供されるようになったと思われる。一方、モチ米（蒸し米）に対するウルチ米（炊く調理）の重要性が低かった東北タイでは、炊飯専用鍋が成立せず、いきなり炊飯器の時代に到達した。

モーカオの形は、やや下膨らみである（最大径がやや下部にある）点はモーケンやモートムと共通するが、モーケンに比べて深めで括れが強い（図7）。即ち、括れ度（頸部最小径/胴部最大径x100）はモーカオ56～71、モーケン76～90と排他的な分布を示し、相対的深さ（器高/最大径x100）はモーカオ55～74、モーケン52～62と重複部を持つものの分布の中心は明らかにずれている。

稲作農耕民の炊飯用土鍋は、①オカズ用鍋に比べ、かき回しをせず、蓋が不可欠なため頸部の括れが強めである、②吹きこぼれを避ける必要がない（吹きこぼれをシグナルとして弱火・蒸らしに移行する）ため喫水線が高めなので、より上部まで炎が当たる球胴形である、という共通特徴があるが、ハンケオのモーカオも例外ではない。また、モーカオの時間的変化をみると、10年ほど前（吉野ヶ里での炎の博覧会など）ではかなり薄手だったが、近年は厚手になっている。この理由として、ハンケオの土器製作者たちは「近年は仲買がトラックで土器を運搬するようになったため薄手化する必要性がなくなった」と説明しているが、これに加えて、薄手で熱伝導率が高い方が適する炊飯に使われなくなったことがあげられる。このように、オカズ用に比べて①括れが強め、②球胴に近い、③伝統的には薄手、というモーカオの形・作りは、炊飯用に適した選択だった、といえる。

モーカオの容量は、通常型3㍓（頸までの容量）、小型2.5㍓に規格化されており、中部タイ、南アジアなどのウルチ米地域の炊飯用鍋に比べて大きめのサイズを欠いている。これは、モチ米主食地域の北タイでは、伝統的にウルチ米を炊く量が少なかったためかもしれない。

オカズ用鍋モーケン：スープの一種であるケンの調理に多く用いられることからモーケンと呼ばれる。炊飯用鍋モータムに比べ、浅めで、頸部の括れが弱い（図7）。2個1対の把手や蓋を伴うこともある。サイズは、通常型（頸まで2.5㍓でモーカオと大差ない）と大型yai（5㍓以上）とがあり、大型は胴上部にタタキ目が施される。

大型鍋モートム：トムはスープ類を示すことから、モートムは本来オカズ調理用だが、実際には粥、薬草煎じ、湯沸しなど多様な使われ方をされる。10㍓以上であることから、大人数用のオカズ調理に主に用いられる。同じくオカズ用鍋であるモーケンに比べると、①サイズが10㍓以上に限られる、②より深めである、③把手が付くことはない、④外面全体にタタキ目を付ける、などの違いがある。

東北タイ・モー村の伝統的器種

器種構成：東北タイの伝統的器種は、水甕モーナム、小型鍋モーケン・モーファン（3サイズがある）、繭を茹でる大型鍋モー・サオローが中心であり、植物の水遣り用のモー・クラタン、米蒸し用湯沸し鍋モー・ヌンカオも少数作られる。また、非伝統的器種としてトムヤム・セット（北タイと同様の作りだがスキヤキ・タイと呼称）、モー・カナム（ティーサーバー）が数人の製作者により少数のみ作られている。この他の非伝統的器種として、かつてはバンチェン土器（観光土産用）の

下請けをしていた製作者が数名いたが、現在ではやめている。また、ハンケオ同様に、水挽き成形、鑄込み成形、窯焼きによる陶器作りが JICA と地元大学の支援により数年前から始まっている。

このように、主要器種が水甕、小型鍋、大型鍋の3つから構成される点は北タイと共通しているので、以下ではハンケオと比べた際の主要器種の形・作りの特徴を検討する。

水甕モーナム：大型（頸までの容量約 16 ㍓）と通常型（約 9.5 ㍓）の 2 サイズがあり、通常型がハンケオの大きいサイズ（9.5 ㍓）に匹敵する。モー村に限らず、東北タイの水甕は北タイよりも容量が大きめである。この理由として、東北タイでは地下水が塩分や鉄分を多く含むため飲用に適さず、山や大河がないため水道水の質も良くないことから、雨水を大型タンクに貯めて乾季の飲用水や生活用水に用いることが多かったことがあげられる。即ち、天水タンクからの水の汲み出しは水道や井戸に比べて不便なため、一度に多くの水を蓄えられる大型水甕が多用されたと思われる。

水甕の形は、球胴に短い口頸部が付き、必ず蓋を伴う、という東南アジアの水甕に一般的な特徴をもっている。伝統的な丸底が高台付に変化したのは、プラスチック容器などの普及により水汲み機能がなくなり、据え置かれるのみになったためと推定される。装飾は、頸部下端に斜線文様が一行付くのみで、北タイに比べて質素である。

小型鍋モーケン・モーファン：調理用鍋にはモーケン大型 yai（頸まで約 5 ㍓）、モーケン小型 gen（頸まで 3.5 ㍓）、モーファン plala（約 2 ㍓）の 3 サイズがある。頸部の括れ度（62～65）や相対的深さ（66～69）は 3 サイズ間で大差なく（相似形に近い）、ハンケオのモーカオ（3 ㍓が標準サイズ）とほぼ共通する。伝統的には大きめの yai はオカズ調理、gen はモチコメを少量の水で煮る調理や湯沸し、小さめの plala は魚を発酵させた調味料プラーラ作り、という機能差が意識されてきた。しかし、現在では世帯での調理に使われることはなく、骨壺、調理用の消し炭入れ、小物入れ、集落外の農地での調理（金属鍋よりも安価のため盗まれても差し支えない）、などに使われる。骨壺として使われる時は、鍋に入れた水で遺体を洗った後、火葬場で壊されて廃棄される。

小型鍋（モーカオとモーケン）と大型鍋（モーケン・ヤイトモートム）から構成される北タイの調理用鍋と比べると、東北タイの調理用鍋は、①大型を欠く、②米調理用とオカズ調理用といった形の作り分けがなく、オカズ用鍋の括れ度が強めである（北タイの炊飯用鍋と共通）、などの違いがある。これらの違いを生み出した背景として、以下のような調理方法の違いがあげられる。まず、大型鍋を欠く理由として、米飯にカレーやオカズを掛けて食べる中部タイ（および、その影響を受けた北タイの都市部）と異なり、伝統的には蒸したモチ米が主食である東北タイでは、丸めたモチ米をナムブリック（和え物）、ラープ（肉や魚の叩いて和えたもの）、スープ状ケーンなどにディップして食べることが多いので、煮る調理自体が少ないことがあげられる。次に、口の開きが大きい（括れが弱い）鍋を欠く理由として、東北タイでは中部タイのような煮込み料理（カレー）がなく、スープ状のケーンが主体であるため、（炊飯同様に）かき回す必要性が低いことがあげられる。

大型鍋モー・サオロー：繭を煮る用途や、米蒸し調理の湯沸し用に使われる鍋である。モーケン・モーファンに比べて口頸部が長く、現在普及しているアルミ製の米蒸し用湯沸し鍋と類似した

形である。容量は大きめのものが10 ㍓であり、北タイの米蒸し用湯沸し鍋（外反する口頸部が長いモー・ヌン・カオ）に比べて大きめである。現在では、村の世帯内で使われることはほとんどなく、葬儀の際に遺体を洗うのに使われる（直後に壊されて火葬場裏に廃棄される）ことが多い。

その他：この他の伝統的器種として、伝統的モーナムに形・大きさが類似する植物水遣り用土器モー・クラタン MoKratang がある。この土器は屋外に植えられた果樹や植物の横に置かれ、土器の多孔性による水の染み出しにより徐々に植物に水を供給する。村内では他器種の再利用土器を含めて、このような使い方をされる例が多くみられた。モー・クラタンは伝統的な水甕モーナム（高台がない）と形・大きさが類似するが、蓋を伴わない点が異なる。

東北タイ・北タイ間の違いについてのまとめ

両地域の主要器種は水甕、小型鍋、大型鍋の3つから構成される点で共通する反面、各器種の作りには、①水甕・小型鍋ともに東北タイの方が北タイよりも容量が1.5倍ほど大きめである、②伝統的には炊飯用だったモーカオは北タイには存在する（ただし、用途は非調理用に変化）が東北タイには存在しない、③北タイの大型鍋（大型モーケンとモートム）は調理に用いられることが多いのに対し、東北タイの大型鍋（モーサオロー）はほとんど調理には用いられない、④北タイの小型鍋は形（括れ度、深さ、把手の有無）よりオカズ用（モーケン）と炊飯用（モーカオ）に明瞭に作り分けられているのに対し、東北タイの小型鍋は3サイズあるが形による作り分けはない（相似形である）、⑤東北タイの小型鍋（モーケン、モーフン）は北タイの小型鍋（モーカオ、モーケン）よりも括れが強めである、などの違いがみられた。これらの違いは上述したように、地下水の質①、調理方法②～④、養蚕の重要性③、蒸し米の湯沸しのための「自家製炭と七輪」という加熱施設の重要性⑤、などの理由によると考えられる。

5. 各器種の使われ方

土器作り世帯における土器の保有・使用状況と使用期間の記録をもとに、北タイ・ハンケオと東北タイ・モー村の各器種の屋内での使われ方を比較する（図8、表2、付表2）。

水甕モーナム

ハンケオでは、3世帯を除く全世帯において飲用水をためる水甕として使われている。数は1個（15世帯）か2個（12世帯）が多いが、3個（6世帯）や5個（1世帯）保有する世帯もある。使用期間は、2年以上が5世帯あるものの、大多数の世帯では4月の水かけ祭り時に新品に取り替えられる。

モー村では、28世帯中21世帯において1～2個保有される。世帯当たり平均は1.1個であり、ハンケオの1.7個よりも少ない。これは、大きめの分、複数保有する必要性が低いためかもしれない。大多数は水甕として使われるが、魚の一時的貯蔵用が30個中5個あった。また、東北タイでは4月の水かけ祭りに水甕を新品に取り替える風習がないため、ハンケオに比べて使用期間が長めである。

小型鍋モーケン・モーファン

ハンケオでは、37世帯中30世帯において1個(21世帯)か2個(9世帯)保有され、世帯当り平均は1.03個である。大多数がスープ(トムやケーン)調理に使われるが、湯沸し専用も1例ある。ハンケオでは、東北タイと同様に鍋を七輪に載せて調理することが多い。プロパンガスのコンロは普及しているが、コストが高いため日常調理にはあまり用いられない。土鍋は洗浄時に割れやすいため、世界各地の土器作り民族誌の比較分析では寿命が1年未満の例が大半を占める(Tani and Longacre 1999)が、ハンケオでも同様である。「1年に平均3個壊れる」と回答した世帯もある。ハンケオのモーケンの使用期間は1年以上が9世帯、1年未満が15世帯であり、比較的短めであることから、頻繁に使用されているといえる。ただし、「1年前に土鍋使用をやめた」と回答した世帯もあり、土器作り世帯においても土鍋の使用頻度が減っている。

モー村では、28世帯中12世帯で保有され、平均0.46個である。消し炭入れが大多数を占め、調理用はほとんどない。東北タイでは調理用の木炭を自家生産している世帯が多いため、消し炭入れが多く世帯で使われる。木炭と七輪(隣接するロイエット県の土器作り村で生産)の組み合わせを用いる世帯が多い。モーケンの平均使用期間がハンケオよりもやや長めであるが、この理由として、消し炭容器は動かされないで鍋よりも壊れる頻度が低いことあげられる。

小型鍋モーカオ

ハンケオでは5世帯において1個(3世帯)か2個(2世帯)保有される。薬草を煎じるのに使われる場合が多く(4世帯)、植木鉢として再利用される例もあるが(1世帯)、炊飯に用いる例はなかった。なお、モーカオの多くは上述のように埋葬用や寺への供物として使われている。使用期間は3年以上が4個(2世帯)ある。植木鉢としての再利用2個(1世帯)を含め、使用頻度が低いため比較的長期間使われることも多い。

大型鍋(モートム、大型モーケン、モーサオロー)

ハンケオでは18世帯において1個(14世帯)または2個(4世帯)使われる。全て調理用であり、スープ、カユ、薬草煎じ、湯沸し、などモーケンよりも用途が多様である。使用期間は2年以上が主体(14例中9例)で1年未満が少ないことから、使用頻度はモーケンよりも低い。容量が10ℓと大きいため、世帯内での平均保有数(0.6個)がモーケン(平均1.03個)よりも少ないが、屋外では家畜の餌入れ、野焼き時の灰(被覆材)貯蔵、など多様な再利用のされ方をしている。

非伝統的器種

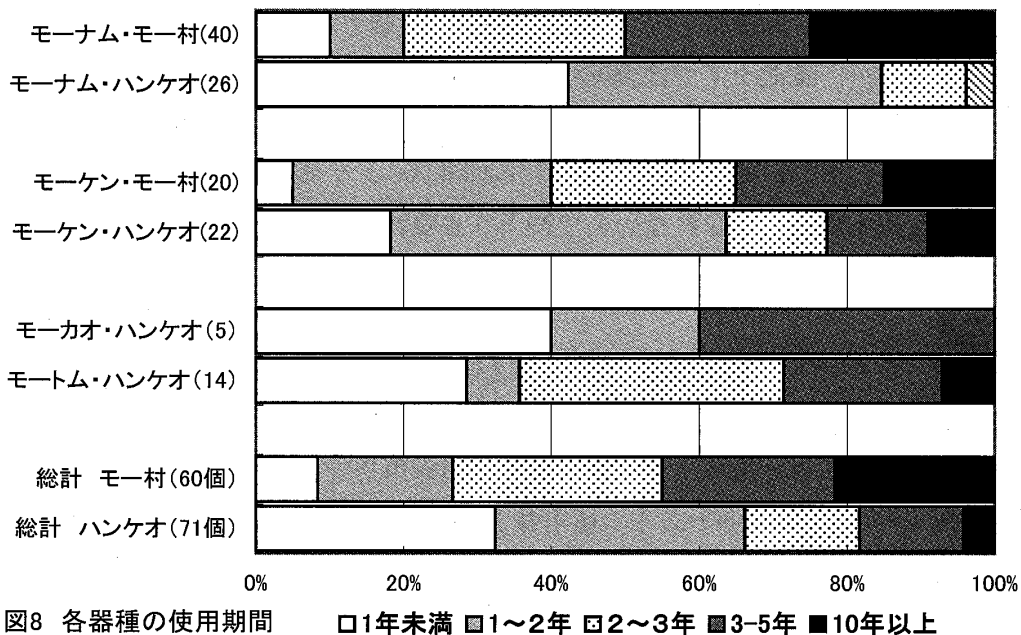
ハンケオでは、上述の4器種以外で記録されたのは、ティーサーバー1例、米蒸し用湯沸し鍋2例、チキンロースター1例のみだった。薬草煎じ用ティーサーバーは村内のポットショップ(仲買が経営)でも売られるが、陶磁器の方が主流のためか需要は少ない。蒸し米調理用のモーヌーン・カオは20～30年前から同型のアルミ鍋にとって代われ、土器の生産量は少ない。

モー村でも、水甕と小型鍋のほかにはティーサーバーが数個記録されたのみである。トムヤム

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

表2 土器制作者世帯で保有される土器の個数と用途

村	器種	容量ℓ	なしの1個の2個の3個5個					保有総数	世帯数	世帯当り保有個数	用途	平均保有年数	年間の取替え個数
			世帯数	世帯数	世帯数	個	個						
ハンケオ	水甕モーナム	大型9.5ℓ	3	15	12	6	1	62	37	1.68	水甕以外の使用は少ない	1.02	60.83
	小型鍋モーカオ	大型3、小型、2.5ℓ	32	3	2			7	37	0.19	薬草煎じ用5、花用2	2.00	3.50
	鍋モーケン	標準2.5ℓ	7	22	8			38	37	1.03	大半がスープ調理	2.27	16.72
	大型鍋モートム	大型10ℓ	19	14	4			22	37	0.59	スープや粥調理、湯沸	2.50	8.80
	チキンロースタ			1				1	37	0.03		4.00	0.25
	ティサーバー			2				2	37	0.05	薬草煎じ用	0.50	4.00
	モーヌンカオ			2				2	37	0.05	米蒸し用	1.00	2.00
総計							134	37	3.62		1.80	74.62	
モー村	小型鍋	大型5ℓ、中型3.5ℓ	16	11	1			13	28	0.46	大多数が消し炭入れ	3.18	4.09
	水甕	大型16ℓ、標準9.5ℓ	7	12	9			30	28	1.07	魚入れ5例	4.25	7.06
	総計							43	28	1.54		3.89	11.05



セット（東北タイではスキヤキ・タイと呼称）は世帯で使われることはないが、レストランでの卓上加熱調理（小型）や盛り付け用として比較的多くの需要がある。

ハンケオとモー村の土器使用状況の比較

北タイと東北タイの共通点：2地域に共通する特徴として以下の点があげられる。第一に、水甕は大半の世帯において使用されている。これは、土器の保冷機能（多孔質の器壁からの水漏れによる気化熱のため、中の水が冷たく保たれる）が乾燥地域において効果を発揮しているためである。特に、地下水や水道水が飲用に呈さない東北タイでは、水甕の重要性は高いと思われる。一方、冷蔵庫の普及により都市部・農村部ともに水甕や実目的で使う機会が減っている。

第二に、金属鍋の普及により土鍋が本来の用途に使われる機会が減っている。その反面、①伝統工芸品としての価値を見出されてモーケンやトムヤムセットがレストランで（調理だけでなく）盛り付け用に使われる、②北タイのモーカオや東北タイのモーケン、モー・サオローが骨壺、葬儀での遺体洗浄用容器（東北タイ）、寺院への供物などに使われる、③東北タイのモーケン・モー

ファンが消し炭入れとして使われる（自家製炭の使用と関連）、といった本来の機能とは異なる用途に用いられることにより、比較的多くの需要を維持している。特に、葬儀や寺院への供物に使われる土鍋は使い捨てされるので、水甕や鍋としての日常使用品に比べて需要が多い。

第三に、上述のデータは世帯内で使われる土器を対象としているが、屋外で再利用される土器も多い。例えば、大型のモーケンやモートムを家畜（農耕用牛など）の餌用、野焼きの灰貯蔵用、植物の水遣り用などに再利用している例が多くみられた。

最後に、製作される土器の大多数は交易用であり、自世帯で使われる比率は極めて低い。各器種の平均保有個数を平均寿命（1年未満は0.5年、10年以上は10年として計算）で割った「村全体での年間消費個数」は水甕が60.8個（ハンケオ）と7.1個（モー村）、鍋が29.0個（ハンケオ）と4.1個（モー村）であり、後述する生産個数に比べると極めて少ない。

2地域間の違い：以下の点があげられる。第一に、モー村の方が、①水甕・小型鍋ともに保有数が少ない、②水甕・小型鍋ともに平均寿命も長め、③小型鍋が本来の使い方をされる頻度が低い、などの点で自ら製作した土器の使用に対して消極的である。特に、モーケンは、北タイでは各世帯においてオカズ調理に用いられるのに対し、モー村では集落外の農地での調理に用いられることはあっても世帯内での調理に用いられることは殆どない。東北タイのモーケンが消し炭保存容器として多用されるのは、東北タイでは自家生産した炭を調理燃料として用いる習慣があるためである。なお、北タイの方が水甕の需要が多い理由として、4月の水かけ祭りソクランの際に新品に取り替える風習があげられる。

第二に、都市近郊型の北タイでは、トムヤムセットなどの非伝統的器種の重要性がより高いのに対し、農村での需要が多い東北タイでは水甕と鍋という伝統的器種が大多数を占める。

6. 製作される土器の種類と数

年間の生産器種組成

北タイのハンケオ：2004年12月と2005年8～9月の野焼き記録に基づいて、各製作者が「どの器種を何個製作したか」を集計した（付表4a）。この野焼き記録は、①「前回の焼成」「前々回の焼成」までさかのぼって聞き取りしたものの含まれるので「個数不明」の例もある、②西側地区の数世帯では2005年9月下旬の調査時に葬儀により聞き取りができず、9月初旬までの焼成データしか得られていない、などの制約から全体を網羅しているわけではないが、器種の比率は反映している。

まず、12月と8・9月を合わせた器種組成では、水甕とモーカオの2器種が最も多く、モーケンが次ぎ、以下、モートムと非伝統器種（トムヤムセット、ティーサーバー）の順である。水甕の需要が多いのは、4月の水かけ祭り時に新品に取り替える習慣があるためである。モーカオが2番目に多いのは、寺院での供物や骨壺としての用途が多いことを示している。モーケンはレギュラーサイズと大型（モーケン・ヤイ）とがあるが前者が大多数を占める。鍋であるモーケンとモートムの生産（＝需要）があまり多くないのは、いうまでもなく鉄鍋に取って替わられつつあるためである。

ハンケオにおける季節的变化(図9・10): 8・9月は水甕、モートム、大型モーケンといった大型器種が55%を占めるのに対し、12月ではこれらの大型器種の比率が32.2%に減り、その分、モーカオ、小型モーケン、非伝統的器種(トムヤムセットやティーサーバー)といった小型品の比率が高まる。なお、大型と小型を合わせたモーケンの比率は季節間で大差ない。また、各製作者の8・9月(y軸)と12月(x軸)の大型器種の比率をプロットした図10では、8・9月の方が12月よりも大型の比率が高い製作者(プロットグラフの左上部分)が大半を占めることから、上述の季節差は個人差を超えた傾向であるといえる。ただし、多くの世帯において水甕が新品に取り替えられる4月の水かけ祭りソングランに向けて、2・3月には水甕の生産が増える可能性もあるので、上述の12月の生産器種は乾期全体の特徴とはいえないかもしれない。

ハンケオの製作者は仲買からの注文に応じて土器を作っているので、このような季節間の違いは土器需要の違いが原因と思われるが、土器需要の季節的变化の分析を行っていないため現時点では理由は分からない。一方、「作りやすさ(コスト)」という製作者側からの視点に立つと、1個当りの成形時間が長い大型品の成形は、乾燥までの時間が長めの雨季の方が適する。というのは、各器種の成形は午前中に「紐積みによる一次原形作り」、午後に手持ち叩きによる仕上げを行うため、乾燥が速すぎると叩き成形が間に合わなくなる危険があるからである。

東北タイのモー村(図9、付表4b): 器種毎の生産個数の集計方法はハンケオに準じているが、以下の2点が異なっている。第一に、東北タイでは北タイに比べて野焼き頻度が低く、1回により多数を土器を野焼きする。また、東北タイでは、農業ができない乾季に働き手がバンコクに出稼ぎに行っている世帯が多いため、出稼ぎから一時帰休急する年末から1月初旬までの1週間程度は土器作りをしない世帯が多い(正月も土器作りを休まない北タイと対照的である)。以上2つの理由から2006年12月~2007年1月の期間に野焼きを網羅できない世帯も多かった。よって、東北タイでは最後の野焼き後に成形された土器の数も加えて集計した。第二に、ハンケオでは12月~1月上旬までを乾季の代表期間としたのに対し、東北タイでは11月の稲刈り終了後(11月中旬が多い)から乾季の土器作りを始める世帯が多いため、この時点から1月10日までの期間を雨季の代表期間とした。

12月~1月の製作器種についてモー村とハンケオを比べると、小型鍋(モー村のモーケン・モーファン、ハンケオのモーケン・モーカオ)が6割弱を占める点と水甕が主体を占める点は共通する(図9)。また、小型鍋については、モー村のモーケン・モーファンは調理に使われることが稀であり、また、ハンケオでも調理に使われることが多いモーケンは2割弱と少なく、調理に使われることがほとんどないモーカオが4割近くを占める、という点でも共通している。

一方、違いとして、モー村の方が水甕と大型鍋(モー村のモー・サオローとハンケオのモートム、大型モーケン)の比率が高く、その分、非伝統的器種(トムヤムセットが主体)の比率が低い点があげられる。モー村の方がトムヤムセットなどの非伝統的器種の比率が低いのは、ハンケオに比べて都市部での土器需要が少ないためである。

製作器種のレパートリー(図11)

ハンケオ: 大型器種(水甕、大型モーケン、モートム)と小型器種(モーカオ、小型モーケン、

非伝統的器種)の比率により各製作者の器種レパートリーを分類すると、「(8・9月と12月とも)大型品が主体」、「(両期とも)小型品が主体」、「(両期とも)大型・小型がほぼ半々」、「8・9月は大型主体で12月は小型主体」、「12月は大型主体で8・9月は小型主体」の6類型を設定できる。「大型主体」が最も多く、「小型主体」と「8・9月は大型主体、12月は小型主体」が次ぐ(表1h)。このような各製作者のレパートリーが毎年共通した傾向を示すかどうかは明らかではない。しかし、「12月はモーカオ主体、8・9月はモーナム主体」であるHr51は、約20年前の文献においても「炊飯用鍋モーナム、水甕モーナム、家畜えさ用土器、植木鉢を多く作る」と報告されていることから(植田・小川1985)、共通した器種を製作し続けている製作者も多いと思われる。

大半の製作者は仲買からの注文に応じて複数の器種を製作するが、決まった器種しか作らない製作者も少数だが存在する。H51・70・78の3人は水甕のみ、Hr53はモーカオのみ、Hr122は大型のモートムと「後に彩色を施す特別な器種」のみを製作する。これらの理由を検討したい。モーカオ専門のHr53は、視力が悪いため比較的簡単に作れ、需要も多いモーカオに限定している。一方、Hr122がモートム(雨季)と彩文器種(乾季)に専念するのは、これら(特に後者)は高い技術を要するが、収益が多いことが理由である。彩文器種は、仲買から彩色職人に送られて華麗な彩文が施され、輸出されるものも多い。これらの特殊器種は、種類が多く形が多様なため、どんな形でも正確に同形・同大の製品を作る技術が要求される。聞き取りによると彼女はハンケオでは最も熟練した土器製作者の一人であることから、村では彼女のみが特殊器種の注文を受けていると思われる。

モ一村：モ一村の製作者は「小型鍋主体」(7世帯)、「水甕主体」(9世帯)、「多様(両者の組み合わせ)」(20世帯)の3類に区分できる。小型鍋主体の7世帯中4世帯は年間を通して小型鍋のみを製作し、水甕主体の9世帯は全て年間を通して水甕のみを作る。「多様」類型のうち2世帯はトムヤムセットや花瓶などの非伝統的器種の比率が高い。水甕専門の製作者は若い世代ほど比率が高い(表1h)。この理由として、水甕は大きめ(大型16%、標準10%)なので手持ち叩きを行う際に体力を必要とするため、高齢者世代には負担が大きいことがあげられる。

ハンケオと比べると、小型鍋主体の製作者の比率は大差ないが、水甕専門の製作者の比率がハンケオよりも低い。これは上述のように、モ一村の水甕はハンケオよりも大きめ(ハンケオの大型がモ一村の標準サイズに対応)なので、高齢世代には製作時の負担が大きいためと思われる。一方、水かめがやや小ぶりのハンケオでは60才以上の高齢世代でも水甕専門の製作者が多く存在する。

1日の成形個数(生産性) (図12・13)

ハンケオの一日当たり成形個数の集計方法：乾季(12月)と雨季(8～9月)の土器製作・焼成データに基づいて、各土器製作者の1日当たり成形個数を以下の方法で計算した。まず、数日間にわたり連続して製作個数と器種を記録した期間(記録単位と呼称)について「何日間での器種を何個作ったか」を集計した。記録単位は「数日間成形した後、野焼き」という製作サイクルの期間が最も望ましいが、野焼きの間の1サイクルの各日の成形個数を網羅していない場合は、1サイクル内のより短い期間も含めた。野焼きを挟んで連続して記録された場合は、野焼きまで

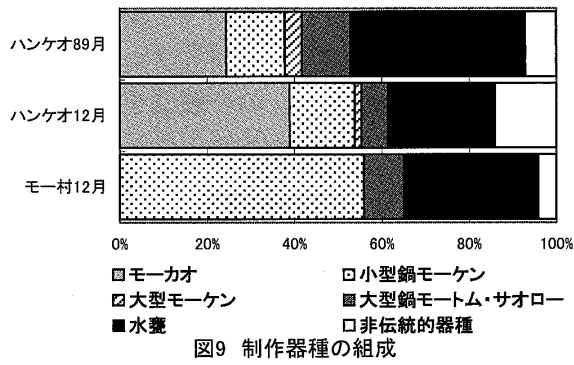


図9 制作器種の組成

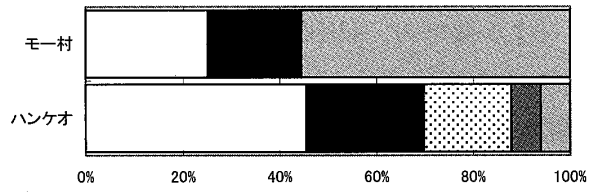


図11 制作器種レパートリー

□大型主体 ■小型主体 □乾季小型、雨季大型 ■雨季小型、乾季大型

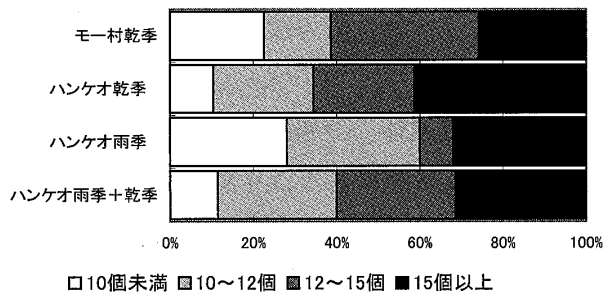


図12 1日当り成形個数

□10個未満 □10~12個 □12~15個 ■15個以上

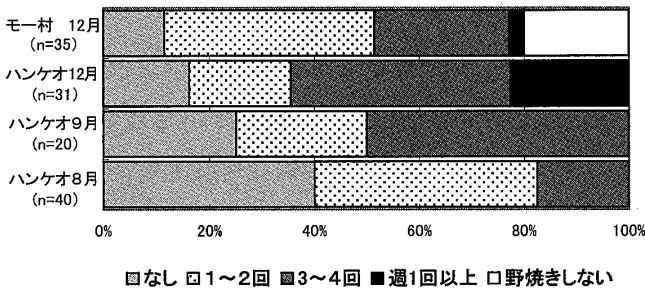


図14 1ヶ月の野焼き回数の比較

□なし □1~2回 □3~4回 ■過1回以上 □野焼きしない

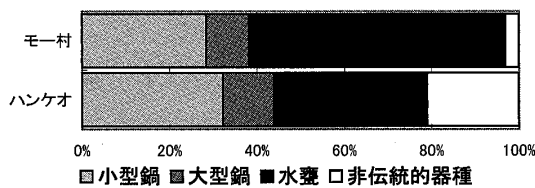


図16 12月の土器販売収入組成

□小型鍋 ■大型鍋 ■水壺 □非伝統的器種

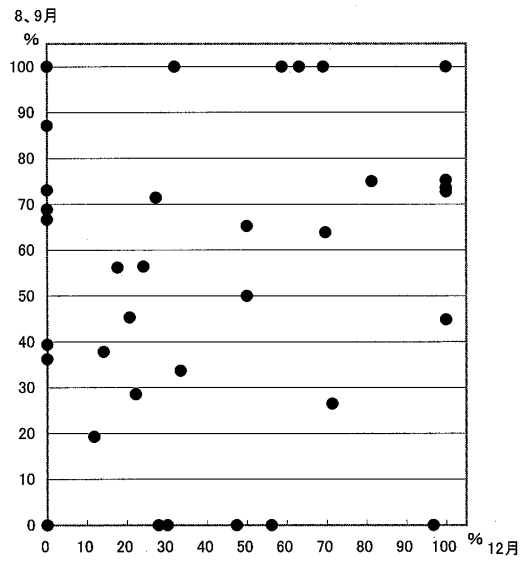


図10 ハンケオの8・9月y軸と12月x軸の大型器種の比率%

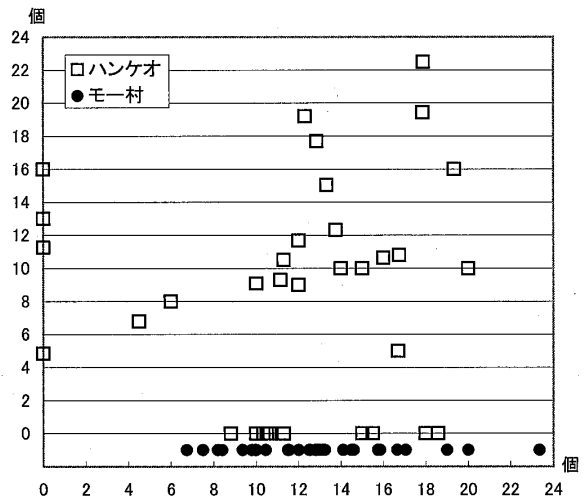


図13 雨季y軸と乾季x軸の1日当り成形個数

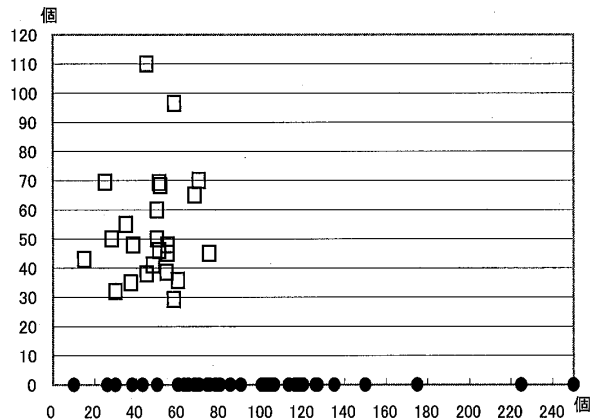


図15 ハンケオ□とモー村●の1回の焼成個数: 8・9月y軸と12月x軸

の製作サイクルごとに記録単位を設定した。土器製作サイクルは、乾季では1週間程度の場合が多いが、野焼き頻度が低い農繁期の7～9月では製作サイクルが不規則になるので、1～3日を単位として集計した例も多かった。なお、記録単位の期間中に休養日があった場合は、日数から除外した。このような記録単位が各製作者について乾季・雨季に各1～4回記録された。

次に、雨季(8・9月)、乾季(12月)、「12月+8・9月」の3期について、複数の記録単位を合計して1日当たりの製作個数を集計した。集計では、モーナム、モートム、大型モーケンといった大きめの器種を標準とし、モーカオ、レギュラーサイズのモーケンという小型器種は0.5個と計算した。これは、前者は1個の成形(紐積み→叩き)に20分以上要するのに対し、後者の小型器種は12分程度しか要しないためである(続編の小林ほか2007参照)。

ハンケオにおける雨季と乾季の比較：1日当り生産個数を「10個未満」「10個以上12個未満」「12個以上15個未満」「15個以上」の4クラスに区分して組成を示した(図12、表1i)。12個を区分点としたのは、全体の平均個数が12.3個だからである。そして、12個以上の製作者が過半数を占めたため、それをほぼ均等な人数に細分するために15個を区分点とした。図12をみると、12月(平均13.4個)の方が8・9月(平均12.2個)よりも多めだが、これは乾燥時間の違いに起因すると考えられる。即ち、乾季では「午前中に円筒形の一次原形の紐積み成形、午後に仕上げの二次成形叩き」という1日で成形が完了するサイクルが厳守されるのに対し、乾燥が遅い雨季では仕上げの二次成形叩きを翌日に行うことがあるため、1日当りの製作個数が少なくなる。なお、乾季の12月と雨季の8・9月の平均個数の違いは顕著とは言えないが、0.5個と計算した小型器種の比率は12月の方が1割以上高いので、小型器種も1個と数えた場合は違いが拡大する。一方、雨季の方が乾季よりも1日当り製作個数が多い製作者も少なからず存在するが、これは、12月の稲刈り作業に労働力を費やしたため製作個数が減った結果と考えられる。以上より、1日当り生産個数は土器の乾燥時間(雨季の方がやや長めのため、成形個数が制限される)および農業労働とのバランス(成形→焼成の製作サイクル期間内に農業労働が入る場合などは、1日の生産ペースを緩める)に影響されるといえる。

ハンケオにおける個人差：各土器製作者の平均1日製作個数を12月(x軸)と8・9月(y軸)にプロットした図13をみると、1日あたり生産個数が季節間で極端に異なる製作者は少ないことから、1日の製作数は農繁期を除けば安定しているといえる。なお、x軸上とy軸上にプロットされた製作者は、雨季や乾季に土器を作っていないわけではなく、一方の季節のみ記録が取れなかった結果である。1日当り生産個数は、4個～22個まで幅があり、平均値は12.8個である。小型鍋では1日平均24個以上製作することになるので、雲南やフィリピン・コルディエラ地域に比べるとかなり生産性が高い。熟練した製作者が1個の成形に要する時間を小型品(モーカオとモーケン)約12分、大型品(モーナム)約20分とすると、平均個数(12個)の成形には240分(大型品のみの場合)～290分(小型品のみの場合)、最高個数(22個)の成形には440～530分を要する。個々の土器の成形の合間には乾燥のための移動が必要であり、また、数日に1回は素地作り(粘土の乾燥、粗割、水漬けなど)にも時間をとられることを考慮すると、平均個数以上の成形を行うためには1日かなり密に作業を行う必要がある。土器作りの観察においてもかなり長時間成形作業を継続していることが確認されている。

モー村の1日当り成形個数：成形に要する時間（水甕約20分、モーサオロー15～17分、小型鍋約10分）の違いを考慮して、水甕1に対して小型鍋（モーケンとモーフン）は0.5個、モーサオローは0.75個と計算した。ハンケオと同様の方法で一日当たりの成形個数を計算した結果、6個から23個まで幅があり、平均13.0個だった。「10個未満」、「10～12個」「12～15個」「15個以上」の4クラスに分けてハンケオと比べると、「15個以上」と「12～15個」の比率は大差ないが、モー村の方が「10個未満」が多く、その分「10～12個」が少ない。このように、平均値と分布状況ともにハンケオとモー村の一日当たり生産個数は共通性が高い。ただし、主要器種である水甕と小型鍋の容量はモー村の方が容量が5割程度大きめであることから、最終タタキの一部をヘルパーに依頼する場合があることを考慮しても、モー村の方が生産性が高いといえる。

野焼きの頻度と規模

月間焼成回数（野焼き頻度）：北タイのハンケオでは、12月、8月、9月の焼成記録から、各月毎の焼成回数を集計した（図14、表1j～1）。調査期間以外（12月は18日以前、8月は18日以前、9月は4～24日）の野焼きについては「前回の野焼き」「前々回の野焼き」についての聞き取り結果に基づいているが、その記憶が不明瞭な場合もしばしばあった。また、9月下旬の調査では、葬式があったため道路西側地区の数世帯の聞き取りができず、「回数不明」が多くなった。そこで、各月の焼成回数（回数不明と休止を除く）を「なし」「1～2回」「3回」「週1回（4回）」「週1回以上（5回以上）」に分けて月間を比較した。その結果、以下の点が明らかとなった。

乾季の12月（平均3.03回）では過半数の製作者が週1回以上野焼きを行っているのに対し、雨季で果樹収穫期の8月（1.28回）では8割以上が2回以下（2週に1回以下）だった。そして、果樹収穫が終わる9月は、月別降水量が最も多いにも関わらず、8月よりも焼成回数が増えている（平均2.23回、製作者の半数近くは週1回焼成）。この事実も土器製作の休止する理由は雨ではなく農業労働であることを示している。よって、「乾季で農閑期の1～4月」では、12月よりも多くの製作者が週1回以上のペースで野焼きを行っているかと推定される。

東北タイのモー村では、野焼き頻度がハンケオよりも低く、かつ野焼き場所が限られているため、野焼き回数をより正確に把握できた。即ち、モー村の野焼き場所は湖岸と寺院裏にほぼ限られており、それ以外ではH57宅横の牧草地と自宅庭で小規模な野焼きが4回行われたのみだった。調査期間中は2ヶ所の野焼き場を毎日点検し、35回の野焼きが行われたことを確認した。また、11月の収穫後に土器作りを開始してから調査開始日（12月23日）までの期間については、「前回の野焼き、前々回の野焼きについての聞き取り」により概要を把握できた。この両者の記録を組み合わせるにより、11月の収穫後から1月上旬までの間に27世帯により60回強の野焼きが行われたことが明らかとなった。この期間の各世帯の野焼き回数は1～2回が最も多く、3～4回が次いでおり、5回以上は1世帯のみだった。収穫後に土器作りを始めた時期が遅いためまだ野焼きを行っていない世帯も3世帯あった。平均野焼き回数は2.04回であり、ハンケオの同期（平均3.03回）に比べて明瞭に野焼き頻度が低い。

1回の焼成個数：北タイのハンケオでは、12月と8・9月の焼成について、焼成個数の合計（大型器種を基準とし、小型器種は0.5個と計算）を焼成回数で割ることにより「1回の平均焼成個数」

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

を計算した(図15)。その結果、12月(47.2個)と8・9月(48.7個)の間に明瞭な違いはなかった。ただし、12月は小型器種の比率が高い分、「小型も1個と数えた場合の個数」はやや多くなる。

モー村では11月の収穫後から1月上旬の間に行われた野焼きのうち、60回について焼成された器種と個数を記録した。水甕1個に対して小型鍋を0.5個、モー・サオローを0.75個として1回の平均焼成個数を計算した結果、95.2個(庭先での小規模な野焼き3回を除外した場合は99.6個)だった。ハンケオに比べて2倍近くの土器を一度に焼いている。モー村の水甕と小型鍋はハンケオよりも大きめである点を考慮すると、焼成規模の違いはさらに顕著になる。

このように、モー村の野焼きはハンケオに比べて1回の焼成個数が多い分(12月はハンケオ47個、モー村99個)、野焼きの頻度が低い(ハンケオは12月の平均回数が3回なのに対し、モー村は11月の稲刈り以降の平均回数が2回)。この違いを生み出した理由として以下の点が考えられる。第一に、東北タイでは夫が燃料獲得や野焼きを担当することから、薪燃料多用型で多数の土器を一気に焼くことが可能となる。雨季では野焼きを行わない点も、薪燃料多用の大規模野焼きを可能にしている条件である。薪燃料多用型の野焼きでは、一度に多くの土器を焼いたほうが熱効率が良いと思われる。一方、雨季でも野焼きを行う北タイでは、屋根付きの焼成場所で密閉度が高い覆い型野焼きを行うため、野焼きの範囲が限定される。また、北タイでは野焼き時に男性の協力を得られない場合も多いので、大量の土器を一度に焼くことは難しい。

第二に、東北タイの土器販売方法は、仲買からの注文製作よりも行商の方が伝統的には重要だったので、ハンケオのように仲買からの注文(1回では最大でも50個程度)に対応してこまめに野焼きを行う必要が少なかったと思われる。

土器生産モデル

以上述べてきたハンケオの「1回の焼成個数」「1日の平均成形個数」「1ヶ月の焼成回数」から、農作業の影響が少ない12～1月の土器作りサイクルのモデルを示す。1回の焼成個数は平均50個弱(小型品を0.5個と計算)、1日当りの平均成形個数は12個(8・9月)から13個(12月)であり、農繁期を除けば多くの週1回(以上)のペースで野焼きを行うとすると、「4日間成形した後、野焼きを行い、1～2日休養」という標準モデルを提示できる(表4)。

12月の平均野焼き回数は約3回なので、ハンケオで1ヶ月間に製作される個数(小型を0.5個と計算)は「毎回50個焼成x月3回x40人」で約6千個(小型を0.5個と計算)となる。野焼きデータから得られた8・9月5700個と12月5000個の生産個数(小型も1個と計算)は全体を網羅していないが、最低値を示してはいる。よって、上述の「農閑期ではハンケオ全体で月約6千個(小型を0.5個と計算)の土器を生産」という数字は、やや控えめだが実態とかけ離れていないと思われる。

モー村では野焼き頻度が低いため、11月の収穫後から1月上旬までの期間の焼成個数と未焼成の製作個数との組み合わせにより、生産個数をかなり正確に把握できた。同時期(12月～1月上旬)のハンケオと比べると、モー村の方が水甕と小型鍋の生産個数が多い反面、非伝統的器種は半分以下である。全器種を合わせた生産個数はモー村(約11000個)の方がやや多い。

7. 土器の流通

土器の流通方法

ハンケオ：土器販売方法には、①仲買からの注文に応じて製作した土器を、仲買が受け取って販売する、②仲買が製作者を訪問して購入し、販売する、③製作者のところに来た消費者に直接売る、などの種類がある(表1 m)。このうち①主体の製作者が8割り近くを占め、②主体の製作者は全体の2割程度である。③はごくわずかであり、販売対象は村人や近隣の住民が大半を占める。なお、②主体の製作者は、全て年間製作月数が9ヶ月未満である。

ハンケオ地区には仲買が4世帯おり、うち2世帯は村内でポットショップも開いている。また、他の1世帯では主婦が土器製作者でもある。仲買はチェンマイ市街・近郊の小売業者(ポットショップなど)から注文を受ける。1回の注文は小型では50～100個、大型では20個以上といった個数であり、器種と個数を考慮して仲買がなじみの土器製作者に注文を出す。各仲買はなじみにしている製作者がおり、各人の得意器種を考慮して注文を出す土器製作者を選ぶ。また、上述の②のように仲買が村内を歩いて土器を調達することもある。ハンケオのほかに窯焼きの製陶工場からも仕入れる。

モー村：土器販売方法には、①仲買からの注文に応じて製作した土器を仲買が受け取って販売する(19世帯)、②製作者世帯の夫が他の村へ行商に行くか、ポットショップや消費者に直接販売する(9世帯)、③夫が土器作りに参加しない世帯は土器焼成を行わないため、未焼成の土器を他の製作者か仲買に売る(7世帯)、の3つがある。②の直接販売を行う世帯は、仲買からの注文生産も行うことが多い。表3に示すように、同じ器種でも③→①→②の順に製作者の収益が増す。

②の直接販売は、製作者の夫も土器作りに参加する東北タイの特徴であり、夫が土器作りに参加しない北タイでは行われない。直接販売する範囲はマハサラカム県内の隣接地域や隣接するロイエット県など50km以内の地域が多いが、以前はコンケン、スリンなど50km以上離れた地域まで行商に行くこともあった。遠隔地に行商に行く際は、かつては数名のグループで移動し、目的地の近くで各自の担当する村に分散し、村内を歩き回って土器を行商したという。しかし、現在では行商の頻度は減り、土器を積んだりヤカーをオートバイで牽引して(または自動車)単独で行商するようになった。村での行商では土器を米と交換することもしばしばある。米との交換レート(大型水甕70-80パーツが米10kg)は町での米購入価格(10kg当り150パーツ以上)に比べてかなり割安なので、土器製作者世帯で自給用米が不足した際には重宝されるという。

モー村の土器流通の主体は、ハンケオと同様に①の仲買からの注文生産である。モー村では仲買専門が2世帯(H29,H136)、土器製作者の夫が小規模な仲買を行う世帯が2世帯(H24、12)ある。このうち専門仲買H29が最も多くの世帯と取引しており、H136は数年前に始まった「ロクロ水挽き・鑄込み成形+ガス窯焼成」の陶器の生産・販売に重点を移している。H29の仲買世帯は、土器の成形は行わないが、土器焼成を行わない(死去や出稼ぎなどのため夫が土器作りに参加しない)世帯から購入した未焼成土器の野焼きを行っている。

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

表3 土器価格 (網かけは各村の代表値)

器種	仲買	価格	水甕 大型	水甕 regular	水甕 小型	モーケン ・大型	モーケン 把手村	モーケン regular	モーケン 小型 (MooHun)	モーケン 特小型 (MooHun)	モートム 特大型	モートム regular	モートム smaller	モーカオ	モーカオ 未焼成	モーサ オロー	トムヤム セット	Moo Num Kao 湯沸し鍋	ティー サーバー
地域			東北タイのみ	両地域	北タイのみ	北タイのみ	両地域	両地域	東北タイのみ	東北タイのみ	北タイのみ	北タイのみ	北タイのみ	北タイのみ	北タイのみ	東北タイのみ	両地域	北タイのみ	両地域
ハンケオ	仲買A	卸し値		12	11	20	12	5			40	20	12	5			12		
	仲買A	小売値		20	18	20~30	15-18	10			60	30~35	17~20	9~10	9		20	15	19
	仲買W	卸し値				12	12				30	12	5	5			12	12	11
	仲買W	小売値				20	20				40	20	8~10	8~10			20	15	18~20
	標準	卸し値		12	11	12	12	5			40	25	12	5	5		12	12	11
モンカオケオ	ポットショップ	小売値		20タタキ目、30沈線文		20								15			20		
モー村	H91から町へ	卸し値						15								25			
	H91の直売	直売	70-80B or 10kg rice	50B															
	仲買24	卸し値	35	25				8		6									
	仲買29	卸し値	30-35	25				9	8	7						17			
仲買29	店への売値	55	45				18	16	14							28			
モー村	仲買29	未焼成土器の卸し値	20	15				8		7						11~12			
マハサラカム市内	ポットショップ	小売価格		60 B 1回に20-30個オーダー				30B	25 B 1回に50個オーダー								40 B 1回に40-50個オーダー		

(単位はパーツ)

土器の価格

ハンケオの3人の仲買の卸し値(仲買が製作者から購入する価格)と小売価格(村内のポットショップで販売する価格、またはチェンマイ市街のポットショップに売る価格)を表3に示した。小型鍋(モーカオと把手なしのモーケン)は卸し値が5パーツ前後(1パーツは約3円)、大型品のモーナム水甕は12パーツ、大型鍋(標準モートムと大型モーケン)12~16パーツである。これらの主要器種の価格差は成形時間の違いにほぼ対応している。なお、把手や注口が付く器種は、製作時間がかかる分、値段も高くなる。例えば、モーケンでは把手付きは把手無しの約2倍の価格であり、把手と注口が付くティーサーバーも11パーツと小型鍋の約2倍の価格である。

モー村の卸し値は、非伝統的器種と大型鍋ではハンケオと大差ないが、水甕(ハンケオ20パーツに対しモー村30パーツ)と小型鍋(ハンケオ5パーツに対しモー村8パーツ)はハンケオの5割増しである。モー村の方が高めなのは、容量が水甕(大型は各々16㍓と10㍓)・小型鍋(大きめは各々3㍓と5㍓、小さめは各々2.5㍓と3.5㍓)ともに大きめのためと思われる。なお、行商にいった場合は距離にもよるが1.5倍以上の売値となる。

土器作りの収入(表4、図16)

ハンケオ40世帯の12月の土器作り収入を「月6千個(小型を0.5個と計算)生産」という上述の推定値を基に算定した。12月の生産器種組成は小型鍋(モーカオとモーケン)55%、大型鍋(大型モーケンとモートム)5%、水甕25%、非伝統的器種(トムヤムセット、ティーサーバー、米蒸し用湯沸し鍋)15%なので、「小型(および非伝統的器種)を0.5個として6千個」という数値から、「小型も1個」とした個数に換算すると、小型鍋5060個、大型鍋460個、水甕2300個、

表4 土器作り収入

村	器種	卸価格 (パーツ)	12月制作 個数	12月収入 (パーツ)	8・9月制作 個数	8・9月収入 (パーツ)	器種	比率 (小型と非伝 統的器種を 0.5個と計算)	12月推定 個数	12月推定収入 (パーツ)	1個当りの 粘土価格 (パーツ)	粘土コスト (パーツ)	1個に入れ るチュアの 個数	使用チュア 個数
ハンケオ	モーカオ	5	1943	9715	1381	6905	小型鍋	55%	5060	25300				
	小型モーケン	5	742	3710	768	3840								
	大型モーケン	12	79	948	223	2676								
	水甕	12	1227	14724	2275	27300	水甕	25%	2300	27600				
	大型鍋モートム	20	300	6000	632	12640	大型鍋	5%	460	9200				
	非伝統的器種	12	703	8436	407	4884	非伝統的器種	15%	1380	16560				
	合計		4994	43533	5686	58245	合計	100%	9200	78660				
モー村	水甕	30	3475	104250							1.8	6255	1.5	5213
	小型鍋	8	6299	50392							0.5	3150	0.25	1575
	大型鍋サオロー	17	1021	17357							1	1021	1	1021
	非伝統的器種	12	467	5684							0.5	234	0.25	117
	合計		11262	177603								10660		7926

非伝統的器種 1380 個、計 9200 個となる。この値に上述の各器種平均卸価格 (小型鍋 5 パーツ、大型鍋 20 パーツ、水甕と非伝統的器種 12 パーツ) を掛けて合計額を求めると 78660 パーツであり、製作者 40 人とすると一人当たり平均約 2 千パーツである。

モー村の土器作り収入は、生産個数 (野焼き頻度が少ないため全容をほぼ把握) に各器種の平均卸売り価格を掛けることにより算定できる。11 月の稲刈りから 1 月上旬までの合計収入は約 18 万パーツとハンケオ (12 月～1 月上旬) の 2 倍以上だが、これは主要器種である水甕と小型鍋の単価が高い (約 1.5 倍) ことと、集計期間がやや長め (11 月後半から集計) であることが理由である。

土器作り収入における各器種の比率を比べると、小型鍋と大型鍋の比率は大差ないが、水甕の売り上げの比率はモー村が約 6 割、ハンケオ 3.5 割と顕著な違いがある (図 16)。ハンケオでは水甕の比率が低い分、トムヤムセット、ティーサーバーなどの非伝統的器種が多い。

8. 土器作りのコスト

ハンケオの原材料入手コスト

都市近郊型のハンケオでは、大多数の土器作り世帯は、粘土、素地に混和する砂、野焼きの燃料である竹・薪 (使わない世帯の方が多い)・稲藁などを業者から購入している。付表 1a に記載された購入量と費用は聞き取りに基づいており、観察により正確さをチェックしていないので、以下では概算値として扱う (表 1n～s)。

粘土: かつて村の水田 (田土) から調達したこともあったが、今では全ての製作者が仲介業者に頼んで遠隔地のものを購入している。常に軽トラック 1 台分 (4～5 m³) を単位として購入し、価格は 600 パーツである。粘土貯蔵場所まで運んでもらう場合は 50～100 パーツ加算される。この分量は大多数の製作者にとってほぼ 1 年間の使用量に相当する。ただし、生産個数が多い製作者 6 名は年 1 回以上購入するのに対し、生産個数が少ない製作者 6 名はこの量の粘土で 1 年以上製作ができる (表 1n)。

混和材の砂: 以前は近隣の川から採取していたが、近年は全ての製作者が仲買から 1 または

0.5 (稀に0.2) m³単位で購入している。価格は1 m³当たり500バーツであり、年間2 m³ (1000バーツ) 程度消費する製作者が最も多く(12人)、1.5 m³ (700バーツ) 未満(8人)、3 m³以上(3人)の順となる(表1 o)。砂は竹燃料と共に最もコストがかかっている。

赤色顔料：ハンケオの土器は鉄分が少ない粘土で作るため、成形後か野焼き直前に外面全体に赤色顔料を塗ることが多い。このベンガラは村内の仲買人から1畝単位で購入する。1畝当りの価格は10バーツから20バーツまで幅がある。大半の製作者は年間200バーツ以下の使用量であり、それ以上消費するのは4名のみである(表1 p)。

野焼き時の燃料：野焼きの主熱源燃料である竹は、自給(所有地から採取するか、親族から無料で得る)が12世帯、購入が21世帯である(表1 r)。竹の購入単位は、長い幹を束ねた場合と短く切って米袋に詰める場合(1袋約7kgで5バーツ)があり、前者の束サイズは一定しない。購入する場合、年間購入費用が1000～2000バーツが9人、1000バーツ未満が12人である。聞き取りでは、野焼きの燃料として薪を使わない製作者が大半(28人)を占める。薪をある程度使う7人は全て購入に頼っており、費用は1人を除いて1000バーツ未満である(表1 q、図17)。乾季よりも雨季の方が燃料を多く使う傾向がある。一方、8・9月の野焼き事例の観察では、薪を使わない5例、薪も使うが竹の方が重量が多い3例、薪の方が竹よりも重量が多い4例であり、雨季では薪をかなり使う野焼きの方が多かった。

覆い型野焼きの覆いとなる稲藁は、自給(12名)よりも購入(30人)の方が多。購入する場合の価格は1束(約2.5～3kg)が2バーツであり、年間購入量は200束未満(9人)と200～400束(9人)が最も多く、それ以上は6名のみである(図18、表1s)。

モー村の原材料入手コスト(付表1b・5b)

粘土、混和材のシャモット、野焼きの燃料の稲藁と薪の4者が土器作りの原材料である。

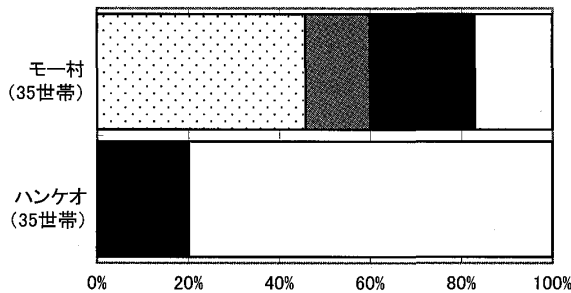
粘土：粘土は集落に面した湖から採取される。かつてはボートを使わずに湖岸から粘土を採取していたが、①湖底から良質の粘土を採取しやすくする、②湖の中央に粘土採取とシャモット作成のための人工島を作る、などの目的で、1985年に重機を用いて湖底を掘削し、その土を中央に盛って人工島を造成した。この工事により、深くなった湖底から良質の粘土が得られ、かつ、中央の人工島に粘土採取の船着き場ができ、人工島内でシャモット作成、炭焼きなどができるようになった。島では粘土採取とシャモット成形(焼成は購入した製作者世帯が行う)の専門職人が2世帯活動しており、夫が粘土採取やシャモット作成をしない世帯にこれらを供給している。粘土の価格は丸木舟1杯当たり(活発な製作者では約3日分の使用量)60(正月以前)から70バーツ(正月以降)である。

土器作り用の粘土の採取は、丸木船で湖の沖に行き、長さ1.8 mほどの堀棒で湖底を掘り起こした後、水中に潜って大きな粘土塊を舟上に運び上げる。一方、シャモット用の粘土は、土器作り用粘土に比べて多少の不純物を含んでいても差し支えないため、バケツを持って水中に潜り、湖底の表層の土を採取する。土器用・シャモット用ともに粘土採取の仕事は男性のみが行うため、夫の労働力が得られる土器作り世帯では無償で粘土を得ることができる。聞き取りによると夫が粘土を採掘する世帯と購入のみに頼る世帯とが半々(各18世帯)である。

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

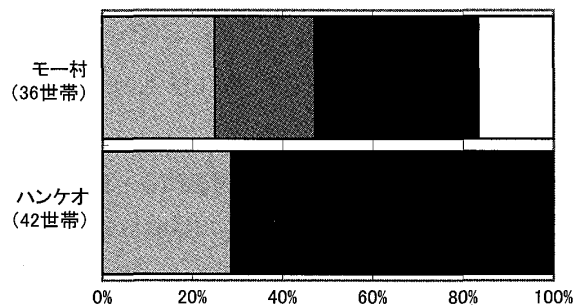
粘土をまとめて(多くは1年分)購入し、数日分ごとに練りを行うハンケオ(および他の東北タイの土器作り村)とは対照的に、モー村では採取した粘土が乾燥しないうちに足練りと成形を行い、粘土を長期保存することはない。よって、1回の粘土採取量または購入量は3~4日分の使用量(丸木舟1杯分)の場合が多く、長くとも1週間分である。降水量が最も多い8~9月では人工島が水没することがあり、また、湖の水深が深まって粘土を採掘しにくくなるため、粘土供給量が低下する。このように、モー村において雨季の土器作りが不活発な理由の1つとして、粘土を長期保存しないため、雨季における粘土供給量の低下がそのまま土器生産量の低下につながる事があげられる。

混和材シャモット(チュア): 東北タイの素地作りでは、砂の代わりにシャモット(チュア)を混和材として用いる(シャモットの作り方と役割については続編小林ほか2007を参照)。シャモット作りは、①湖底の表層からバケツで採取した粘土を湖岸のくぼみに積み上げる、②粘土に大量の初殻を混ぜて足練りする、③練りあがった素地を手で幼児の頭大に成形し、周囲に初殻をまぶす、④1週間以上乾燥する、⑤太めの薪を燃料とし、イネ藁で覆って2~3日間野焼きする、という手順をとる。焼きあがったシャモットは1個1kg弱の重さであり、大変もろいので、臼と杵で簡単に粉碎できる。粉碎したシャモット粒子はフルイ掛けされた後、粘土とシャモットを約3:1の体積比で混ぜる。土器1個当りのシャモット使用量は、「H8ではシャモット400個



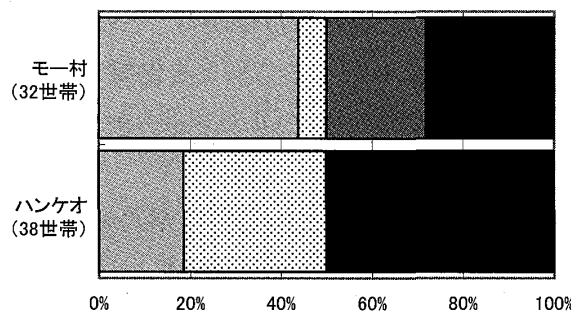
□自給(無料) ■自給+購入 ■購入 □竹のみ/自分で野焼きしない

図17 薪燃料の入手



■自給(無料) ■自給+購入 ■購入 □自分で焼成しない

図18 稲藁の入手



■夫 ■制作者 ■夫+雇い ■雇い

図19 土練りの担当

薪燃料	ハンケオ	モー村
自給(無料)		16
自給+購入		5
購入	7	8
竹のみ/自分で野焼きしない	28	6
稲藁	ハンケオ	モー村
自給(無料)	12	9
自給+購入		8
購入	30	13
自分で焼成しない		6
土練り	ハンケオ	モー村
夫	7	14
制作者	12	2
夫+雇い		7
雇い	19	9

(数値は「不明」を除いた世帯数を示す)

で焼成3回分(水甕275個分)」「H137ではシャモット300個で焼成2回分(水甕200個)」「H178ではシャモット350個で焼成2回分(水甕250個)」「H117ではシャモット200個でモーケン・モーフン900個分」という聞き取りデータが得られていることから、水甕1個に対しシャモットを約1.5個、小型鍋1個に対しシャモット1/4個を入れる。なお、大型水甕は焼成後の重さが約5kgであることから、粘土3:シャモット1の比率で混ぜた場合は大型水甕1個にシャモット1.25kgが含まれることになり、シャモット1個当り1kg弱とすると「水甕1個にシャモット約1.5個含まれる」という上述の換算結果と矛盾しない。

粘土に混ぜる籾殻の量は重量比で1.5割程度、体積比では5割程である。シャモット300個を作る際に籾殻を約120kg使用する。籾殻は購入する場合は一袋15kgが2パーツである。

シャモットの専門職人はシャモットの成形までを行い、シャモットの焼成は購入した製作者世帯が行う。専門職人は、粘土の採取は土器製作者から注文を受けてから行うのに対し、シャモットは焼成前の乾燥に1週間以上かかるため注文を待たずに作り置きすることが多い。専門職人が成形する場合も土器作り世帯の夫が成形する場合も成形作業は人工島でのみ行われるので、粘土採取同様に人工島が水没することがある8～9月にはシャモット生産が低下する。2世帯の専門職人が粘土採取とシャモット成形を行うのは11月の稲刈り終了後から5～6月までの間である。

聞き取りでは、夫がシャモットの成形・焼成を行う世帯(17世帯)と購入のみに頼る世帯(19世帯)とがほぼ半々である。後者のうち2世帯は焼成したシャモットを購入している(表10)。

野焼き時の燃料：東北タイの覆い型野焼きは低密閉・薪多用型であり、①高さ約15cm、径10cmの円筒形の土製燃料台を4隅と軸上に配置し、その上に細長い薪をおいて枠を作る、②枠の上に細長い薪をまばらに並べる、③着火材の枯れ枝を敷く、④枯れ枝を挟むように細長い薪を敷き詰める、⑤口を下向きにして下段の土器を並べ、上段には口を斜めにしてより小型の土器を積む、⑥地面と燃料の間にイネ藁を差し入れ、側面から点火する、⑦十数分にわたってイネ藁を側面と上面に掛け続ける、という手順を踏む。

主熱源となる薪は、(地面に直置きではなく)枠の上に敷き詰めるため、(幹ではなく)径2～3cmほどの細長い枝が使われる。カチンと呼ばれる街路樹の枝が最も多く用いられるが、他の種類の枝も幅広く使われる。街路樹に多用されるカチンは枝がまっすぐに伸びるため、モー村の野焼きに適している。カチンの多くは、道路沿いの街路樹の伸びすぎた枝をボランティアとして剪定した代償として無料で得られる。よって、男性の労働力が得られる土器作り世帯では、夫が道路沿いの長距離を移動しながら剪定した枝を集めていく。また、集落内の共有地(寺や学校跡など)や所有する農地の周囲に植えられている木の枝を集めてくる場合もある。このように、薪の多くは遠隔地から集められるので、薪燃料を多用する野焼きが可能なのは、「付近に薪が豊富に存在するため」というよりは、広範囲から薪を集めてくる男性の労働力が得られるためである。男性の労働力が得られない土器作り世帯では、他の世帯や業者から購入する。聞き取りによると、薪を夫が集める世帯(21世帯、うち5世帯は購入することもある)の方が購入に頼る世帯(8世帯)よりも多い(図17、表1q)。購入する場合は、1回の野焼きで消費するリヤカー1台分(約120kg、小さめの束で10束に相当。120パーツ)を単位とすることが多い。なお、採取した薪はすぐには使えず、生木の重量が1割程度減少するまで十分に乾燥させる必要がある。

稲藁は、1回の野焼きで100kg近くの量を消費する。自分の水田から得る世帯が9、自分の水田からのみでは不足するため一部を購入する世帯が8、購入のみに頼る世帯が13である(図18、表1s)。耕地を持たない製作者世帯も多いので、稲藁の自給率はハンケオよりもやや高い程度である。一束が7～9kgにほぼ統一されており、購入する場合は一束10パーツが基本である。1回の野焼きに使う分づつ購入する場合と、1年分をまとめて購入する場合とがある。

1回の野焼きで消費する燃料の重量比較(図20)

燃料コストをハンケオ・モー村間で比べるために、1回の野焼きで消費される薪、竹、稲藁の量を計算した。ハンケオでは8回の野焼き(8・9月が7例、12月が1例)において竹・薪・稲藁の重量を計量した(付表5b)。モー村では野焼き観察時の計量と聞き取り(稲藁の束数、薪の購入額かりヤカー台数)を合わせて20例について薪と稲藁の重量を記録した。(付表5a)モー村では稲藁1束(10パーツで購入)が7～9kgの範囲におさまることから、稲藁1束当りの計量データがある世帯については、聞き取り記録の束数から重量を換算した。一方、薪(カチン)は、リヤカー1台分(120パーツ)が約120kgに相当すると思われるが、重量のバリエーションを計量により確認していないため、「聞き取り調査による台数または購入金額から換算した薪重量」(13例)と「計量した薪重量」(7例)を区別して表示した(付表5a)。

その結果、1回の野焼きで消費された薪・竹の平均量はモー村(165kg、計量した野焼きのみでは154kg)の方がハンケオ(31.2kg)の5倍程度あり、焼成個数の重複がある50～90個の範囲でもモー村の方がハンケオの2倍以上の重量を消費していた(図20a)。次に、稲藁の平均重量はモー村(138.9kg)の方がハンケオ(23.7kg)の6倍程度多く、焼成個数の重複がある50～90個の範囲でも2～3倍の違いがあった(図20b)。最後に、土器1個当り(水甕・大型鍋1個に対し、小型鍋は0.5個、モーサオローは0.75個と換算)の重量では、モー村(薪1.84kg、計量した野焼きのみでは1.57kg、稲藁1.66kg)の方がハンケオ(薪・竹0.67kg、稲藁0.56kg)よりも3倍程度多かった(図20c)。このように、水甕と小型鍋の標準容量はモー村の方がハンケオよりも1.5倍近く大きい点を考慮しても、土器1個当りの燃料消費量はモー村の方がはるかに多いといえる。なお、各野焼きで使われる薪・竹の重量と稲藁の重量の間には正の相関がみられることから(図20d)、燃料の使い方は斉一性が高いといえる。

ヘルパー雇用コスト

ハンケオ・モー村ともに土練りを専門職人に依頼することがある(表1t・u、表19)。ハンケオでは若い女性が担当し、1回(10パーツ)の練り時間は乾季30分、雨季60分が目安であり、高さ約70cm、径約30cmの粘土円柱(1～2日分の消費量)の量を足練りする。モー村では30代の男性3名が担当し、1回20パーツで1～2日分の使用量を30分程度かけて練る。この他に、子どもを雇って土練りを行う世帯もある。

モー村では成形の最終段階である仕上げタタキを半分引退したヘルパーに依頼することがしばしばみられるが、その報酬は小型鍋は1個当り1パーツ、水甕は2パーツである。

ハンケオとモー村の土器作り収支 (表5)

土器作りコストの集計方法：上述のように、土器作りコストには、①粘土・混和材(砂やシャモット)・赤色顔料などの原材料の入手コスト、②薪・竹・稲藁などの野焼き燃料の入手コスト、③土練りや成形ヘルパーの委託料、の3つがある。モー村では11月半ばの稲刈り終了後から1月上旬までの期間の野焼き(60回)と製作個数(器種ごと)がほぼ網羅されているので、②の燃料入手コストはこの焼成データから集計できる(付表5a)。さらに、上述のように、モー村の粘土とシャモットの使用量は製作された土器数(器種ごと)から換算できる。よって、モー村の原材料・燃料の入手コストは、「野焼きデータと生産個数(器種ごと)から換算された総使用量」に購入比率(自給する世帯数に対する購入する世帯数の比率)を掛けることにより推定できる。

一方、ハンケオでは、焼成事例を網羅していないため、「12月には各世帯で平均3回野焼きが行われたので、村全体の40世帯では120回焼成」という推定値を設定した。これに、「12例の野焼き観察事例から集計した野焼き1回当りの竹・薪・稲藁の平均使用量」と「購入比率(自給世帯に対する購入世帯の比率)」を掛けることにより各燃料の購入量を推定した。次に、粘土・砂・混和材はハンケオでは全て購入に頼っており、原材料入手コストは「1回__kgで、年間に__回購入」といった一定期間単位の量が記録されている。(付表1a)しかし、「覚えていないため数量不明」のケースもかなりあるため、記載がある世帯の年間合計使用量を集計し、それを対象世帯の「1年間の土器作り月数」の合計で割ることにより「粘土・砂・赤色顔料の各々の1月当りの使用総量」を求めた。

原材料入手コスト：ハンケオの粘土入手コストは、不明を除く36世帯での年間支出総額28840バーツを36世帯の合計土器製作月数363ヶ月で割ると、1月当たり79.4バーツ(村全体の40世帯で3176バーツ)という値が得られた。同様に、砂は、不明を除く22世帯での年間支出総額20525バーツを22世帯の合計土器製作月数226ヶ月で割ると、1月当たり90.8バーツ(40世帯で3632バーツ)、赤色顔料は、不明を除く27世帯での年間支出総額4595バーツを27世帯の合計土器製作月数273ヶ月で割ると、1月当たり16.8バーツ(40世帯で672バーツ)となった。

モー村の粘土入手コストについては、丸木舟1回の採掘(70バーツ)で大型水甕が30個作れるので、大型水甕(16%)1個当たり2.3バーツかかる。容量比を考慮して水甕(大型と標準型の平均13%)は1個当たり1.8バーツ、小型鍋(平均3%)は0.5バーツ、大型鍋モーサオローは1バーツとして計算すると、12月に作られた11262個の粘土コストは、水甕6255+小型鍋3150+大型鍋サオロー1021+非伝統的器種234、総計10660バーツとなる。これに粘土購入率50%(36世帯中18世帯)を掛けると5330バーツとなる。

モー村のシャモット入手コストについては、上述のように水甕1個にシャモット1.5個、小型鍋1個にシャモット0.25個、サオロー1個にチュア1個を混入すると仮定して計算すると、12月に作られた11262個に使われたチュア個数は、水甕5213個+小型鍋1575個+大型鍋サオロー1021個+非伝統的器種117個、計7926個となる。これにシャモット購入率55.6%(36世帯中20世帯)を掛けると4407個、1個1.2バーツなので5288バーツとなる。

野焼きの燃料コスト：ハンケオでの野焼き観察事例では、1回の野焼き(土器60個)に竹・薪燃料が平均31kg、稲藁が平均24kgが使われている。(付表5b)竹は1袋8kgが5バーツなので、

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

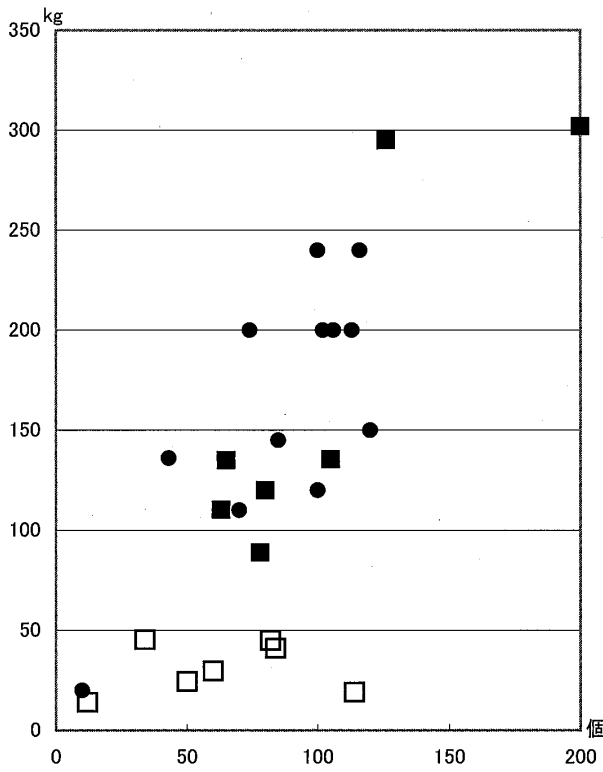


図20a 薪重量yと土器個数x

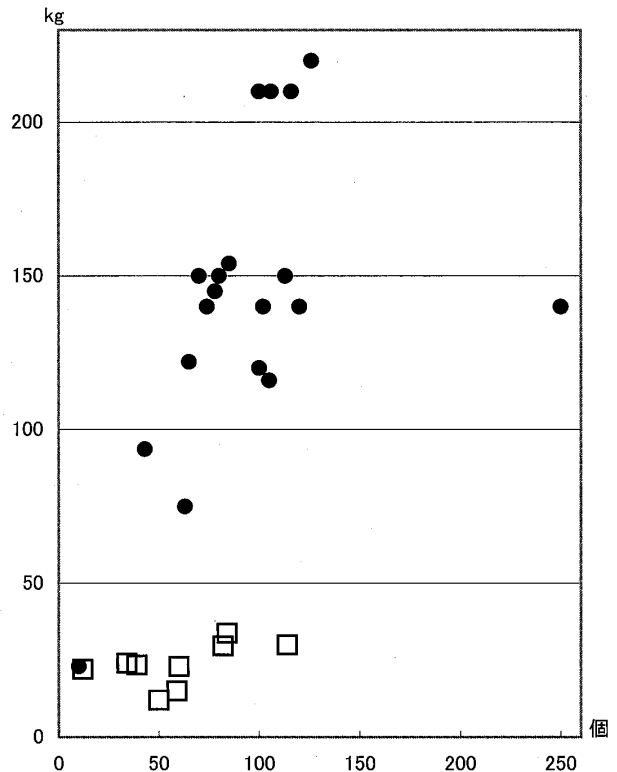


図20b 稲藁の重量yと土器個数x

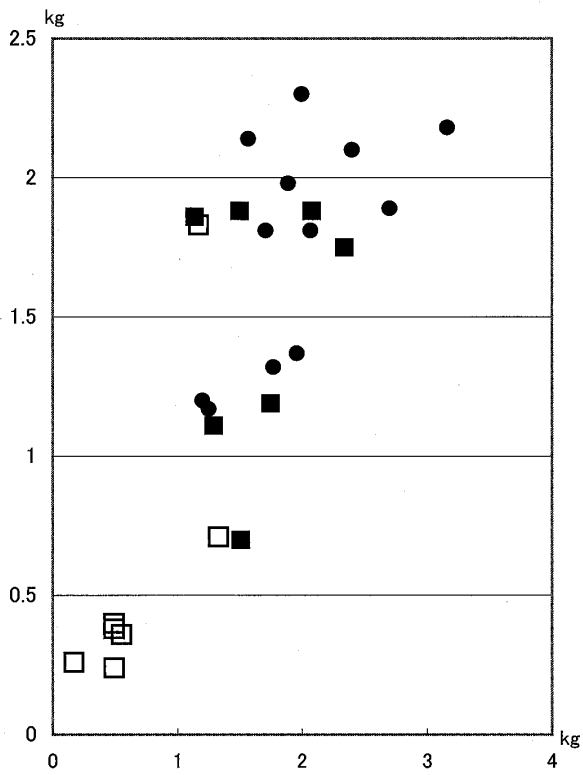


図20c 土器1個当りの薪重量yと稲藁重量x

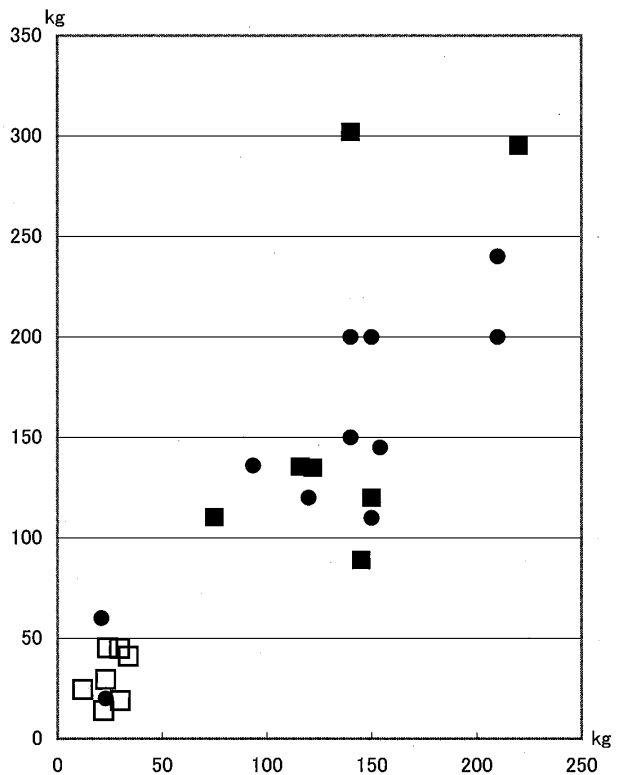


図20d 薪重量yと稲藁重量x

□ハンケオ ■モー村(計量) ●モー村(聞きとり)

図20 野焼きにおける薪と稲わらの使用量

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

表5 土器作りコスト

	ハンケオ12月	モー村12月 (収穫後から1月上旬まで)
12月の生産個数	12月に9200個、売り上げ78660 パーツ	11262個。売り上げ177603パーツ
野焼き頻度	各世帯で月平均3回、村全体40世帯 で120回	収穫後から1月上旬までの村全体で60回
粘土入手コスト	不明を除く36世帯での年間支出 総額28840パーツを36世帯の合計 土器制作月数363ヶ月で割ると、 1月当り79.4パーツ。40世帯で 3176パーツ	丸木舟1回の採掘(70パーツ)で大型水甕が30個作 れるので、大型水甕(16%)1個当り2.3パーツかか る。容量比を考慮して水甕(大型と標準型の平均13 %)は1個当り1.8パーツ、小型鍋(平均3%)は0.5 パーツ、モーサオローは1パーツとして計算する と、12月に作られた11262個の粘土コストは、水甕 6255+小型鍋3150+サオロー1021+非伝統的器種 234=10660パーツ。これに粘土購入率50%(36世帯 中18世帯)を掛けると5330パーツとなる
混和材(砂、チュ ア)の入手コスト	不明を除く22世帯での年間支出 総額20525パーツを22世帯の合計 土器制作月数226ヶ月で割ると、 1月当り90.8パーツ。40世帯で 3632パーツ	水甕1個にチュア1.5個、小型鍋1個にチュア0.25 個、サオロー1個にチュア1個を混入するとして計算 すると、12月に作られた11262個のチュアコスト は、水甕5213個+小型鍋1575個+サオロー1021個+ 非伝統的器種117個、計7926個となる。これにチュ ア購入率55.6%(36世帯中20世帯)を掛けると4407 個(1個1.2パーツなので5288パーツ)となる
赤色顔料	不明を除く27世帯での年間支出 総額4595パーツを27世帯の合計 土器制作月数273ヶ月で割ると、 1月当り16.8、40世帯で672パーツ	なし
野焼き1回当りの 薪・竹	土器60個で31kg。1袋8kgが5 パーツとして19.4パーツ	土器100個で165kg。120kgが120パーツなので165 パーツ
薪・竹の購入コス ト	竹・薪コストは1回19.4パーツ x 120回 x 購入率63.6%(33世帯 中21世帯) =1481パーツ	薪コストは1回165パーツ x 60回 x 購入率 33.3%(野焼き60回中20回) =3297パーツ
野焼き1回当りの 稲藁	土器60個で24kg。1束3kgが2 パーツなので16パーツ	土器100個で139kg、1束8kgが10パーツなので174 パーツ
稲藁の購入コスト	稲藁コストは1回16B x120回 x 購入率71.4%(42世帯中30世 帯) =1371B	稲藁コストは1回174パーツ x 60回 x 購入率 33.3%(野焼き60回中20回) =3477パーツ
土練り	2日に1回10パーツ、月平均15日 間成形を行ったとして、15日/2 x 10パーツ x 40世帯 = 3000B。土練り委託率50%(38世 帯中19世帯)なので1500パーツ	2日に1回20パーツ、期間中に20日間成形を行ったと して、20日/2 x 20パーツ x 38世帯 =7600パー ツ。土練り委託率39.1%(32世帯中12.5世)なので 2972パーツ
	ハンケオ	モー村
粘土購入コスト	3176パーツ	5330パーツ
混和材購入コスト	3632 //	5288 //
赤色顔料購入コス ト	672 //	0
薪・竹購入コスト	1481 //	3297 パーツ
稲藁購入コスト	1371 //	3477 //
土練り	1500 //	2972 //
利益	66828 //	157239 //
売り上げ	78660 //	177603 //
コスト合計	11832 (売上の15%)	20364 (売上の11.5%)

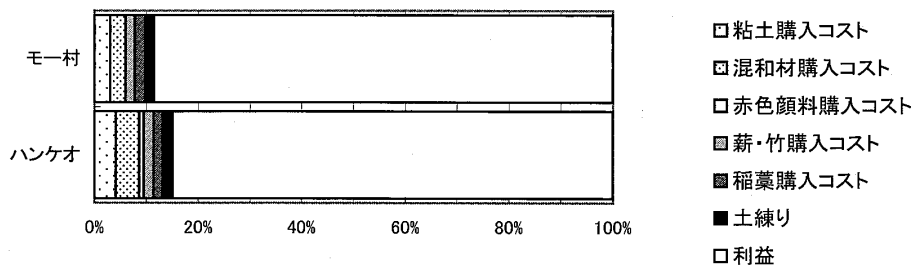


図21 土器作り収支の比較

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

野焼き1回あたり19.4パーツ消費する。この値に野焼き回数120回と購入率63.6% (33世帯中21世帯)を掛けると、12月のハンケオ全体での竹・薪燃料入手コストは1481パーツとなる。一方、稲藁は1束3kgが2パーツなので、1回の野焼きで16パーツを消費する。この値に野焼き回数120回と購入率71.4% (42世帯中30世帯)を掛けると、12月にハンケオ全体での稲藁入手コストは1371パーツと推定された。

モー村では、薪と稲藁の重量が記録された20例の野焼き事例から、「1回の野焼き(土器100個)における平均使用量は薪が165kg、稲藁が139kg」という値が集計された。(付表5a)薪は120kgが120パーツ、稲藁は1束8kgが10パーツなので、上述の重量から野焼き1回当りの薪コストは165パーツ、稲藁コストは174パーツとなる。この値に期間中の野焼き回数(60回)と購入率33.3%(薪・稲藁共に野焼き60事例中20事例が購入)を掛けると、期間中の薪入手コスト3297パーツ、稲藁入手コスト3477パーツが得られた。

ヘルパー雇用コスト:ハンケオでは、「2日に1回10パーツ、月平均15日間成形を行った」と仮定して、12月の1ヶ月間で各世帯75パーツ(15日の半分 x 10パーツ)相当の土練りが行われたと推定した。この値に、土練り委託率50%(38世帯中19世帯)と世帯数40を掛けることにより、村全体でのヘルパー雇用コストは1500パーツと算定された。ハンケオでは土練り職人は20代の女性一人のみなので、この金額が彼女の月収に相当する。

モー村では、「2日に1回20パーツ、期間中に20日間成形を行った」と仮定として、期間中に各世帯で200パーツ相当の土練り作業が行われたと推定した。この値に、土練り委託率39.1%(32世帯中12.5世)と世帯数38を掛けることにより、村全体でのヘルパー(男性3名)雇用コストは2972パーツと推定された。

土器作りの収支:上述した土器作り収入と土器作りコストの比率を示した図21より、以下の点が指摘される。第一に、土器の売り上げに対するコストの比率は、ハンケオ(15%)の方がモー村(11.5%)よりも高めである。これは、モー村では夫が土器作りに積極的参加することにより原材料と燃料の過半数を自給できるためである。なお、モー村の集計では成形ヘルパーへの手当て、チュア焼成に用いる薪燃料コストなどが含まれていないが、これらはそれほど大きな金額ではないので、上述の傾向に大きくは影響しないと考えられる。

第二に、2村のコスト比率の違いは原材料(粘土と混和材)に由来し、燃料コストの比率は2村間で大差ない。これは、ハンケオでは燃料節約型の野焼きを行うことより燃料自給率の低さを補っているためである。

第三に、2村ともに土器作りのコスト比率は2割未満であることから、土器作りは技術さえあれば元手(資本)を必要としない生業といえる。一方、世帯当りの1ヶ月(モー村では稲刈り終了後なので1月以上)の土器作り収入は、ハンケオ(40世帯)1671パーツ、モー村(38世帯)4138パーツであり、チェンマイ県の公定最低賃金150パーツ(1日)と比べて高いとはいえない。また、土器作りは時間を比較的自由に使えると思われるが、早朝から夕方まで土器作りを行っている人も多いことから、上述した収益をあげるためには会社勤めよりも長めの労働時間を費やす必要があるかもしれない。このように、土器作りは、賃金労働に比べて収益は低い、①時間が自由になる、②資本を必要としない、といった長所がある。

なお、素地作りの労働コスト(手間)については、ハンケオでは混和材は高価な川砂を購入することで済ませる反面、粘土の乾燥・粉碎、水漬けという手間のかかる仕事を主として製作者(女性)が担当するのに対し、モー村では採取した粘土をそのまま足練りすれば済む反面、混和材のシャモットの成形・焼成に多くの手間を掛けている。なお、粘土を誰でも無料で採取できるのは湖に面して集落が作られているモー村のみの特徴であり、東北タイの他の土器作り村ではハンケオと同様に粘土を購入に頼ることが多い。

9. 文化変化

世代間の変化(表6)

ハンケオ：40才代(39才の1名を含む)、50才代、60才以上の3世代に分けて土器作りの特徴を比べた結果、以下の傾向がみい出された。

第一に、年間土器製作月数は、60才代は「9ヶ月未満」が約半数、50才代は「10ヶ月」が過半数、40才代は「通年」が過半数を占める点で、若い世代ほど製作月数が多い。また、1日の生産個数も40才代(平均13.5個)・50才代(平均14.1個)の方が60才代(平均11.3個)よりも多いことから、全体としては若い世代ほど土器製作が活発であるといえる。聞き取り調査でも、年配(60才以上)の製作者は体力的な制約により製作個数が減るという意見がしばしばきかれた。なお、50才代(14.1個)の方が40才代(13.5個)よりも1日当り生産個数の平均値が多いのは、50才代の方が大型器種の比率が低い(0.5個と計算した小型器種の比率が高い)ことが原因であり、「40才代の方が50才代よりも生産性が低い」わけではない。

第二に、月間焼成回数は、12月では若い世代ほど多めなのに対し、農繁期の8・9月では40才代の方が50・60才代よりも少ない。これは、農繁期では40才代の若手の方が土器製作を犠牲にして農業労働(多くは日雇い労働)に従事していることを示している。

第三に、農地面積は若い世代ほど少ない傾向がある。特に、「農地なし」の比率は50・60才代では約半数なのに対し、40才代では8割に達する。よって、40才代の方が1日の生産個数および年間土器製作月数が多いのは、農地からの収入が少ないことが理由の一つと考えられる。

第四に、販売方法は、年配の世代ほど「注文に応じて生産する」比率が少なく、「注文を受けずに作る」の比率が高まる。聞き取りにおいても、年配世代ほど、注文のノルマを背負うような働き方を敬遠する傾向がみられた。

以上をまとめると、若い世代ほど、所有する農地が少ない分、土器生産と農繁期(8・9月)の日雇い労働に力を入れている、といえる。

モー村：世代間で以下の傾向が観察された。第一に、年間製作月数は、全体では「乾季のみ」が大半を占める点で世代間に明瞭な差はないが、高齢の世代ほど通年製作の比率が高い傾向がある。これは、高齢世代ほど所有する耕地が少ないことが理由と考えられる。

第二に、高齢世代ほど(30・40才代、50才代、60才代の順に)12月の生産個数が少なめになる。また、若い世代ほど大型器種(水甕)主体の製作者が多いのに対し、高齢世代ほど小型器種(小型鍋)主体の製作者が多い。これは、上述したように、モー村の水甕は北タイよりもかなり大きい(大

型は16%)のため、手持ちタタキを行うのは高齢者には負担が大きいことが理由と考えられる。

第三に、高齢世代ほど、粘土や薪・稲藁を購入に頼り、土練りを専門職人に依頼する比率が高まる。一方、30才代の製作者は仕上げタタキにヘルパーを使うことはない。原材料・燃料の獲得や土練りは、夫が土器作りに参加している世帯では夫の役割なので、高齢者世代ほどこれらを購入や雇用に頼るようになる事実は、高齢者世代ほど夫の関与が少なくなる(夫が死去する、または高齢のため作業量が少なくなる)ことを示している。

以上をまとめると、若い世代ほど、①土器作りと共に農作業にも力を入れている(このため通年製作する比率が低い)、②成形作業に体力を必要とする大型器種を作る比率が高い、③土器作りに対する夫の関与が大きいため、原材料の獲得や土練りなどを購入や雇用に頼ることが少ない、といえる。ハンケオと比べると、高齢世代ほど生産個数が減る点は共通するが、夫の関与も減る点が異なっている。モー村では土器作りからの引退年令が早い理由の一つとして、夫の土器作りへの関与が減ることがあげられる。

ハンケオの土器作りが活性化した背景

ハンケオはモンカオケオと並んで北タイにおいて最も伝統的土器作りが活発に行われているが、その歴史的背景として、①1996年に吉野ヶ里遺跡で開催された「炎の博覧会」への参加、②土器作り組合の結成、③タイ政府のOTOP政策、の3つがあげられる。

日本の炎の博覧会への参加：民族誌の調査報告は1970年代からたびたび日本に紹介されており、現地では日本人との接触の機会が多かった。1991年にはクアン村から2名が日本に招かれ体験考古学教室で土器作りを披露している。このとき、後述するランパーン県モンカオケオ村(ハンケオから車で約2時間)の人たちも来ており、日本の地で両者の交流があった。1996年に佐賀県で開催された「世界炎の博覧会」のイベントでは、モンカオケオ村やベトナム、中国雲南の人々とともに招待され、土器作りと野焼きを実演した。タイ国内でも土器産地として周知されており、村には地元の大学などの歴史研究者や窯業指導者も入っている。1997年のタイの経済不況期には土器の注文が激減し、ハンケオの土器製作者の多くも土器作りから一時的に離れざるを得なかったが、その後、経済が立ち直るにつれて土器需要が増加した。ただし、土器製作者数は徐々に減っている。

土器製作者組合：ハンケオの女性リーダーは、日本の「炎の博覧会」から帰った直後の1996年に組合を作ろうとしたが、うまくいかなかった。次に、2000年に組合を作り、20人未満の土器製作者が参加したが、村の長老らからのサポートがなかったため実質的な活動ができずしかなかった。この組合が活性化したのは、OTOP政策により土器製作者たちが結束してビジネスを行うことに関心を持ち始めた2004年からである。地元の工科大学の教員の勧めにより2004年夏にチェンマイ近郊で開催されたセミナーに参加したのがきっかけで、他の土器製作者を促して組合に参加させ、活動を活性化させた。活動内容として以下の3つがある。

第一に、中間の仲買人を通さずに大手の仲買に売ることにより、土器1個につき10パーツ程度高く売ることができる。この結果、組合を通してオーダーを受けた土器は1個につき5パーツ程度高い額をメンバーの土器製作者に支払うことができる。そして、残り5パーツは組合が積み

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

表6 属性間の相関

	ハンケオとモー村の違い	世代間比較ハンケオ	世代間比較モー村
年間制作月数	モー村では乾季のみ(11月～5月まで)が大半を占めるのに対し、ハンケオは大多数が8ヶ月以上であり、8・9ヶ月、10ヶ月(78月のみ休止、通年がほぼ同程度)	40代、50代、60代の順に制作月数が短くなる。引退年齢が高いため、高齢世代ほど制作が不活発になる	全体では「乾季のみ」が大半を占める点で大差ないが、高齢の世代ほど通年制作の比率が高め
世代	モー村の方が30代の比率が高く(後継者が多い)、60代の比率が低い(引退してヘルパーになることが多い)		
12月の生産個数・収入	12月の生産個数は2村間で大差ないが、モー村の方が土器単価が高い(特に水甕)ため、土器作り収入は2倍以上多い。	n/a	30/40代、50代、60代の順に生産個数少なめ。
12月の器種組成	モー村の方が大型器種の比率が高く、非伝統的器種の比率が低い。小型鍋が過半数を占める点は共通		
12月焼成回数	ハンケオの方が野焼き回数多め。1回の焼成個数が少なめのため。	若い世代ほど野焼き回数やや多め	相関なし
8・9月焼成回数	モー村では乾季に制作する人は少なく、かつ生産個数の少ないのに対し、ハンケオでは8月に制作する人の比率がより高く、また、ラムヤイ収穫後の9月には大半が制作を始める	40代は50・60代よりも焼成回数少なめ。農作業に忙しいため。農閑期では若い世代ほど野焼き回数多いのに対し、農繁期では40代の方が農業労働の比重が高い	通年制作するのは高齢世代の方が多い。耕地が少ないため
1日の制作個数	1日当りの成形個数は2村間で大差ないが、モー村の方が水甕・小型鍋の容量が1.5倍近く大きめの分、より生産性が高いといえる。	40・50代は60代よりも1日生産個数多い	相関なし(30代、40代、50代の順に個数が多いのは、この順に小型器種の重要性が高まるため)
制作器種	ハンケオの方が大型主体の比率が高く、モー村の方が「多様」の比率が高い	相関なし(60代と40代は大型主体の製作者が多い?)	若い世代ほど水甕主体が多く、高齢世代ほど小型鍋の比率が高まる
土器作り世帯での土器使用	ハンケオ3.6個の方がモー村1.5個よりも世帯の平均個数が多い。水甕よりも鍋の方が違いが顕著。ハンケオでは調理に用いられるが、モー村では消し炭入れが大多数を占め、調理用はほとんどない。ハンケオでは4月の水祭りに水甕を新品に取り替える風習があるが、東北タイではない。		
耕地面積	ハンケオの方が耕地が少ない。	若い世代ほど耕地が少ない	高齢世代ほど耕地が少ない
引退年代	モー村では60才くらいで引退してヘルパーになる人が多いのに対し、ハンケオでは70以上まで現役の人が多く。モー村で引退が早いのは、出稼ぎに出ている子どもに代わって孫の世話をする必要があったため	若い世代ほど母親の引退年齢が高い(寿命が長くなったためか?)	相関なし
姉妹が土器作りである比率	ハンケオの方がやや多め。制作者の年齢構成がやや高めのためか?		30代では低い
販売	ハンケオでは仲買からの注文に応じて作るのに対し、モー村では直接販売も多い。また、夫の手伝いが得られない世帯では未焼成の土器を仲買や他の制作者に売ることがある	年配の世代ほど注文を受けずに作る頻度が高い	
夫の仕事	モー村では過半数の世帯で夫が乾季に土器作りを手伝うのに対し、ハンケオでは夫の関与が少ない。ハンケオでは夫がいない比率が高い	高齢世代ほど夫がいない比率が高い	
ヘルパー	ハンケオでは成形は世帯単位で行うのに対し、モー村では過半数の世帯でヘルパー(引退した土器制作者)を使用	高齢になっても現役を続けるため、ヘルパーになる制作者はほとんどいない	30代の制作者はヘルパーを用いない
土練り	モー村では夫が練る比率が高いのに対し、ハンケオでは雇いが最も多く、制作者自身が次ぐ	相関なし	高齢世代ほど雇いの比率が高まる
粘土の入手	モー村では夫が採掘する例が半数近くを占めるのに対し、ハンケオでは全て購入	40・50代は60代よりも粘土購入量が多い	60代は購入が多い
混和材の入手	モー村では夫が粘土採取、chua制作、chua焼成を行う比率が高い。ハンケオでは全ての世帯が砂を業者から購入	全ての世帯で業者から砂を購入。	相関なし(60代では全てchuaを購入)
稲藁の入手	モー村の方が自給の比率が高く、購入の比率が低い。また、モー村では夫の助けがない場合は野焼きができないので、未焼成土器を売る	高齢世代ほど自給の比率が高まる(水田を保有するため)	高齢世代ほど購入する比率が高い(水田を持たないため)
薪の入手	ハンケオでは薪を用いない(竹のみ)の野焼きが多く、薪を用いる場合には全て購入する。モー村では夫が取ってくる人が多い		高齢世代ほど購入する比率が高い

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

立てておき、年度末に出資額に応じて分配する。

第二に、組合員から集めた資金をもとに新しい技術やデザインを導入したり、原材料を共同購入する。これらの資金源は組合の入会金(年間100パーツ)と1株10パーツの株である。株は平均5～10株程度を購入してもらい、株数に応じて年度末に配当が配られる予定である。この株は土器製作者でなくとも購入でき、リーダーの家族など土器製作者でない人も約20名が購入している。過去6ヶ月で約4000個の土器が組合を通して注文されたという。

これらの資金の使い道としては、①金銭的余裕のない土器製作者のために粘土や砂を購入する(販売して利益がでたら返却)、②OTOPなどの展示会で販売する土器の製作費用(製作者に支払う)、③土練り機などの導入、などがある。これらのうち②については2004年12月末～2005年1月に開催されたチェンマイ市 Winter Festival のOTOP展示会に出品された土器(チキンロースター、黒色化した小型モーナム、トムヤムセットなど)の製作費として使われた。

第三に、地元大学の教員らの支援により、土器作り技術を改善する(例えば、焼成時における外面の剥落を防ぐ)ための研究を行っている。また、電動ロクロや窯を用いた新しい土器作りが、地元大学、JICA、政府などの援助を得て進みつつある。この新しい土器作りは、①実用的な水甕と鍋を主体とする伝統的器種ではなく、より付加価値が高い装飾的な容器、塑像、噴水、などを作る、②オリジナルなデザインを開発する、③男性も製作する、④碎石器、土練り器、電動ロクロ、窯といった機械化した設備を用いる、などの点で伝統的土器作りとは大きく異なっている。

窯焼き陶器の導入とOTOP: タクシン前首相が大分県の一村一品運動をモデルとしてはじめた地域振興・経済活性化策で、行政が作り手たちに組織化の指導やOTOP商品に指定して販売支援などに取り組んでいる。これらの動きは彼女たちが自らのアイデンティティを確立していく上で少なからぬ影響を与えている。かつては農閑期(乾季:11月～2月頃)のパートタイム労働として細々と存続してきた手工業であったが、近年一気にフルタイムの従事者が増えた。伝統器種とともに、レストランなどで使用するトムヤムセット、小型カップ、チキンロースターなど付加価値の高い製品を作り始めている。このような商業ベースにのった積極的な生産姿勢と需要の拡大が伝統技術や生産手段に変容を促していく。

モー村の土器作りの変化

モー村で土器作りが活発に行われている背景として、かつて土器作り世帯が中心となって村を作り上げたことがあげられる。即ち、モー村のルーツについては、数世代前(100年以上前)にコラートから土器製作者集団が良質な粘土を求めて移住してきた、という伝承がある。モー村は良質の粘土が取れる湖に面して立地していることが、移住先として選ばれた理由と考えられる。

伝統的土器作りの主体である水甕と土鍋は東北地方全体では需要が減っており、特に土鍋は本来の機能に使われることが稀になっている。しかし、モー村では、非伝統的器種(トムヤムセット、ティーサーバーなど)はごく少数しか作らないにも関わらず、年間生産個数はかなり多い。モー村の土器作りは、以下の点でハンケオに比べて変化が緩やかである。第一に、ハンケオでは、トムヤムセット、水甕、モーケン(調理用に加えて盛り付け用)といった世帯以外(レストランや商店など)での需要の比率が高かったため1997年の経済危機の影響が大きかったのに対し、モー

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

村では農村での生活必需品器種を中心に製作してきたため、その影響が小さかった。

第二に、ハンケオでは1997年の経済危機で土器作りが瀕死状態に陥った後、若手リーダーによる組織作り、経済の復興、OTOP政策などにより土器作りが復興したのに対し、モー村では伝統的土器制作者を組織化する動きはみられない。また、ハンケオ（および隣接するランパーン年県のモンカオケオ村）では、組合組織化のリーダーである若手制作者が窯焼きを含めた非伝統的器種を積極的に導入しようとしているのに対し、モー村ではJICAの支援で進められている窯焼き土器の導入は伝統的土器制作者とは別組織で進められている。伝統的器種はOTOPの対象にはなりにくいことから、その恩恵を受けるのは窯焼きの新タイプの土器作り集団に限られる。

第三に、上述のように、モー村では30才代の土器制作者がある程度存在する点で、30才代がないハンケオに比べて後継者不足が多少緩やかである。

10. 結論：北タイ・ハンケオと東北タイ・モー村の違いを生み出した要因

農業の特徴と土器作りの季節性との関連

二期作が普及している北タイに比べ、東北タイでは河川が少ないため乾季が農閑期となる。また、雨季の農業も天水田稲作であり、かつ土壌が塩分を含むため水田の生産性が低い。このため生業は、雨季の天水農業と乾季の副業（織物、土器作りなど）か出稼ぎ、という組み合わせになる。よって、土器作りは乾季集中型となり、雨季に土器を作ることが北タイよりも少ない。

土器作りの季節性と分業の特徴（土器作りにおける男性の関与程度）の関連

東北タイでは、土器作りが集中的に行われる乾季は農閑期であるため、男性が積極的に土器作り（原材料の入手、土練り、野焼き、販売）に関与できる。都市近郊型の北タイに比べて、付近に定職や賃金労働の機会が得にくいことも、男性の土器作りへの関与を強める要因となっている。このような理由から、男性の関与が少ない北タイ・ハンケオでは、製作者である女性が素地作りから焼成までの作業を行い、女性には負担が大きい（東北タイでは男性の役割となっている）原材料の入手は購入に頼っている。なお、薪燃料多用型である東北タイの野焼きは、薪燃料の入手や野焼き作業に男性の関与が不可欠なのに対し、薪節約型の小規模な野焼きを行う北タイでは男性の関与がなくとも野焼きを行うことができる。

東北タイの土器作りにおける男性の関与

モー村における世帯間の土器作り様式（生産個数、生産性、季節性）の違いを生み出す最も重要な要因は、「土器作りに対する男性の関与程度」である。即ち、薪燃料多用型で1回の焼成個数が多い東北タイの野焼きでは男性の関与が必要なため、男性の関与が得られない世帯では、未焼成土器を安い価格で売るか、ヘルパーとして土器作りを続けるかのどちらかを選択することになる。また、高齢世代ほど土器作りが不活発になるのは、高齢世代ほど夫が土器作りに関与する度合いが減ることが理由の一つである。

野焼き技術と分業の関連

東北タイの覆い型野焼きが北タイに比べて薪燃料多用型である理由として、以下の点があげられる。第一に、集落内や道路沿いから薪燃料(剪定した細長い枝)を無料で調達できるため、男性が土器作りに関与している世帯では豊富な薪燃料を得ることができる。一方、男性が土器作りにあまり関与していない北タイでは、燃料や原材料を購入に頼るため、薪節約型の野焼きの方が適している。このように、東北タイにおいて薪多用型の野焼きが選択されるのは、「薪が豊富に得られる自然環境」のためというよりも、「薪を調達する労働力が存在すること」がより大きな理由である。第二に、乾季集中型の土器作りなので、雨季対策を施す必要がない。薪多用型の野焼きは、燃料が確実に着火するために低密閉になるので、雨季には適さない。というのは、密閉度の低い覆い型野焼きでは昇温が急激なため雨季では土器を破損し易いし、また、覆いを掛けることができないため雨に弱いからである。

謝辞

本稿で述べたタイの土器作り村の調査は以下の方々のご協力により可能となりました。記して感謝いたします。調査メンバーである中村真里絵氏、中村大介氏、Usanee Thongchai 先生、アシスタントを務めてくださった Pinprapa Lohajinda、Supranee Sungted、Ronnie、Aom、Kanyarat Sonsupap、Patamawadee Yotapakdee、Lersung Hemsamak の各氏、モー村調査において多くの手助けを頂いた丹治能彦氏、貴重なご教示を頂いた Sureeratana Bubpha 氏、Louise Cort 氏、そして、忙しい土器作り作業の中、私たちの調査に協力してくださったハンケオとモー村の土器作り世帯の方々。

引用参考文献

- Arnold, D., 1985 *Ceramic theory and cultural process*. Academic Press New York, .
- 芦屋市淡神文化財協会 1991 『タイの土器作り』
- 北野博司 2005 「東南アジアの土器作り村をたずねて」『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』4: 151-158
- 小林正史 1993 「稲作文化圏の伝統的土器作り技術」『古代文化』45 (11) :27-50
- 2003 「東南アジアの土器作り民族誌における工程間の結びつき」『立命館大学考古学論集Ⅲ』1043-1066 頁。
- Tani, M. and W.A. Longacre 1999 On methods of measuring ceramic use life. *American Antiquity* 64 (2) : 299-308
- 植崎彰一、リーダム・レファート、ルイス・コート 2000 「東南アジア本土における現代の土器および焼締陶の生産に関する地域調査」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』8:105-192
- 瀬川芳則 1983 「土器作り」『古代日本の知恵と技術』pp.141-171、大阪書籍
- 高田一夫 1975 「土器を焼く村: タイ北部バン・ハンケオ所見」『えとのす』4号, 117-120 頁。
- 植田正幸・小川文雄 1985 「土器作りムラ入門記(下)」『まんだ』24号 54-58。

「北部タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景」要旨

東北タイと北部タイは蒸したもち米を主食とするなどの共通点がある一方、土器作り技術においては叩き成形の入念さや覆い型野焼きの密閉度など違いが顕著である。両地域の土器作り技術の違いを生み出した要因を明らかにするため、自然環境、農作業スケジュール、男女の分業、土器生産規模、土器作りの生産性(1日当りの製作個数)、土器作りコスト、土器の種類などを比較した。その結果、以下の点が明らかとなった。

第一に、乾季に農業ができない東北タイでは、土器作りが集中的に行われる乾季は農閑期であるため、男性が積極的に土器作り(原材料の入手、土練り、野焼き、販売)に関与できる。都市近郊型の北部タイに比べて、付近に定職や賃金労働の機会が得にくいことも、男性の土器作りへの関与を強める要因となっている。一方、男性の関与が少ない北部タイ・ハンケオでは、制作者である女性が素地作りから焼成までの作業を行い、女性には負担が大きい(東北タイでは男性の役割となっている)原材料の入手は購入に頼っている。この結果、薪燃料の入手や野焼き作業に男性が関与する東北タイでは大規模な薪燃料多用型の覆い型野焼きが採用されるのに対し、北部タイでは男性の関与がなくとも行うことができる薪節約型の小規模な野焼きを採用している。

第二に、東北タイにおいて大規模な薪多用型野焼きが採用されるもう一つの理由として、乾季集中型の土器作りのため雨季対策を施す必要がないことがあげられる。

このように、両地域の土器作り技術の違いは自然環境の違いが強く関連している。

付表1a ハンケオの世帯属性・原材料コスト(その1)

世帯no	年令	製作開始年齢	母の引退年齢	姉妹の比率	姉妹の土器製作者	夫の関与	耕地面積	器種レパートリー	制作期間	土練り	粘土	年間粘土使用金額	砂	年間砂使用金額	稲藁	年間稲藁金額	竹	年間竹使用金額	薪	年間薪使用金額	赤色顔料	年間顔料使用金額	
1	43	10	55	1 out of 1	all	job	none	大型主体	通年	雇用	buy 5Q (600B) once a yr	600	buy 1Q (500B) 2times/yr	1000	buy 100 bundle/yr (200B)	200	husband got from construction	free	buy 1 pickup truck (300B) once a yr thr trader	300	buy 3 liter (60B) per yr thr trader	60	
42	55	8	70	1 out of 3	less than half	no hus	17fruit	不明	10ヶ月	制作者	buy 5Q (600B) once in 2yrs	300	buy 0.5Q (250B) 4 times per yr	1000	buy 150bundles (300B) /yr	300	own field	free	not use	not use	buy 10liter (100B) once a yr	100	
48	47	13	60	1(+1) out of 2	over half	farmer+labor	rental	雨季小型、雨季大型	通年	夫	buy 1 truck (600B) once a yr	600	pay 100B/mo	1000	buy 200 bundles (400B) 2times/yr	800	pay 100B for 4-5 firings	400	not use	not use	pay 10B per mo	100	
49	49	13	69	1(+2) out of 3	over half	no hus	none	乾季小型、乾季大型	通年	制作者	buy 5Q (600B) once a yr	600	buy 0.5Q (250B) /mo	1000	buy 200bundles (400B) once a yr	400	buy 20rice bags (100B) per mo	500?	not use	not use	pay 20B per mo	200	
50	54	12	73	2 out of 2	all	farmer+labor	6fruit	大型主体?	10ヶ月	夫	buy 1 truck (650B) once a yr	650	pay 100B _times/yr	?	given 300bundles (free) by brother	free	husband from construction (0.5 pickup truck per yr)	free	not use	not use	buy 2 liter (40B) _times a yr	?	
51	59	12	60	1 out of 1	all	no hus	none	大型主体	9ヶ月以下	雇用	buy 1 truck (600B) once a yr	600	pay 100B _times a yr	?	own rice	free	buy 10 sacks (50B) 3 times a yr	150	buy 10 sacks (50B) 3 times a yr	150	buy 1 liter (20B) 3 times a yr	60	
53	70	15	70	1(+3) out of 4	over half	farmer	7rice, 1.2fruit	乾季小型、乾季大型	9ヶ月以下	雇用	buy 1 truck (600B) once a yr	600	pay 250B _times a yr	?	own rice	free	own field	free	own	free	buy from trader	?	
63	62	12	60	2 out of 2	all	no hus	none	大型主体	9ヶ月以下	雇用	buy 1 truck (600B) once a yr	600	pay 200B _times a yr	?	buy 200bundles (400B) once a yr	400	pay 300B _times a yr	?	not use	not use	buy 3 liter (60B) once? a yr	60	
65	60	14	60	1 out of 1	all	no hus	4rice	半々	9ヶ月以下	雇用	buy 1 truck (600B) once a yr	600	buy 0.5Q (250B) per mo	?	buy 300 bundles (600B) once a yr	600	buy a pickup truck (100B) for 5 fires	500	own	free	buy 3 liters (60B) 5 times a yr	300	
66	60	15	製作せず	2 out of 2	all	no hus	1.5fruit	大型主体	9ヶ月以下	制作者	buy 5Q (600B) once in 2yrs	300	buy 0.5Q (200B) once a yr	200	?	?	buy 1pickup truck (200B) once a yr	200	own	free	buy 1 liter (10B) _times per yr	?	
69	50	12	46病氣	1 out of 1	all	labor	none	大型主体	10ヶ月	雇用	buy 5Q (600B) 2times a yr	1200	buy 0.5Q (250B) per mo (x9)	2000	buy 100 bundle/yr (200B) 3 times a yr	600	free. Husband got from construction	free	not use	not use	pay 20B per 2mo (x4.5)	90	
70	39	15	60	1 out of 1	all	job (driver)	none	大型主体	10ヶ月	雇用	buy 1 truck (400B) once a yr from aunt	400	pay 200B for 15days	?	own rice	free	buy 10 bags (50B) for 1 fire	2000	buy 20bags (100B) for 3 fires	1000	buy 1 liter (10B) 5 times a yr	100	
78	?							大型主体	10ヶ月								?						
81	48	12	78	1 out of 5	less than half	no hus	rice 2rai (brother cultivates)	半々	9ヶ月以下	雇用	buy 1 truck (600B) once 1.5yr	400	buy 0.5Q (250B) for 3 mo (4 times a yr)	1000	brother's rice	free	pay 500B for 3mo	1500	pay 500B 3-4 times a yr	1500	buy 3 liters	?	
85	51	14	70	1 out of 3	less than half	no hus	rice 1.5	雨季小型、乾季大型	9ヶ月以下	制作者	buy 5Q (650B) once a yr	650	buy 0.5Q (200B) /mo	?	own rice 300bundles a yr (200B rent-a-car)	free -200	pay 70B per 0.5mo (x8mo)	1120	not use	not use	pay 20B once a mo (x8mo)	120	
89	?							不明	10ヶ月														
92	47	12	80	1(+2) out of 4	half	no hus	none	不明	通年	制作者		?											
97	62	18	70	1 out of 1	all	farmer	3rai	不明	通年	夫	buy 5Q (600+200B) once a yr	800	buy 0.5Q (250B) for 1.5mo (x8)	?	buy 300 bundles (600B) once a yr	600	buy 1 pckup truck (400B) per mo	?	not use	not use	?		
100	62	10	70	2 out of 2	all	no job (sick)	1.5fruit	不明	9ヶ月以下	雇用	buy 1 truck (650B) once a yr	650	buy 0.5Q (250B) 2 times a yr	500	buy 300 bundles (600B) once a yr	600	buy 20bags (100B) 3-4 times a yr	400	not use	not use	buy 3 liter (20B) 2-3 times a yr	50	
105	66	20		1 out of 2	half	farmer	4rice, 0.5fruit	小型主体	9ヶ月以下	夫	buy 1 truck (600B) once a yr	600	pay 400B 5 times a yr	2000	own	free	own field	free	pay 500B once a yr	500	buy 1 liter (10B) 10 times a yr	200	
117	62	20	55	1 out of 2	half	no job	none	大型主体	通年	夫	buy 1 truck (600B) once a yr	600	pay 100B for 20days	?	free gevin by relatives	fee	free	free	not use	not use	buy		

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

付表1a ハンケオの世帯属性・原材料コスト(その2)

世帯no	年令	製作開始年齢	母の引退年齢	姉妹の制作者の比率	姉妹の土器製作者	夫の関与	耕地面積	器種レパートリー	制作期間	土練り	粘土	年間粘土使用金額	砂	年間砂使用金額	稲藁	年間稲藁使用金額	竹	年間竹使用金額	薪	年間薪使用金額	赤色顔料	年間顔料使用金額
119	?							不明	10ヶ月													
121	50	13	58	1(+1) out of 2	over half	no hus	none	小型主体	通年	雇用	buy 5Q (600B) 2 times a yr	1200	buy 0.5Q (250B) 2-3 times a yr	625	buy 250bundles (500B) once a yr	500	free	free	not use (or free)	not use	buy 3 liters (20B) per mo	200
126	62	15	50	1(+1) out of 3	half	job (cook)	none	小型主体	10ヶ月	制作者	buy 1 truck (700B) once a yr	700	pay 200B 2-3 times a yr	500	buy 250bundles (500B) once a yr	500	pay 200B for 4-5 firings	1200	buy 20bundles (100B) 1 times a yr	?	buy 2.5liter (25B) 3 times a yr	75
135	67	15	50	1(+2) out of 4	less than half	no job	rice, fruit, flower	大型主体	10ヶ月	制作者	buy 1 truck (600B) once a yr	600	buy 0.5Q (250B) 3 times a yr	600	pay 200B per yr	200	?				?	
R011	47	12	60	2(+1) out of 3	over half	labor	none	小型主体?	通年	雇用	buy 10Q (1300B) once a yr	1300	buy 0.5Q (100B) for 1.5 month (x6)	1500	buy 400 bundles (800B) once a yr	800	pay 200B 4 times a yr	800	not use	not use	pay 20B for 1mo (x10)	200
R051	67	15	71	1 out of 2	half	no job	none	乾季小型、雨季大型	通年	雇用	buy 1 truck (650B) for 3 mo?	1300?	pay 500B for 5 mo	1000	buy 400 bundles (800B) for 9 mo	800	pay 450B for 2 mo	2000	not use	not use	buy 0.2kg (20B) for 2wks	400
R053	69	11	50	1 out of 2	half	no hus	none	小型主体	通年	制作者	buy 1 truck (600B) once in 1.5yr	400	pay 200B 5 times a yr	1000	buy 150 bundles (300B) /yr	300	buy 2 bundles (20B) 2 times a mo	400	not use	not use	buy 2liter (20B) 2 times amo	400
R054	49	12	現役	1 out of 1	all	job (craft)	none	不明	9ヶ月以下	雇用	buy 5Q (600B) once a yrs	600	pay 250B 2 times a yr	500	buy 100 bundles (200B) 2 times a yr	200	pay 50B 10 times a yr	500	pay 100B 2 times a yr	200	pay 3liters (20B) 3 times a yr	60
R054 b	72	15	80	2(+1) out of 3	over half	no hus	none	大型主体	休止	雇用	buy 5Q (600B) once in 2yrs	300	buy 0.25Q (100B) once a yr	100	100bundles per 6mo free	free	buy 2 bundles (30B) 2 times a mo	480	not use	not use	buy 3liters (20B) once in 2 mo	90
R055	75	12	60	1 out of 2	half	no hus	rice, fruit	大型主体	10ヶ月	雇用	buy 5Q (600B) once in 1.2yrs	500	buy 0.25Q (100B) once a mo	?	own 300 bundles	free	free	free	not use	not use	pay 10B per 1.5mo	60
R114	65	12	70	2(+1) out of 3	over half	no job	none	大型主体	9ヶ月以下	制作者	buy 5Q (650B) once in 3yrs	220	buy 0.5Q (200B) for 6month	400	pay 200B per yr	200	?	?			buy 2 liter (40B) once in 3mo	120
R122	51	12	80	2(+2) out of 5	half	farmer	fruit 4rai	大型主体	通年	雇用	buy 5Q (600B) once a yrs	600	buy 1Q (500B) for 6mo	1000	buy 300 bundles (1000B) once a yr	1000	own field	free	not use	not use	not use	not use
RW024	53	12	75	1 out of 1	all	labor	none	小型主体	10ヶ月	制作者	pay 600B once a yr	600	buy 0.5Q (250B) 4 times a yr	1000	buy 600 bundles (1200B) once a yr	1200	pay 50B for 1 firing	1600	not use	not use	buy	?
RW035	45	12	48死去	2(+1) out of 3	over half	job (mechanic)	none	大型主体	9ヶ月以下	制作者	buy 5Q (600B) once a yrs	600	buy 2Q (400B) 3 times a yr	1200	buy 300 bundles (600B) once a yr	600	pay 300B 2 times a yr	600	not use (or free)	not use	buy 1 liter (20B) 10 times a yr	200
RW042	54	13	57	1 out of 2	half	no hus	4fruit	小型主体	10ヶ月	雇用	buy 5Q (600B) 2 times a yrs	1200	buy 3Q (900B) 3 times a yr for construction too	?	buy 200 bundles (400B) times a yr	?	pay 300B 3 times a yr	900	not use	not use	buy 1 liter (20B) for a mo	200
RW085	48	14	48死去	2 out of 3	over half	farmer	4rice, 0.5fruit	小型主体	10ヶ月	雇用	buy 5Q (600B) once a yrs	600	buy 1Q (150B) 5 times a yr	750	pay 60B 5 times a yr	300	pay 150B 10 times a yr	1500	not use	not use	buy 1 liter (40B) 10 times a yr	200
RW090	70	12	?	1 out of 1	all	no job	7rai (now, she gave it to her daughter)	乾季小型、雨季大型	通年	制作者	buy 5Q (600B) once a yrs	600	buy 0.5Q (250B) 3 times a yr	750	own	free	not use	not use	pay 10B for each firing	400	buy 2 liters (40B) 5 times a yr	200
RW109	48	15	76	5 out of 5	all	trader	none	不明	10ヶ月	夫	buy 10Q (1200B) 2 times a yrs	2400	buy 0.5Q (250B) for 2mo	?	buy 500 bundles (1000B) once a yr	1000	pay 50B once a wk	2000	not use	not use	pay 10B once a wk	400
RW120	52	12	55	2(+1) out of 3	over half	labor (agri)	none	乾季小型、雨季大型	10ヶ月	夫	buy 10Q (1300B) once 1.5yrs	870	pay 250B for a mo	?	own, 300 bundles per 6 mo (200B car rent)	free	pay 100B 2 times a mo	1600	not use	not use	pay 20B 2 times a mo	300
RW124	50	12	48死去	2(+1) out of 3	over half	farmer	3 rai (+10rai rental)	乾季小型、雨季大型	9ヶ月以下	制作者	buy 5Q (600B) 3 times a yrs	1800	pay 400B for 1.5mo	?	own	free	pay 100B for each firing	?	not use	not use	buy 1 liter (10B) for 2 firing	140
RW125	53	8	60	1 out of 2	half	labor	none	不明	休止	雇用	buy 5Q (600B) for 6mo	1200	pay 250B for a mo	?	buy 100bundles (200B) for a mo	200	own field	free	husband	free	?	?

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

付表1b モー村の世帯属性・原材料コスト(その1)

世帯no	年令	製作開始年齢	再開年齢	姉妹の製作者の比率	娘の製作者の比率	母の引退年齢	耕地面積	日雇い労働	土器制作月数	夫の関与	ヘルパー	土練り	粘土	稲藁	薪	シャモット	販売	レバートリー
2	54	18	nobreak	half	none of 2	50	none	y	all yr	no hus	y	hire	buy 2 boats amount (for 5days) from Tu on Dec.21	buy 140 bundles (for 2mo) from relatives Nov.	buy 1 wheel amount (120B) from Tu in Nov.	buy 300pcs from Tu + made 150 pcs (450pcs for 1mo) in Nov.	trader_outside	various
5	50	14	nobreak	over half	no da	60	8 rai	sometimes	all yr	clay, chua, sell	y	hire	Hus dig 1 boat amount (for 4 days) on Dec.26	Own rice + buy 300 bundles in mid Nov.	Husband	Made 800 pcs in mid Oct.	direct	various
8	35	12	BKK	less than half	no da	60	10 rai	none	none	sell	?	?	Buy 2 boats amount (for 7days) from Tu	own rice	Husband	Buy 400pcs (for 3 firings) from Tu in mid Dec.	direct	various
10	50	13	?	all	none of 1	70	none	y	none	no hus	?	potter, hire	Buy 2 boats amount (for 7days) from Tu on Dec.30	no fire	Buy for chua firing	Buy 500pcs from Tu.	unfired	various
11	48	10	BKK	half	none	70	11 rai	none	oct	clay	?	hire,hus	Buy from Tu +Hus digs. Hus dug 2 boats amount (150hun or 30nam in 1 boat) on Jan.4	own rice	Hus collected from near rice field	buy 300pcs (for 1mo) from Tu in Jan.04.	trader29	various
12	43	10	nobreak	no sister	?of 1	died in 40's	none	y	all yr	clay, chua, sell	y	hus	Hus dig 1 boat amount (for 4 days) on Jan03.	Buy 200 bundles.	Husband	Normally make. Sometimes buy from Tu and Sing	direct	various
14	42	27	moved-in	half	none of 1	70	none	y	none	no hus	?	hire	Buy 2 boat amount (for 7days) from Dec on Jan.04	Buy from H24 for chua firing	none	Buy 300 pcs (for 3wks) fromDec on Dec.30	unfired	nam only
19	53	12	?	all	none of 1	59	none	y	none	clay, chua	?	?	Son digs 2 boats amount (for 10 days) 2 times/mo	?	?	Make chua in early Jan.	?	various
22	60	14	BKK	half	none of 1	70	none	y	all yr	sell	y	hus	Buy 1 boat amount (for 6 days) from Tu on Dec.30.	Own rice + sometimes buy	Husband	Buy 300 pcs from Tu on Dec.28	direct	various
24	50	17	nobreak	less than half	no da	died	none	y	none	clay, chua, sell	?	hus, hire	Hus dig, or buy from Tu. Dig 1 boat amount (4 days) on Jan.6	Buy 14 bundles (for 1 firing) on 14 bundles	Husband +buy. Buy 0.5 wheel on Dec.25	make 300 chua for 1month.	direct	nam only
25	33	11	BKK	no sister	none of 2	45	11 rai	y	none	job, chua	none	hus	Buy 2 boats (for 1wk) on Dec.19	no fire	? For chua firing	Made 500 chua on Dec.27	unfired	nam only
31	38	14	BKK	half	?of 2	64	none	y	none	clay, chua	none	hus, hire	Hus dig 1 boat amount (for 3 days) on Jan.5	buy 50 bundles in early Dec.	Hus collected on Dec.25	Made 400 pcs (for 1 mo) in early Dec.	trader29	nam only
41	54	15	?	no sister	?of 1	60	rent 2 rai	none	all yr	job	none	hus	Buy 1 boat amount (for 5 days) from Tu in late Nov.	Buy 200 bundles (for 1 yr) on Dec	Husband and buy. Buy on early Dec.	Buy 300 pcs (for 2-3 mo) from Tu on Oct.	direct	nontraditional
52	43	?	?	all	none of 2	yet	3 rai	y	none	clay, chua, nontra-pot	?	hus	Hus digs clay 7 times a mo, sometimes buy.	own rice, and buy. Buy 150 bundles (for 2-3mo) on Nov.	Hus colcted around school	Made 300 pcs (for 2mo) last Oct.	trader29	nam in April-May, Keen in Dec.
57	50	14	nobreak	no sister	none of 2	52	none	y	none	chua, sell	?	hus	Buy 2 boat amount (for 5days) from H91 on Dec.27	Buy 200 bundles (for 2-3mo) on Nov.	Husband	Made 700 pcs in Nov.	trader29	various
63	60	14	BKK	no sister	none of 2	66	rent 10 rai	none	oct	?	?	hire	Buy 3 boats amount (for 18 days) from Tu on Jan.3	Own rice, sometimes buy	Buy	Buy 400pcs (for 4 firings) from Tu on Jan.2	trader29	Keen/hun only
73	47	13	BKK		none of 2	69	rent 4 rai	none	none	clay, chua	?	hus, hire	Hus digs clay	Own rice and sometis buy	Husband	Made 400 pec (for 3mo) each time.	trader24	nam only
74	30	19	BKK	less than half	?of 1	yet	rent 8 rai	none	none	job	none	hire	Buy 2 boats amount (for 7 days) from Tu.	Own rice and sometis buy	Husband	Buy 500pcs (for 1 mo) from Tu on Dec.29	trader29	nam only
79	45	14	BKK	all	no da	60	none	y	none	job	y	potter	Buy 1 boat amount (for 1wk) from Tu in the end of Dec.	Buy from Tu	Buy from Tu.	Buy 300 fired chua (for 1.5mo) from Tu on mid Nov. Paid 100bahts for firing.	unfired	various
80	60	12	nobreak	all	none of 2	died young	none	none	none	clay	?	?	Hus dig 3 boats amount 9 times a month on last April.	Buy	Buy	Buy 600 pec (for 1mo) from Tu last April	trader29	various
83	56	13	BKK	over half	none of 1	?	12 rai	none	just started	no hus		hire	Buy 2 boats amount (for 15 days) from Sing on Jan.5. paid 200 bahts with delivery.	none	none	Buy 200 pec (for 200 keen) from Sing on Jan.03	unfired	mostly keen/hun
88	60	12	BKK	no sister	none of 3	?	none	y	just started	no hus	none	potter	provided by trader H29	none (no firing, nor chua making)	none (no firing, nor chua making)	provided by trader H29	unfired	Keen/hun only
91	53	9	moved-in	over half	none of 1	50	none	none	none	clay, chua, sell	none	hus, hire	Hus dig clay 3 times a wk	buy 300 bundles	Husband	Hus makes chua once a month	direct	various
93	51	10	nobreak	all	no da	died	none	y	none	no hus	none	hire	Buy 1 boat amount (for 30nam) from Sing	get through labour work	potter	Buy 200 chua from Sing last fall.	trader29,24	nam only
99	64	14	BKK	less than half	none of 3	died young	rent 9 rai	none	all yr	job (cattle)	y	hire	Buy 1 boat amount (for 7 days) from Tu in Dec.29	Own rice and sometis buy	Buy from Tu.	Buy 200 pcs (for 2mo) from Tu 2 mo ago.	unfired	various
100	54	12	nobreak	over half	no da	66	none	y	none	no hus	?	hire	Buy from relatives	Buy	Buy	Buy from Snsween.	trader24	various
102	56	12	moved-in	over half	none of 2	50	none	none	all yr	clay, chua	none	hus	Husband	Buy from neighbour	Husband	Husband made 400 pcs (for 3-4 mo) on Dec26	trader29	mostly keen/hun

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

付表 1b モー村の世帯属性・原材料コスト (その2)

世帯no	年令	製作開始年齢	再開年齢	姉妹の製作者の比率	娘の製作者の比率	母の引退年齢	耕地面積	日雇い労働	土器制作月数	夫の関与	ヘルパー	土練り	粘土	稲藁	薪	シャモット	販売	器種レパートリー
105	51	15	nobreak	over half	none of 1	60	9 rai	none	none	clay, chua, sell	y	hire	Husband dig clay 5-6 times a month.	own rice and buy. Buy 500 bundles (for 2 mo) in Nov.	Husband, sometimes buy	Husband made 500 pcs (for 3 mo) in Oct.	direct	various
107	48	15	nobreak	less than half	none of 1	60	rent 22 rai	sometimes	none	clay, chua	y	hus	Husband digs clay every 3 days.	own rice. Prepare 300 bundles (for 4 month) in mid Nov.	Husband	Buy 500 pcs (for 100 nam) from Tu on Jan.2.	trader29	mainly nam
108	53	20	BKK	over half	none of 1	60	rent	y	just started	clay, chua	none	hus	Husband dig 2 boat amount (for 4 days) on Jan.5.	own rice. Prepare 200 bundles (for 2.5 month) in late Nov.	Husband	Husband made 600 pcs (for 2 firings) on mid Dec.	trader	various
114	40	18	BKK	over half	none of 1	66	rent from father	y	none	clay, chua	y	hus	Husband dig every 2 days.	Own rice. Prepared 120 bundles (for 3-4 mo) in mid Nov.	Buy 10 bundles (for 1 firing) from Bon with 240bahts.	Made 300 pcs (for 1mo) in mid Dec.	trader136	Keen/hun only
117	41	10	BKK	all	?of 2	67	rent (from fa?)	sometimes	none	job	y	hus	Buy 2 boats amount (for 8 days) every 8 days	own rice. Prepare 100 bundles (for 3-4 mo) in early Dec.	Husband	Buy 200 pcs (for 3 firings= 900 hun) from Saviang on Dec.18	trader29	various
123	46	15	BKK	less than half	none of 2	60	4 rai +rent 5 rai	none	none	clay, chua	y	hus, hire	Husband dig 2 boat amount (for 2days) on Jan.4	own rice. Prepare 220 bundles (for 5.5 mo) in early Dec.	Buy from Tu.	Make by themselves, and buy. Buy 300 pcs (for 3 firings) in early Dec.	trader29	various
137	44	15	nobreak	over half	none of 1	60	rent 2 rai	y	none	clay, chua	y	hus	husband digs 2 boat amount (for 5 days) every 5 days.	own rice	Husband +buy. Buy 2 wheels (for Dec.28 firing) on Dec.26 with 240bahts	Made 300 pcs (for 2 firings) in early Nov, sometimes buy.	trader136	nam only
171	40	19	moved-in	no sister	none of 1	non-potter	none	y	all yr	sell pots	y	hus	Buy 2 boats amount (for 15 days) from Tu on Jan.7	Buy 25 bundles (for 1 firing)	Husband	Buy 300 pcs (for 1-2 mo) from Tu in Nov.	direct	nam only
178	34	14	nobreak	over half	none of 2	66	rent 8 rai	y	oct	clay, chua	none	hus	Husband dig clay every 5 days.	own rice. Prepared 193 bundles (for 2.5 mo) in early Dec.	Husband, sometimes buy. Buy 2 wheels (240 bahts, measured as 260kg) from Bua for Jan.4 firing.	Make chua, and sometimes buy. Buy 350 pcs (for 2 firings) from H114 in mid Dec.	trader	nam only

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

付表2a ハンケオの保有土器数と使用期間

世帯no	水かめ	age	モーケン	age	モーカオ	age	モートム	age	その他	age
42	2	1yr	1 cook	3mo	0		0			
48	1		2 soup cooking +warer boiling		0		1 water boiling			
49	0		1 cook	4yr	0		0		0	
50	1	3mo	2	1mo	0		1	3mo	1 kettle	5mo
51	1	renew on April	1 soup cooking	4mo (breaks 3 pots per yr)	0		0		0	
53	2		1 soup	1yr	0		1 water boiling			
63	1	3mo	1	5yr	2 as flower pots	3yr	0			
65	2		2 soup cooking		0		0			
66	1	1yr	0		0		1	2yr		
69	2	2yr	1 cook	1mo	0		0			
70	2	renew on April	1 cook soup	10yr	0		1 boiling	10yr>		
81	3		1 soup cook		0					
85	2	3mo	2 cook	1yr	0		0		rice steamer	1yr
92	3	9mo	1 cook	2mo	0		1 cook rice+soup	2mo	kettle 1 to make medicine	3mo
97	2	1yr	1 cook	2yr	1 make medicine	1yr	0			
100	5	renew on April	1	1yr	0		0			
105	1	1yr	2	1yr	0		1	3yr		
117	3		2 cook soup		0		2 boil rice +water			
121	2		0		0		0			
126	1	2yr	1	1yr	0		1	2yr		
R011	1	6mo	1 cook	1yr	0		0			
R051	2	1yr	1 cook	1yr	0		0			
R053	1	1.5yr	2 cook soup	1.5yr	1 herb soup	10days	2 cook rice gruel	3mo		
R054	0		0	stop using 1yr ago	0		0			
R054	1	1yr	0		0		0			
R055	2	6mo	0		1 medicine	5mo	0			
R114	1	renew on April	0		0		0			
R122	0		1 cook	10yr	0		0		1 chicken oven	5yr
RW024	2	2yr	1	1yr	0		1	3mo		
RW035	3	1yr	1	3yr	0		1 cook	5yr		
RW042	1	3mo	1	1yr	0		1	1yr		
RW085	1	1yr	1	2yr	0		1	2yr		
RW090	3	4yr	0		0		1	2yr		
RW109	2	1yr	2 cook	2yr	2 medicine	3yrs	2 cook +medicine	2yr		
RW120	1	1yr	1 cook	1yr	0		1 cook rice	3yr		
RW124	3		1 soup cook		0		0		1 rce steamer	
RW125	1		1 cook soup		0		2 boiling water			

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

付表 2b モー村の保有土器数と使用期間

世帯no	水カメ	age	モーケン	age
2	0		reg hun for keep charcoal, sm hun for boil fermented fish	1yr each
5	1	2yr	reg hun for keep charcoal	2yr
8	2	2yr,3yr	hun (rarely used	1yr
10	0		none	
11	1 keep fish	10yr made by mo	sm hun to keep charcoal	2yr
12	1	1yr	sm hun to keep charcoal	2yr
14	1	2yr	hun to keep charcoal	10yr
22	1	3yr	0	
24	2 water pot and keep fish	30yr,1yr	sm hun to keep charcoal	
25	0		reg hun to keep charcoal	?
27	1	over 30yrs	sm hun to keep charcoal	2yr
31	1	2yr	sm hun to keep charcoal	1yr
41	1	1yr	0	
52	1	3yr	reg hun to keep charcoal	3yr
55	2 water pot and keep fish	26yr,2yr	reg hun to keep charcoal	5yr
57	2	3yr,1yr	0	
63	1	2.5yr	0	
73	2 water pot and keep chua+fish	2yr,5yr	sm hun to keep charcoal	
74	1 keep fish	0.5yr	0	
79	0		reg hun to keep charchoal	2yr
80	1	2yr	0	
83	1	50yr	sm hun to keep charcoal	1yr
88	1	5yr	sm hun to keep charcoal	5yr
91	1	2yr	reg hun to keep charcoal	1yr
93	1	10yr	0	
99	1	3yr	reg hun to keep charcoal	old
100	2	10yr,3yr	0	
101	1	2yr	0	
102	1	10yr	reg hun to keep charcoal	1.5yr
105	1	0.5yr	0	
107	0		reg hun to keep charcoal	4yr
108	0		sm hun to keep charcoal	10yr
114	1	0.5yr	0	
117	2 dish-washing, and keeping fish	10yrs, 3yrs	0	
123	1	2yr	0	
137	2	3yr,2mo	0	
171	2 water pot, and keep fish	20yr,2yr	0	
178	0		reg hun to keep charcoal	0.5yr

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

付表3 ハンケオの成形記録(その1)

世帯no	年齢	乾季成形個数1	乾季成形個数2	乾季成形個数3	乾季平均個数	雨季成形個数1	雨季平均個数	1日平均個数(年間)	12月生産個数	8月生産個数	9月生産個数
1	43	nam20個/2日			10個 nam		不明	10個 nam	不明	8月は制作せず	9月は制作せず
42	55	keen12+nam25+ tom3個/3日			11.3個	n/a	不明	11.3個	12月上～中旬は製作しない?	n/a	n/a
48	47	keen12L+ nam20個/2日			16個	kao140+keen30+ nam20個/8日	10.63個	13.7個		8月 kao190+nam31+ tom14個 焼成	9月に2回以上 焼成(個数不明)
49	49	kao60+ keen36個/5日	nam30個/2日		11.14個	nam65個/7日	9.29個 nam	10.21個		8月に kao60+keen10+ nam126個焼成	
50	54	kao20L+ nam15+ tom15個/6日	kao20+keen2L+ nam40+ tom10個/6日	kao30+keen2L+ 4+tom10個/4日	8.81個		不明	8.81個		8月に keen6+nam34+ silver50 焼成	9月に3回焼成 (個数不明)
51	59				不明		不明			8月は nam13+15sm 焼成	制作しない
53	70				不明		不明			制作しない	製作しない
63	62	nam12個/1日			12個 nam	kao10+ nam30個/3日	11.67個	11.75個		8月に kao10+ nam30 焼成	個数不明
65	60		keen16+ nam10個/3日		6個	nam8個/日	8個 nam	6.5個		8月に keen16+nam30	個数不明
66	60	kao10+keen10+ nam30+ tom15個/7日	keen20+nam30+ tom10個/3日		10.5個		不明	10.5個		制作しない	1回のみ焼成 nam25+tom20
69	50	keen15L+ nam20個/3日	keen15L+ nam20個/3日	kao11+keen15L+ 25+nam20個/4日	12.3個	keen4L+nam88+ tom4個/5日	19.2個	14.6個		1回焼成 8月に keen4L+nam63+ tom4	個数不明
70	39		nam45個/3日		15個 nam	nam30個/3日	10個 nam	12.5個 nam	12月は成形するが焼成なし	8月に nam30個	2回以上焼成・ 個数不明
78	?				不明	keen13L+ nam52/5日	13個	13個	不明	8月は keen13+nam52	個数不明
81	48	nam30個/2日			15個 nam		不明	15個 nam		制作しない	制作しない
85	51	nam34個/3日			11.3個 nam	nam21個/2日	10.5個 nam	11個 nam		制作しない	9月末に 1回のみ焼成 keen50+ nam56個
89	?	n/a			不明	nam34+ kettle90個/11日	11.27個	11.27個	不明	8月に nam34+kettle90 個	個数不明
92	47	keen50+ kettle30個/6日	keen60個/3日		10.63個		不明	10.63個		制作しない	制作しない
97	62	kao70+ nam30個/3日	kao70+ nam30個/4日		18.57個		不明	18.57個		8月に1回焼成・ 個数不明	個数不明
100	62				制作せず		制作せず		制作せず	8月に1回のみ 焼成 nam45	2回焼成?・ 個数不明
105	66				制作せず		制作せず		12月は23日 に1回のみ焼成	8月は keen67+ nama48+ kettle25個	9月24日に 1回のみ焼成 keen10+ stove36
117	62				不明	keen5+ nama41個/9日	4.83個	4.83個	12月は成形するが焼成なし	8月に kao9+ keen5+nam41 個	9月に kao20+keen20+ nam10+tom33

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

付表3 ハンケオの成形記録(その2)

世帯no	年齢	乾季成形個数1	乾季成形個数2	乾季成形個数3	乾季平均個数	雨季成形個数1	雨季平均個数	1日平均個数(年間)	12月生産個数	8月生産個数	9月生産個数
119	?				不明	keen12+nam30+kettle12個/3日	16個	16個	不明	8月に keen12+nam30+kettle12	不明
121	50	keen20+tomyam50/4日	keen60+tomyam50/3日		12.86個	nam50sm+kettle28個/3日	17.7個	14.3個		8月は keen100+nam86+tomyam48	9月24日に1回のみ焼成 nam20+tomyam40
126	62		keen18+tom8+花瓶2個/4日		4.5個	kao10+keen10L+15+tom15個/5日	6.79個	5.95個		製作しない	4回焼成・個数不明
135	67	nam15+tom13個/2日			14個	keen5L+nam10+tom5個/2日	10個	12個		制作しない	個数不明
R011	47	kao40+keen20L+tom20個/3日	kao130個/4日		17.86個	kao120+keen40L+tom40個/6日	19.44個	19個		8月は kao224+keen76+12L+nam85+tom70 焼成	9月は個数不明
R051	67	kao70+nam15個/4日	nam30個/2日		13.33個	nam48個/3日	15.06個	14.63個		8月は3回以上焼成・個数不明	9月は4回焼成・個数不明
R053	69	110個/4日			13.75個 kao	kao180個/7日	12.31個	12.65個		四回(2日連続2回)焼成し kao320個	2回以上焼成・個数不明
R054	49	kao30+nam30個/2日	nam45個/3日		18個	フタ15個/2日	不明	18個		8月はフタ15個のみ	9月は25日に1回のみ焼成 tom110
R054 b	72	制作せず			制作せず		制作せず		制作せず	なし	なし
R055	75				不明		不明			8月は nam66個	1回以上焼成・個数不明
R114	65	nam40個/3日	nam40個/4日	keen26個/2日	10.33個		不明	10.33個		制作せず	不明
R122	51	special30個/3日			10個 special	tom60個/8日	9.08個	15.5個		7月後半から8月に tom96個焼成	9月に4回焼成・個数不明
RW024	53	kao90個/2日	keen44個/2日		16.75個	keen12L+35+nam32+tom10+kettle4個/7日	10.79個	12.95個		8月は keen20L+35+nam32+tom10+kettle4個	3回焼成・個数不明
RW035	45	nam24個/2日			12個 nam	nam36個/4日	9個 nam	10個 nam		8月は nam36個	9月個数不明
RW042	54	kao70+nam20個/3日	kao40+keen40+tom12個/3日	keen28+nam10+tom12個/2日	17.88個	kao50+tom20個/2日	22.5個	18.8個		8月は kao50+tom20個	不明
RW085	48	kao100+keen20個/4日	kao100+keen20個/4日	kao90+keen11個/3日	15.5個		不明	15.5個		8月制作せず	不明
RW090	70	tomyam40個/2日			20個 tomyam	kao25+keen15+nam40個/4日	10個	16.67個		8月は kao25+keen15+nam80+stove30個	不明
RW109	48	kao40+keen23+nam40+tom12個/5日			16.7個	kao10個/1日	5個 kao	14.75個		8月は kao10個のみ	不明
RW120	52	tom8+tomyam50個/3日			19.33個	keen32L+nam32個/4日	16個	17.42個	12月上~中旬は製作しない?	8月は keen32L+nam32	不明
RW124	50	?			不明	keen24+nam33+tomyam20個/6日	16個	16個	焼成なし	8月は keen24+nam33+tomyam20個	不明
RW125	53	2003年8月末以来制作せず			制作せず		制作せず	制作せず	制作せず	製作しない	製作しない

付表4a ハンケオの野焼き記録(その1)

世帯 no	年 令	12月の前回 焼成	12月焼成 2	12月1回 の焼成 総数	12月焼成回数	12焼成 回数 の類 型	雨季の 前々回 焼成	雨季の前焼成	8月焼成1	8月焼成2	8月焼成3	8月 焼成 4	9月焼成1	9月焼成2	9月焼成3	8月 焼成 回数	89 月焼 成 総数	1回焼 成 回数 +89 月	
1	43	Dec.15 (nam32)+ nam32	12月2日 keent20+nam50	62	1回以上焼成	1以上	n/a	雨季の 前々回 焼成	不明	8月27日 kao100個			9月5日 keent20+ nam20				0	62.0	
42	55	11月末 keent25+ tom32	1月4日	45	なし	なし	記録なし	n/a	不明	8月21日 kao30+nam20			9月5日 keent20+ nam20				0	45.0	
48	47	n/a	1月2日 keent20+nam50	60	週1回野焼き	週1回	8月中に4回野焼き。乾草が間に合わないため、次回に回す場が多い。9月は2回以上焼成。8月は翌日に成形することもあるが、9月は全て午後後に成形する。	8月5日 keent20+ nam11	不明	8月27日 kao100個		8月28日 kao40個	9月5日 keent20+ nam20	9月24日 keent20+ nam12+ 花冠30個			6	215	39.3
49	49	不明	12月20日 keent20+tom40	103	週1回野焼き(週1回)	週1回?	7月下旬から8月上旬まで農作業。8月中旬も農作業。8月に3回焼成。9月は2回焼成。8月も農作業。8月に1回のみ、9月は3回焼成。8月は翌日に焼き、9月は牛後に焼き	7月20日 July 20	8月11日 kao30+nam30	8月21日 kao30+ nam30	8月30日 nam60個		日程不明 kao60+nam60	9月25日 kao60+nam60	3回以上	5	341	63.4	
50	54	Dec.10 (keent10+ nam15+tom15)	12月17日 keent20+nam40+ tom10	102	週1回以上焼成	週1回?	7月末から8月上旬まで農作業。8月も断片的に農作業。8月は1回のみ、9月は3回焼成。8月は翌日に焼き、9月は牛後に焼き	7月末 July 27	8月24日 keent20+nam34+ m5+silver50	8月24日 keent20+ nam34+ m5+silver50		日程不明	日程不明	9月24日 keent8+ nam50+tom12	3回以上(週1回?)	3	208	62.0	
51	59	Dec.15 (nam15)	12月15日	15	12月15日以上焼成	1~2回	8・9月は製作しない	8月上旬 nam28+tom15	焼成なし			焼成なし		1回	1	43	29.0		
53	70	12月上旬 keent20+nam15		35	12月上旬以来	1回	5月末から9月まで製作しない	5月末 keent20+nam50	8月上旬1回のみ				焼成なし	1回	1	0	35.0		
63	62	Dec.11 keent20+nam30	12月18日 keent20+nam30	112	週1回以上焼成	週1回?	8月末から製作開始。8月末に1回焼成。9月は不明	n/a	8月31日 kao10+nam30	8月31日 kao10+nam30		不明	不明		なし	1	35	36.8	
65	60	Dec.4 keent30+nam30	12月28日 keent30+nam30	90	12月28日以上焼成	2回?	8月下旬から製作開始。9月は不明	n/a	7月末 keent16+nam30			不明	不明	9月25日 nam25+tom20	なし	1	45	50.0	
66	60	3 fingers in Dec.	21:30の音 keent15+nam20	55	12月は3回焼成	3回	7月後半から9月下旬まで土器を作らない	July nam45	焼成なし				9月3日					42.7	
69	50	Dec.14 keent15+ nam20	12月18日 keent15+nam20	105	焼成は4日、12月は4回以上焼成	週1回以上	7月上旬から8月下旬まで土器を作らない。8月は2回焼成。9月は野焼きを焼成。9月の焼成は不明	early July	8月23日 (先月の土器 keent15+ nam25+tom15)	8月23日 keent15+ nam25+tom15			9月27日 keent25+nam30	2回以上	2	110	43.0		
70	39	mid Nov. (nam70)	12月18日 keent15+nam20	70	11月中旬以降、野焼きなし。成形は継続し。成形は継続	なし	7月末から8月末まで製作しない。9月の製作回数不明	July nam60	焼成なし				9月24日 nam70	2回以上	2	140	70.0		
78	?			0	不明	不明	7月上旬から8月末まで製作しない。9月の製作回数不明	6月上旬 nam60	6月上旬 nam60				不明	なし	0	0			
81	48	n/a	1月1日 keent30+nam30	45	不明。1月1日に焼成	不明	6月末以来、9月末まで製作しない?	6月末 keent30+keent30+ nam60	焼成なし			焼成なし		なし	なし	0	45.0		
85	51		12月27日 nam50	50	週1回野焼き? 12月27日に焼成。初から成形	週1回?	6月末から9月下旬まで製作しない	6月末 keent30+nam30	焼成なし				9月23日 keent30+nam55				1	60	55.0
89	?			0	不明	不明	7月から8月15日まで製作しない。9月の製作回数不明	July (keent12+keent6)	8月29日 nam22+keent20	8月29日 nam22+keent20		不明	不明	1回	1	32	32.0		
92	47	date unknown kao100+keent50	12月17日 keent30+keent50	175	週1回以上	週1回	7月上旬以来、手の磨きのため作らない	July 7 (keent12+keent6)	焼成なし			焼成なし		なし	なし	0	58.3		
97	62	Dec.15 (keent30+nam30)	12月25日 keent70+ nam30	195	週1回以上焼成	週1回	7月中旬から8月下旬まで製作しない。8月には不明	n/a	1回のみ 日にち不明			不明	不明	1回	不明	0	65.0		
100	62		焼成なし	0	11~12月は土器作らない	なし	7月中旬から8月下旬まで製作しない。8月下旬に1回は2回焼成?	mid July (keent20+nam45)	8月26日 nam45			9月13日 nam45	1回2回?	2	90	45.0			
105	66		12月23日 keent30+keent30+na m10+keent15	48	12月は1回のみ(23日)焼成	1回	7月中旬から8月14日まで製作しない。8月は1回のみの焼成。9月はひび割れのため24日まで製作しない。9月末に1~2回焼成	July 22 (keent40+keent30+ nam12+keent63 nam22+keent40)	8月23日 keent40+keent30+ nam12+keent63			9月24日 nam20	1回以上	2	82	43.3			

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

付表 4a ハンケオの野焼き記録 (その2)

117	62	Nov.	焼成なし	12月19日 keent20+tom50 個	12月21日 kao70 nam15 個	0	11月以迄焼成なし。成形は雑	なし	7月未から8月15日まで制作しない。8月に2回焼成。9月に2回焼成。	end of July (tom 34)	8月21日 keent12+nam30+kettle12 個	8月30日 keent12+nam30+kettle12 個		9月26日 keent13+nam11+tom15	2回 2回	3	101	33.7
119	?		不明			0	不明	不明	6月未から8月下旬まで制作しない。8月下旬に1回焼成。9月の制作個数不明	early June (nam35)	8月29日 keent12+nam30+kettle12 個			不明	1回 不明	2	42	21.0
121	50	Dec.14 (Sukertle)	焼成なし	12月19日 keent20+tom50 個	12月21日 kao70 nam15 個	85	週1回焼成	週1回?	8月は3回焼成したが、9月は病気のため下旬まで制作せず。焼成は下旬に1回ののみ	29-Jul	8月22日 keent44+tom36 個	8月30日 keent44+tom36 個	8月24日 tom50+tom50 個	9月24日 keent15+tom15 個	3回 (病状)	4	200	40.7
126	62	twice/ mo	不明	12月17日 tom10+flower20	12月22日 kao70 nam15 個	30	週2回焼成	2回	6月未から8月31日まで制作しない。9月は4回焼成。9月は毎日叩きを行うことが多い	end of June keent10+keent30+tom10	焼成なし			なし	週1回	1	32	31.0
135	67		不明	12月27日 nam25+tom25	12月21日 kao70 nam15 個	50	不明(1回以上)	不明	7月から8月31日まで制作しない。9月の焼成個数不明	July (nam60)	焼成なし			不明	なし 不明	0	50.0	
R011	47	Nov.20 keent20+tom20	不明	12月21日 keent20+tom20 130 個	12月21日 kao70 nam15 個	175	月5回程度野焼き	週1回以上	8月は4回焼成。9月は1回以上焼成。翌日に叩き成形することあり	Aug.5 (kao20+keent40L+tom40)	9月15日 keent20+tom20+tom50 個	9月15日 keent20+tom20+tom50 個	9月15日 keent20+tom20+tom50 個	週1回以上	2	193	73.6	
R051	67		不明	12月21日 kao70 nam15 個	12月22日 kao70 nam15 個	50	週1回程度、2日に分けて?焼成	週1回?	8月は2回以上(おろらく3~4回)焼成。9月は3回焼成。個数不明	n/a				9月19日 keent20+keent30+nam60 個	週1回?	2	139	47.3
R053	69		不明	12月17日 kao70 nam15 個	12月22日 kao70 nam15 個	110	週3回?	3回	5月中旬から8月11日まで制作のため制作せず。2日連続で焼成すること多い	5月中旬から3ヶ月制作しない	8月21日 kao100 個	8月22日 kao80 個	8月29日 kao140 個	9月25日 kao80 個	2回以上(週1回?)	5	240	50.0
R054	49	Dec.14 (nam36+tom10)	不明	12月18日 keent20+tom20 個	12月21日 keent20+tom20 個	135	月5回野焼き?	週1回以上	5月から8月24日まで制作せず。8月は1回ののみ焼成。9月は1回以上焼成	March (nam30)	8月27日 7ヶ 15 個			9月25日 tom110 個	1回以上	1	110	61.3
R054	72	Oct (30kao +5tom)	不明	12月25日 keent20+tom20 個	12月25日 keent20+tom20 個	90	11・12月は制作せず	なし	引退?		焼成なし			焼成なし	なし なし	0	45.0	
R055	75		不明	12月25日 keent20+tom20 個	12月25日 keent20+tom20 個	68	不明(1回以上)	不明	6月上旬から8月未まで制作しない。9月は1回以上焼成・個数不明	6月上旬 keent20+tom20	焼成なし			9月18日 keent20+tom15 個	1回以上	1	65	66.5
R114	65	Dec.10 (nam40)	不明	12月20日 keent20+tom20 個	12月24日 keent20+tom20 個	120	12月は3回以上焼成	週1回?	4月上旬以降、9月上旬まで制作せず(高熱のため)。9月は不明	4月上旬 keent25L+25+nam51	焼成なし			不明	なし 不明	0	40.0	
R122	51	日曜不明2	不明	12月19日 special 70	12月24日 special 46	116	週1回以上??	週1回以上	8月は4回焼成(うち3回は連続)。9月は4回焼成	July tom20	8月21日 tom24 個	8月24日 tom24 個	8月25日 tom24 個	9月23日 tom50 個	週1回	5	146	37.4
RW024	53		不明	12月25日 tom30	12月29日 keent100+keent20 個	109	不明(2回以上)	2回以上	7月から8月24日まで制作しない。8月は31日に1回焼成。9月は3回焼成・個数不明	July keent50	8月31日 keent20+tom10 個			9月25日 keent30+tom20 個	3回以上(週1回?)	2	77	46.5
RW035	45		不明	12月26日 keent20 個	12月26日 keent20 個	67	不明(2回以上)	2回以上	6月未から8月25日まで制作しない。9月不明	end of June nam60	焼成なし			不明	なし 不明	0	33.5	
RW042	54		不明	12月17・18日 keent20+tom20 個	12月22日 keent20+tom20 個	204	月7回焼成	週1回以上	7月から8月27日まで制作しない。8月未に1回焼成。9月不明	n/a	8月30日 keent50+tom20 個			不明	1回 不明	1	46	50.0
RW085	48		不明	12月25日 keent20+tom20 個	12月25日 keent20+tom20 個	240	月6回焼成	週1回以上	7月から9月上旬まで制作せず。9月不明	July 5 keent20	焼成なし			不明	なし 不明	0	60.0	
RW090	70		不明	1月2日 tom50 個	12月30日 keent20+tom20 個	50	月4~5回焼成	週1回以上	8月上旬から23日まで制作せず。8月は2回焼成。9月は不明	early Aug. (nam40sm)	8月28日 keent15+tom40 個			不明	2回 不明	2	100	50.0
RW109	48	不明	不明	12月25日 keent20 個	12月30日 keent20 個	130	12月下旬に4回焼成(うち3回は連続)	週1回以上	6月上旬から8月未まで制作しない。9月不明	early June	焼成なし			不明	なし 不明	0	32.5	
RW120	52	Nov	不明	12月25日 keent25+tom20 個	12月29日 keent25+tom20 個	77	12月は25月上旬に2回焼成	2回	7月から8月24日まで制作しない。8月未に1回焼成。9月は不明	July (keent16L+nam45)	8月28日 keent16L+nam32 個			不明	1回 不明	1	48	41.7
RW124	50	Nov	不明	1月2日 tom50+stove100 個	1月2日 tom50+stove100 個	75	12月は焼成なし。1月初に焼成	なし	6月から8月22日まで制作しない。8月は1回焼成。9月不明	June keent20L	8月27日 keent24+nam33 個			不明	1回 不明	1	45	60.0
RW125	53	end of Aug.	不明	焼成なし	焼成なし		最後の焼成は8月末	なし	昨年から制作しない(孫の育児)	焼成なし	焼成なし			焼成なし	なし なし	1	0	0.0

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

付表 4b モー村の野焼き記録 (その1)

世帯 no	年 令	野 焼 き 回 数 の 後 の 回 数	1st fire	2nd fire	3rd fire	4th fire	5th fire	焼成され た土器	焼成されてい ない土器	水甕	小型 鍋	大型鍋 サオ ロー	トム ヤム	その他	製作総 数	生産規 模類型	単位期間中の成形 個数	1日当 り成形 個数	1日 当り成形 個数 類型
2	54	3	mid Dec	Dec.30	Jan.10?			nam150, hun100	hun200	150	300				300	400 未満	nam22+keen175/ 11days	9.95	under 10
5	50	4	Nov/ Dec.	Dec.19?	Dec.30	Jan.08		nam220, hun130, sao100	hun50	220	180	100			385	400 未満	nam84+sao70+ keen160/13days	16.65	over 15
8	35	3	Nov/ Dec.	mid Dec.	Dec.29			nam240, sai60	none	240		60			360	400 未満	nam108+sao45/ 11days	12.85	under 15
10	50	nofire	no firing						hun180,sao77		180	77			148	250 未満	sao77 /4days	14.5	under 15
11	48	1	Dec.26					hun200, sao100	nam55,sao45	55	200	145			367.5	400 未満	nam53+ keen180 +sao63 /13days	14.6	under 15
12	43	2	Dec.28	Jan.11?				nam40, hun20, sao20, set20	nam27, kratang17, set30	84	20	20	50		102.5	250 未満	nam90+sao20+ keen20+ tomyam50 /12days	9.8	under 10
14	42	nofire	no firing						nam140	140					140	250 未満	nam140 /15days	9.36	under 10
19	53	?	?					nam40, hun150	none	40	150				115	250 未満		0	
22	60	5	Nov	Nov/Dec	Dec	Dec.20	Dec.30	nam170, hun300, sao24	sao145	170	300	169			447.5	400 以上	nam60+sao170/ 15days	12.5	under 15
24	50	2	early Dec	Dec.25				nam60	nam20	80					80	100 未満	nam50/ 5days	10	under 12
25	33	nofire	no firing						nam148	148					148	250 未満	nam150 /13days	11.55	under 12
31	38	2	early Dec	Dec.27				nam150	nam55	205					205	250 未満	nam105 /8days	13.15	under 15
41	54	2	Oct/Nov	Dec.02				vase400	hun100		100			vase400	250	250 未満	keen 100 /3days	16.65	over 15
52	43	4	Dec.21	Dec.31	Jan.06	Jan.7 fountain		hun700	hun100		800				400	400 以上	keen304 /8days	19	over 15
57	50	3	Nov/Dec	Dec.27	Jan.05		?	nam200, sao130	nam27,sao60	227		190			370	400 未満	nam 177+sao60/ 14days	15.85	over 15
63	60	yet	mid Oct	End of Oct				yet	yet	0					0	yet	keen 106 /4days	13.25	under 15
73	47	1	Dec.30					nam113	none	113					113	250 未満	nam 96/ 8days	12	under 15
74	30	2	Dec.15	Dec.29				nam226	nam40	266					266	400 未満	nam138 /13days	6.75	under 10
79	45	nofire	no firing					(nam40, hun152)	nam20, hun120, sao13	60	272	13			143	250 未満	nam30+keen150 +sao13 /9days	12.8	under 15

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

付表 4b モー村の野焼き記録 (その2)

世帯 no	年 令	野 焼 き 回 数 の 後	1st fire	2nd fire	3rd fire	4th fire	5th fire	焼成され た土器	焼成されてい ない土器	水甕	小型 鍋	大型鍋 サオ ロー	トム ヤム	その他	製作総 数	生産規 模類型	単位期間中の成形 個数	1日当 り成形 個数	1日 当り 成形 個数 類型
80	60	yet	(April 2006					none	none						0	yet		0	
83	56	nofire	no firing					hun100	keen120		220				110	250 未満	keen 120 /3days	20	over20
88	60	nofire	no firing					hun70			70				35	100 未満	keen69 /3days	11.5	under 12
91	53	3	Dec.17	Dec.26	Jan.08			nam70, hun50, sao60	none	70	50	60			137.5	250 未満	nam50+kenn20 +sao10 /9days	7.5	under 10
93	51	nofire	no firing					nam6		6					6	100 未満		0	
99	64	2small	Dec. in their yard.	Dec.30 in their yard				nam5, sao7, set17	hun75	5	75	7	17		56	100 未満	keen 188+nam5 +tomyam 4+chicken towel warmer 2 /12days	8.4	under 10
100	54	yet	yet					none							0	yet		0	
102	56	3	end of Nov	early Dec	mid Dec			hun650	hun40		690				345	400 未満		0	
105	51	2	Dec.10?	Dec.26				nam150, hun142, sao25	nam94	244	142	25			333.5	400 未満	nam90+sao12 +keen60 /13days	8.2	under 10
107	48	2	Nov/Dec	Dec.30				nam200, sao130	nam154	354		130			454.5	400 以上	nam254 /18days	14.1	under 15
108	53	yet	just started					nam40		40					40	100 未満	nam40 /4days	10	under 12
114	40	1	Dec.28					hun500	hun300		800				400	400 以上	keen 700 /15days	23.35	over20
117	41	3	Dec.19	Dec.30	Jan.04			hun710	hun140		850				425	400 以上	keen 315 /10days	15.75	over 15
123	46	3	end of Nov	Dec.17	Jan.03			nam85, hun650	hun150,sao25	85	800	25			503.5	400 以上	nam94+sao25 +keen150 /11days	17.05	over 15
137	44	1	Dec.28					nam100	nam50	150					150	250 未満	nam138/ 11days	12.55	under 15
171	40	2	Dec.20	Jan.08				nam75, hun100	nam122	197	100				250	400 未満	167nam /16days	10.45	under 12
178	34	1	Jan.04					nam126	none	126					126	250 未満	nam117 /9days	13	under 15

小林 正史・徳澤 啓一・長友 朋子・北野 博司

付表5a モー村の野焼き観察事例と聞き取り事例(その1)

世帯	日にち	野焼き順番	計量が聞き取りか	世帯ごとの焼成個数	小型を0.5とした個数	水壺	水壺大型	モーケン	大型鍋	その他	薪の重量 kg	薪重量の推定方法	枯れ枝重量 kg	稲藁束数	稲藁重量 kg	稲藁重量の推定方法	燃料セット	点火	取り出し	薪入手方法	稲藁入手方法	販売			
2	early Dec	1st	聞き取り	nam150, hun100	100	50		50+50			120?	1wheel (10kg bundle costs 10bahts)		15	120?			5am		buy	buy	order from outside (Roiet) trader King			
	Dec30	2nd	計量		105	100					4kettle, 5花瓶	128	measure (15.4kg/bundle) =1wheel	7.5	15	116	7.7kg/bundle		2pm		buy	buy	order from outside trader King		
5	Dec/Nov	1st	聞き取り	nam220, hun130, sao100	68		30	30	30		?	2wheels		15					noon	1pm	self	self	order from outside (Roiet) trader King		
	Dec20	2nd	聞き取り		70	40			20+40			?	2wheels		20						self	self	order from outside (Roiet) trader King		
	Dec30	3rd	計量		118	40	40			50		?	upper layer 54pcs		20	140	bundle	12/29 afternoon	6am	11am	self	self	directly to consumer in Wapi, Payak villages		
	Jan08	4th	takeout		102	13	54	40	20			200?	2 wheels	?	19	140	bundles	1/7 afternoon	early mo	10am	collected from roadside	self	self	directly to consumer in Wapi, Payak villages	
8	Nov./Dec	1st	聞き取り	nam240, sao60	100		100				?	1.5wheel		16							self	self			
	mid Dec	2nd	聞き取り		100	100						?	1.25wheel		18							self	self		
	Dec29	3rd	計量		85	40			60			145?	73pcs (40kg/20pcs)	?	22	154	bundle	12/28 evening	6am	9:30am	self	self	order from Boribuli		
11	Dec26	1st	聞き取り	hun200, sao100	175			200	100		?	3wheels (360bahts worth)		18					early mo		self	self	order from H29trader		
12	Dec28	1st	計量	nam40, hun20, sao20, set20	74	39		20	20	20 tomyamset	200?	bundle	?	20	140	bundle			1:37pm		self	buy	Husband is a trader. Order from Roiet		
19	Dec28	?	聞き取り	nam40, hun150	90	40		100												?	self				
	Jan07	?	聞き取り		26			52													?	self	small scale firing		
22	Nov?	2nd after harvest	聞き取り	nam170, hun300, sao24	60	60					?	?		?								self	self	?	
	Dec	3rd	聞き取り		50	50						?	?		?								self	self	?
	Dec20	4th	聞き取り		150				300			?	1.5wheel		8							self	self	order from trader H29 (hauling)	
	Dec30	5th	計量		78	30	30		24			80	measure	9	18	145	measure	12/29 afternoon	6am		collected from downtown	own field	by order and sell directly to consumer		
24	early Dec	1st	聞き取り	nam60	30	30					?	?		?							?	buy	Husband is a trader, and sell directly to consumers		
	Dec25	2nd	聞き取り		30	30						?	0.5wheel		14				7am		?	buy	Husband is a trader, and sell directly to consumers		
29	Dec29	?	計量	bn130, hun100	116	116					240?	2wheels (240bahts worth)	?	30	210	30 bundles		12/28 evening	6am	10am	self	self			
	Dec27	?	計量		63	13		100			103	measure 13.7kg/bundle	7.3	10	75	7.5kg/bundle		4:20pm			self	self			
31	early Dec	1st	聞き取り	nam150	70	70					110?	1.8wheel		20	150?				5pm	next morning	self	buy	order from trader H29		
	Dec27	2nd	計量		80	80					120?	measure upper layer. 11.7kg/bundle. =2wheels	?	20	150			3:05pm	4:45pm	self	Mid layer is bamboo only	buy	order from trader H29		
41	Oct./Nov	1st	聞き取り	vase400						花瓶	?			?							buy	buy	order from school		
	Dec05	2nd	聞き取り		100						花瓶	?	Use part of 8 bundles (40bahts/bundle) 320kg (still left)		20?	140					buy	320kg wood (8 large bundles)	buy	order from school	
52	Dec21	1st	聞き取り	hun700	150			300			?	1wheel		15				previous evening	6am	1pm	self	self	order from trader H29		
	Dec31	2nd	聞き取り		100			200														self	self	order from trader H29	
	Jan06	3rd	聞き取り		100			200														self	self	order from trader H29	

北タイと東北タイの土器生産様式の違いを生み出した背景

付表 5a モー村の野焼き観察事例と聞き取り事例 (その2)

世帯	日	野焼き 順番	計量か 聞き取 りか	世帯ごとの 焼成個数	小型を した個 数	水壩	水壩大 型	モーケ ン	大型 鍋	その他	薪の重 量 kg	薪重量の 推定方法	枯れ枝 重量 kg	稲藁束 数	稲藁重 量 kg	稲藁重 量の推 定方法	燃料セット	点火	取り出 し	薪入手 方法	稲藁入 手方法	販売
57	Nov/ Dec	1st	聞き取 り		50	50					?	2wheels		25			previous evening	5:30am		self	buy	order
	Dec27	2nd	聞き取 り	nam200, sao130	119	21			130		?	2wheels		20			previous evening	5:30am	morning	self	buy	order from KhonKaen trader John
	Jan05	3rd	計量		127	127					?	200bahts worth	?	30	270	9.3kg/ bundle		4:27pm		collected by hus	buy	order from trader H29
63	End of Oct	?	聞き取 り		150			300			?	1.5wheel		25			8am	1pm	翌朝	buy	self	order from trader H29
	mid Oct.	?	聞き取 り	hun500	100			200			?	1wheel		20			8am	1pm	翌朝	buy	self	order from trader H29
73	Dec30	1st	聞き取 り	nam113	113	113					200?	2wheels		24	150?		previous evening	6am	8am	self	self	order from trader H29
74	Dec15	1st	聞き取 り		120	120					150?	1.5wheel		20	140		previous evening	6am	11am	self	self	order from trader H29
	Dec29	2nd	聞き取 り	nam226	106		106				200?	2wheels		30	210			6am		self	self	sell to H22 Pikun (relative)
91	Jan08	?	計量		38	20	10		10		?	? Hus collected	?	15	96	6.4kg/ bundle	1/7afternoon	2:30pm		collected from roadside	buy	
	Dec26	?	計量	nam70, hun50, sao60	65	20	20	50			126	measure 8kg/ bundle	9	18	122	6.4kg/ bundle		2:30pm		self	buy	
	Dec17	?	聞き取 り		38				50					12						self	buy	
99	Dec30	?	計量	nam5, sao7, set17	10	5				tomyamset 5, chicken towel warmer 4	20?	23 pieces	?		23		4pm	4:50pm		buy	self	?
	Dec?	?	聞き取 り		10			7		tomyamset 12	?				?					buy	self	Normally sell unfired pots
102	End of Nov.	1st	聞き取 り		150			300			?	2.5 Wheels		10			7am	noon	3pm	self	buy	order from trader H29
	early Dec	2nd	聞き取 り	hun650	100			200			?	2 wheels		8			7am	noon	3pm	self	buy	order from trader H29
	Dec20?	3rd	聞き取 り		75			150			?	1.5 wheel		7			7am	noon	3pm	self	buy	order from trader H29
105	Dec10?	1st	聞き取 り	nam150, hun142, sao25	105	90	30				?	1.5wheel		30				9am	3pm	?	self	order from King (sell in Roiet)
	Dec26	2nd	set fuel		135	60	112	25			?	10bundles		?	?		12/25 evening	mo		?	self	
107	Dec/ Nov	1st	聞き取 り	nam200, sao130	100	100					?	2wheels		30	240?		6am	noon	翌朝	self	self	order from trader H29
	Dec30	2nd	計量		100	100					?	2wheels	?	30	240	8.1kg/ bundle	12/29 afternoon	1pm		collect near their land	own field	order from trader H29
114	Dec29	1st	set fuel		250			500			251	measure 25kg/ bundle= 2wheels	50.7	20	140	7kg/ bundle	12/28 afternoon	6am	11am	buy	self	order from H136 Boonmee
	Dec31	2nd	計量	hun500					cover 300	60?	0.5wheel	?	3	21?				3:30pm		buy	self	order from H136 Boonmee
117	Dec19	1st	聞き取 り		150			300			?	1wheel		12			previous evening	5am	11am	self	self	order from trader H29
	Dec30	2nd	聞き取 り	hun710	104			208			?	?		?				afternoon		self	self	order from trader H29
	Jan04	3rd	聞き取 り		100			200			?	?		?						self	self	order from trader H29
123	End of Nov.	1st	聞き取 り		225			450			?	2wheels		25			previous evening	morning		buy	self	order from trader H29
	Dec17	2nd	聞き取 り	nam85, hun650	100			200			?	?		?			previous evening	morning		buy	self	order from trader H29
	Jan03	3rd	計量		43	85					120?	1wheel 120bahts	16	13	93.6	7.2kg/ bundle		4pm	翌朝	buy	self	order from trader H29
137	Dec28	1st	聞き取 り	nam100	100		100				240?	2wheels 240bahts		30	210?		11am	1pm	4pm	self?	self	order from H136 Boonmee
171	Dec20	1st	聞き取 り		75	75					?	2wheels		25			2am	4am	8am	self	buy	Husband Dong sells
	Jan08	2nd	計量	nam75, hun100	50			100			?	?		7	50?			3:45pm		self	buy	Husband sells to Kalasin potshop
178	Jan04	1st	計量	nam126	126	126					260	measure	35	34	220	6.6kg/ bundle	previous evening	8am	4pm	?	self	order from outside trader

付表5b ハンケオの野焼き観察事例

世帯	日にち	計量 か聞き取りか	焼成規模	個小型を 0.5とした	水甕	モーケン	大型鍋	その他	薪の重量 kg	薪重量の 推定方法	竹の重量 kg	稲藁束数	稲藁重量 kg	燃料セット	点火	取り出し	地面にイネ藁を敷く かどうか
121	2004 Dec.23	計量	中	50				tomyamset 50	11	measure	14kg		12.1kg		3pm		ash only
R051	2004 Dec.30	計量	大	76	76				?		?		?		1:40pm?	?	ash only
049	2005 21-Aug	計量	中	59	34	Kao 30	Ken large 10		none	none	5plastic bags (25kg?)	5	15kg		9am	4pm	ash -> rice straw
069	2005 2-Sep	計量	大	84	64 +sm12		keenL 4 +tom4		29.2kg	measure	11.6kg	13 (2.6kg each)	33.8kg		1:17pm	?	ash only
	2005 27-Sep	計量	中	34		keen 20	keenL 24		25	measure	20kg	8 (3kg each)	24kg	2pm	2:30pm	翌朝	ash only (5 moTom amount)
092	2005 Aug.21	計量		56		kao 112			none	none	??	4	12kg?		11am	evening?	ash only
117	2005 Aug.20	計量	小	39	33	Kao 12			none	none	4 plastic bags (20kg?)	9	23.4kg		2pm		ash -> rice straw
	2005 Aug.21	計量	小 est	12	9	Ken 1+Kao 2	Tom 再焼 成 1		11 kg	measure	3 kg	11 sm	22kg?		4pm	翌朝	ash -> rice straw
121	2005 Aug.22	計量	中	60	33	Ken 53		Nam Mini4	11.3kg	measure	18.3kg	10	23kg	12:30	1:15pm	翌朝	ash +tin sheet partial
R011	2005 Aug.21	計量	大	82	60	Kao4+ Ken 36	Large keen2		32.8kg	measure 1.22.1kg+ S10.7kg	12.2kg	12	29.7kg		1:30pm		ash only 24kg
R051	2005 Aug.22	計量	大	114	64	Kao54 +ken 55			4kg?	3 rows (little)	less than 15kg	12	30kg		11:30am	翌朝	ash only
R053	2005 Aug.21	計量	小	50		Kao 100			none	none	? Kg in stick	5	16kg		11am	afternoon	ash -> rice straw
	2005 Aug.22	計量	小	40		Kao 80 (10再 焼成)			none	none	? Kg in stick	5 (3.2kg each)	16kg		10am	afternoon	ash -> rice straw
R122	2005 Aug.21	計量	中	25			tom 25		?_kg	lamyai+ palm tree	_kg	6	18kg		11:30am	翌朝	ash only on cemented floor